

(様式第 10)

千大院サ第 981 号
令和

厚生労働大臣

殿

国立大学法人千葉大学
徳久剛

千葉大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
氏 名	国立大学法人千葉大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

千葉大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒260-8677 千葉市中央区亥鼻1-8-1	電話(043)222-7171
-------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
5神経内科	⑥血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
⑨感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
①呼吸器外科 2消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1糖尿病・代謝・内分泌・老年内科 2腫瘍内科 3食道・胃腸外科 4肝臓・胆のう・膵臓外科 5心療内科 6リハビリテーション科 7脳神経内科 8形成外科 9頭頸部耳鼻いんこう科 10病理診断科 11歯科口腔外科 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
45床	5床	0床	0床	800床	850床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	257人	597人	637.5人	看 護 補 助 者	82人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	7人	26人	27.3人	理 学 療 法 士	26人	臨床検査技師	81人
薬 剤 師	56人	26人	77.4人	作 業 療 法 士	11人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	1人	0.6人	視 能 訓 練 士	7人	そ の 他	0人
助 産 師	48人	0人	48.0人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	3人
看 護 師	927人	23人	943.7人	臨 床 工 学 士	18人	医療社会事業従事者	15人
准 看 護 師	0人	1人	1.0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	137人
歯科衛生士	1人	3人	4.0人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	353人
管理栄養士	6人	7人	13.0人	診療放射線技師	51人	そ の 他 の 職 員	8人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	66人	眼 科 専 門 医	11人
外 科 専 門 医	67人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	11人
精 神 科 専 門 医	11人	放 射 線 科 専 門 医	17人
小 児 科 専 門 医	19人	脳 神 経 外 科 専 門 医	11人
皮 膚 科 専 門 医	8人	整 形 外 科 専 門 医	19人
泌 尿 器 科 専 門 医	11人	麻 醉 科 専 門 医	17人
産 婦 人 科 専 門 医	19人	救 急 科 専 門 医	15人
		合 計	302人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (横手 幸太郎) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

令和2年4月1日就任前

・医療の質・安全管理委員会委員 (平成23年4月1日～平成26年3月31日、平成29年4月1日～令和2年3月31日)

令和2年4月1日就任後

・医療の質・安全管理委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	663人	13人	676人
1日当たり平均外来患者数	2,114人	104人	2,218人
1日当たり平均調剤数		入院：990剤	外来：36剤
必要医師数			189人
必要歯科医師数			7人
必要薬剤師数			23人
必要（准）看護師数			412人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	心電計	人工呼吸装置	心細動除去装置
集中治療室	374.75m ²	鉄筋コンクリート	22床	(有)・無	(有)・無	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 507m ² [移動式の場合] 台数 2台		病床数	42床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 85.71m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	403m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体搬送システム、生化学用自動分析装置、化学発光法測定装置、酵素免疫法測定装置、血液ガス分析装置、HbA1c分析装置、赤血球沈降速度分析装置、電気泳動分析装置、超低温保冷庫(ディープフリーザー)			
細菌検査室	80m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 細菌同定・薬剤感受性分析装置、抗酸菌培養検査装置、自動染色装置、血液培養自動分析装置、細菌同定用質量分析装置、顕微鏡(蛍光を含む)、安全キャビネット			
病理検査室	408m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動包埋装置、組織切片薄切装置、自動染色装置、自動免疫染色装置、凍結切片薄切装置、パラフィン包埋機			
病理解剖室	74m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、切出台、固定槽、撮影装置			
研究室	718m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン、近赤外光イメージング装置、脳波計等			
講義室	736.01m ²	鉄筋コンクリート	室数	4室	収容定員	504人
図書室	172.5m ²	鉄筋コンクリート	室数	5室	蔵書数	17,150冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	86.3%	逆紹介率	91.0%
算出根拠	A：紹介患者の数		19,990人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		23,535人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		2,326人
	D：初診の患者の数		25,869人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮坂 信之	東京医科歯科大学名誉教授	○	医療安全識見者 かつ病院管理経験者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
花輪 正明	塩野義製薬株式会社薬事部長		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3
藤原 康弘	独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3
東宮 秀夫	一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団研修事業本部長		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3
宗像 令夫	独立行政法人中小企業基盤整備機構関東本部千葉大亥鼻イノベーションプラザチーフインキュベーションマネージャー		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3
中谷 晴昭	千葉大学理事		医療及び臨床研究に関する学識経験者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
後藤 弘子	千葉大学大学院社会科学研究院教授		法律学専門家	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
<p>公表の方法 本学ホームページ及び本院ホームページにて、設置規程及び委員名簿（選定理由についても記載有）、監査結果報告書を掲載している。</p>	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	22	56	ベーチェット病	172
2	筋萎縮性側索硬化症	59	57	特発性拡張型心筋症	88
3	脊髄性筋萎縮症	11	58	肥大型心筋症	135
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	3
5	進行性核上性麻痺	16	60	再生不良性貧血	54
6	パーキンソン病	346	61	自己免疫性溶血性貧血	15
7	大脳皮質基底核変性症	13	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	8	63	特発性血小板減少性紫斑病	155
9	神経有棘赤血球症	1	64	血栓性血小板減少性紫斑病	5
10	シャルコー・マリー・トゥース病	34	65	原発性免疫不全症候群	33
11	重症筋無力症	402	66	IgA腎症	70
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	48
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	351	68	黄色靑帯骨化症	30
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	92	69	後縦靑帯骨化症	252
15	封入体筋炎	12	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クロー・深瀬症候群	54	71	特発性大腿骨頭壊死症	35
17	多系統萎縮症	57	72	下垂体性ADH分泌異常症	37
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	121	73	下垂体性TSH分泌亢進症	4
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	53
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	23
21	ミトコンドリア病	11	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	21
22	もやもや病	60	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	81
23	プリオン病	6	78	下垂体前葉機能低下症	127
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	2	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	10
27	特発性基底核石灰化症	4	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	5	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	385
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	118
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	152
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	93
34	神経線維腫症	50	89	リンパ脈管筋腫症	9
35	天疱瘡	51	90	網膜色素変性症	538
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	19	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	11	93	原発性胆汁性肝硬変	131
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	26
40	高安動脈炎	60	95	自己免疫性肝炎	112
41	巨細胞性動脈炎	25	96	クローン病	185
42	結節性多発動脈炎	18	97	潰瘍性大腸炎	435
43	顕微鏡的多発血管炎	73	98	好酸球性消化管疾患	22
44	多発血管炎性肉芽腫症	27	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	29	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	38	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャール病	16	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	495	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	181	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	140	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	54	107	全身型若年性特発性関節炎	10
53	シェーグレン症候群	278	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人ステル病	11	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	9	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	12	161	家族性良性慢性天疱瘡	3
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	89
113	筋ジストロフィー	60	163	特発性後天性全身性無汗症	11
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	2	164	眼皮膚白皮症	2
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜炎	1
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	4
117	脊髄空洞症	49	167	マルファン症候群	16
118	脊髄髄膜瘤	2	168	エーラス・ダンロス症候群	6
119	アイザックス症候群	2	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	4	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	2	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	1
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	13	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	10
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	9
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	4
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	1
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	3	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1	191	ウェルナー症候群	18
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	2
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	11	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	2
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マジニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	2	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	4	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	19	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬	6	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	10	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	4	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	2
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	34
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	17	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	18	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	16
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	2
227	オスラー病	38	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	6	276	軟骨無形成症	5
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	3	277	リンパ管腫症/ゴーム病	2
230	肺胞低換気症候群	7	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	7
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	12	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	4	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	3
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	19	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	3
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	3
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	2
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	20
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	24
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	2
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	87
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	13
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	1
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	8

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	1	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	2
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	3
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	病棟薬剤業務実施加算1
歯科外来診療環境体制加算2	病棟薬剤業務実施加算2
歯科診療特別対応連携加算	データ提出加算2(イ)
特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1入院基本料	入退院支援加算1 入退院支援加算3 入院時支援加算 総合機能評価加算
特定機能病院入院基本料 精神病棟 7対1入院基本料	精神疾患診療体制加算
救急医療管理加算	精神科急性期医師配置加算2
超急性期脳卒中加算	地域医療体制確保加算
診療録管理体制加算2	特定集中治療室管理料4 特定集中治療室管理料 小児加算 早期離床・リハビリテーション加算
医師事務作業補助体制加算1(15対1)	総合周産期特定集中治療室管理料 1 母体・胎児集中治療室管理料 2 新生児集中治療室管理料
25対1急性期看護補助体制加算(看護補助者5割以上) 夜間100対1急性期看護補助体制加算 夜間看護体制加算	新生児治療回復室入院医療管理料
看護職員夜間12対1配置加算1	小児入院医療管理料1 小児入院医療管理料 注2の加算(プレイルーム加算)
療養環境加算	
重症者等療養環境特別加算	施設基準を満たしていれば届出の必要がない項目
無菌治療室管理加算1	臨床研修病院入院診療加算(歯科診療以外)
無菌治療室管理加算2	臨床研修病院入院診療加算(歯科診療に限る)
緩和ケア診療加算	妊産婦緊急搬送入院加算
精神科身体合併症管理加算	個別栄養食事管理加算
精神科リエゾンチーム加算	がん拠点病院加算1(イ)
摂食障害入院医療管理加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1 感染防止対策地域連携加算 抗菌薬適正使用支援加算	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
後発医薬品使用体制加算1	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料 注2の加算	精神科退院時共同指導料2
外来栄養食事指導料の注2	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
糖尿病合併症管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合) 皮下連続式グルコース測定
がん性疼痛緩和指導管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
がん患者指導管理料イ	在宅総合医療管理加算 在宅患者歯科治療時医療管理料
がん患者指導管理料ロ	遺伝学的検査
がん患者指導管理料ハ	骨髄微小残存病変量測定
がん患者指導管理料ニ	BRCA1/2遺伝子検査
外来緩和ケア管理料	がんゲノムプロファイリング検査
移植後患者指導管理料 1. 臓器移植後の場合	抗HLA抗体(スクリーニング検査) 抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
移植後患者指導管理料 2. 造血幹細胞移植後の場合	先天性代謝異常症検査
糖尿病透析予防指導管理料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
小児運動器疾患指導管理料	検体検査管理加算(I)
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	検体検査管理加算(IV)
婦人科特定疾患治療管理料	国際標準検査管理加算
外来放射線照射診療料	遺伝カウンセリング加算
ニコチン依存症管理料	遺伝性腫瘍カウンセリング加算
がん治療連携計画策定料	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
肝炎インターフェロン治療計画料	時間内歩行試験 シャトルウォーキングテスト
ハイリスク妊産婦連携指導料1	胎児心エコー法
ハイリスク妊産婦連携指導料2	ヘッドアップティルト試験
薬剤管理指導料	人工臓器検査 人工臓器療法
医療機器安全管理料1	長期継続頭蓋内脳波検査
医療機器安全管理料2	終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)
総合医療管理加算 歯科治療時医療管理料	脳波検査判断料1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
神経学的検査	がん患者リハビリテーション料
黄斑局所網膜電図	歯科口腔リハビリテーション料2
全視野精密網膜電図	療養生活環境整備指導加算
ロービジョン検査判断料	救急患者精神科継続支援料
コンタクトレンズ検査料1	認知療法・認知行動療法1
小児食物アレルギー負荷検査	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
内服・点滴誘発試験	医療保護入院等診療料
CT透視下気管支鏡検査加算	処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
経気管支凍結生検法	硬膜外自家血注入
精密触覚機能検査	エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
画像診断管理加算1	エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
遠隔画像診断	人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
ポジトロン断層撮影	導入期加算1
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	透析液水質確保加算 慢性維持透析濾過加算
CT撮影及びMRI撮影	磁気による膀胱等刺激法
冠動脈CT撮影加算	口腔粘膜処置
心臓MRI撮影加算	手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
乳房MRI撮影加算	センチネルリンパ節加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	皮膚移植術(死体)
外来化学療法加算1	組織拡張器による再建手術(一連につき) (乳房(再建手術)の場合に限る)
連携充実加算	骨移植術(軟骨移植術を含む)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る)))
無菌製剤処理料	骨移植術(軟骨移植を含む) (自家培養軟骨移植術に限る)
心大血管疾患リハビリテーション料(I) 心大血管疾患リハビリテーション料 初期加算	後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
脳血管疾患等リハビリテーション料(I) 脳血管疾患等リハビリテーション料 初期加算	椎間板内酵素注入療法
運動器リハビリテーション料(I) 運動器リハビリテーション料 初期加算	腫瘍脊椎骨全摘術
呼吸器リハビリテーション料(I) 呼吸器リハビリテーション料 初期加算	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
脳刺激装置植込術 及び脳刺激装置交換術	経カテーテル大動脈弁置換術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	胸腔鏡下弁置換術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	経皮的僧帽弁クリップ術
網膜附着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)
網膜再建術	経皮的中隔心筋焼灼術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	ペースメーカー移植術(リードレスペースメーカーの場合)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び 両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下 植込型リードを用いるもの)、 植込型除細動器交換術(その他のもの)及び 経静脈電極除去術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電 極の場合)及び 両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電 極の場合)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る) (歯科診療に係るものに限る)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る) (歯科診療に係るものに限る)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切 除術に限る。)	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
センチネルリンパ節生検(併用法) 乳がんセンチネルリンパ節加算1	補助人工心臓
センチネルリンパ節生検(単独法) 乳がんセンチネルリンパ節加算2	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わ ないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	同種心移植術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	経皮的下肢動脈形成術
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる 場合)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる 場合)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる 場合)	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するも の)
肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併 切除を伴うもの))	腹腔鏡下胃切除術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺 葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合に限 る。)	腹腔鏡下噴門側胃切除術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
同種死体肺移植術	腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
生体部分肺移植術	腹腔鏡下胃全摘術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

施設基準の種類	施設基準の種類
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの) 内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術 胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) 小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) 結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) 腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) 尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) 膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) 腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	胃瘻造設術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) (高速回転式アテレクトミーカテーテルによるもの) (エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの)	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
胸腔鏡下弁形成術	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
体外衝撃波胆石破碎術	貯血式自己血輸管理体制加算
腹腔鏡下肝切除術	コーディネート体制充実加算
生体部分肝移植術	自己生体組織接着剤作成術
同種死体肝移植術	自己クリオプレシピテート作成術(用手法)
体外衝撃波膀胱石破碎術	同種クリオプレシピテート作製術
腹腔鏡下膀胱腫瘍摘出術	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剝離術	顎関節人工関節全置換術(歯科)
腹腔鏡下直腸切除・切断術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	レーザー機器加算
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	CAD/CAM冠
腹腔鏡下腎盂形成手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	クラウン・ブリッジ維持管理料
同種死体腎移植術	麻酔管理料(Ⅰ)
生体腎移植術	麻酔管理料(Ⅱ)
膀胱水圧拡張術	歯科麻酔管理料
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	放射線治療専任加算
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	外来放射線治療加算
人工尿道括約筋植込・置換術	高エネルギー放射線治療
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	1回線量増加加算(全乳房照射) 1回線量増加加算(前立腺照射)
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	強度変調放射線治療(IMRT)
腹腔鏡下腔式子宮全摘術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	体外照射呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡下 手術用支援機器を用いる場合)	定位放射線治療
子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に 対する子宮附属器腫瘍摘出術に限る。)	定位放射線治療呼吸移動対策加算(その他のもの)
胎児胸腔・羊水腔シャント術	画像誘導密封小線源治療加算
輸血管理料Ⅰ	保険医療機関間の連携による病理診断

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
病理診断管理加算2	ダメージコントロール手術
デジタル病理画像による病理診断	
悪性腫瘍病理組織標本加算	手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分1)
口腔病理診断管理加算2	頭蓋内腫瘍摘出術等
	黄斑下手術等
施設基準を満たしていれば届出の必要がない項目	鼓室形成手術等
心臓ペースメーカー指導管理料 (植込型除細動器移行期加算)	肺悪性腫瘍手術等
高度難聴指導管理料	経皮的カテーテル心筋焼灼術
外来リハビリテーション診療料	
がん治療連携管理料	手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分2)
認知症専門診断管理料	靭帯断裂形成手術等
診療情報提供料(Ⅲ)	水頭症手術等
横隔神経電気刺激装置加算	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等
造血器腫瘍遺伝子検査	尿道形成手術等
デングウイルス抗原定性及びデングウイルス抗原・抗体同時測定定性	角膜移植術
細菌核酸・薬剤耐性遺伝子同時検出	肝切除術等
クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出1	子宮附属器悪性腫瘍手術等
植込型心電図検査	
大腸CT撮影加算	手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分3)
廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)	上顎骨形成術等
児童思春期精神科専門管理加算	上顎骨悪性腫瘍手術等
一酸化窒素吸入療法(新生児の低酸素性呼吸困難に対して実施するものに限る。)	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)
経皮的冠動脈形成術	母指化手術等
経皮的冠動脈ステント留置術	内反足手術等
植込型心電図記録計移植術及び 植込型心電図記録計摘出術	食道切除再建術等
経皮的動脈遮断術	同種腎移植術等

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6区分4)	
胸腔鏡又は腹腔鏡を用いる手術(通則4に掲げる手術を除く)	
手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6その他の区分)	
人工関節置換術	
乳児外科対象手術	
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	
冠動脈及び大動脈バイパス移植術並びに体外循環を要する手術	
経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・遺伝子パネル検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	剖検症例検討会：年間約30回 臨床症例検討会：年間約20回
剖検の状況	剖検症例数 41例 / 剖検率 6.4%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
日本人若中年収縮期高血圧の中心血圧・動脈硬化に関する前向き観察研究	中込 敦士	循環器内科	260,000	(補) 日本学術振興会 委
心筋特異的多蛍光発色マウスを用いた内因性心筋分裂促進因子の探索と治療応用	神田 真人	循環器内科	2,210,000	(補) 日本学術振興会 委
重症心不全における訪問看護事業所と高次病院との包括的診療連携構築の有効性の検証	岡田 将	循環器内科	1,300,000	(補) 日本学術振興会 委
急性心筋梗塞後の心不全の発症・進展におけるIL-21の作用メカニズムの解明	久保田 暁彦	循環器内科	2,080,000	(補) 日本学術振興会 委
陳旧性心筋梗塞に対する脂肪間葉系幹細胞を用いた自家移植治療に関する研究	近藤 尚通	循環器内科	910,000	(補) 日本学術振興会 委
植込型VAD装着後の運動耐容能低下に関する器質的・血行動態学的・分子生物学的解析	岩花 東吾	循環器内科	2,210,000	(補) 日本学術振興会 委
新規心血管リスクとしての進行性軽度血小板減少症;血小板のHeterogeneityに関する探索的研究	館野 馨	循環器内科学	1,000,000	(補) (公財)先進医薬 委 研究振興財団
培養担子菌抽出物の放射線防護効果の解析と放射線治療に伴う障害軽減の検討	宇野 隆	放射線科	1,430,000	(補) 日本学術振興会 委
画像と病理の対比に基づいた唾液腺腫瘍の包括的診断フロー構築	堀越 琢郎	放射線科	1,430,000	(補) 日本学術振興会 委
子宮頸癌・膀胱癌患者への放射線治療と抗癌剤低用量併用の基礎的検討とその応用	原田 倫太郎	放射線科	910,000	(補) 日本学術振興会 委
食道癌における包括的ゲノム情報と画像情報の融合: Radiogenomicsの実践	横田 元	放射線科	2,080,000	(補) 日本学術振興会 委
画像特徴量を用いた肺癌のPD-L1発現推定と免疫チェックポイント阻害薬の効果予測	西山 晃	放射線科	1,690,000	(補) 日本学術振興会 委
形態画像と数値流体解析の統合による大動脈瘤の解析手法の確立と増大予測モデルの構築	窪田 吉紘	放射線科	1,170,000	(補) 日本学術振興会 委
MRI新撮像法によるてんかん発作焦点診断能の向上と画像が示す病理学的変化の検討	森本 笑子	放射線科	1,616,012	(補) 日本学術振興会 委
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	古矢 丈雄	整形外科	250,000	(補) 厚生労働省 委
動物因子を再現したラット圧迫性脊髄症モデル	古矢 丈雄	整形外科	500,000	(補) 日本学術振興会 委
保存的経過観察例の調査	古矢 丈雄	整形外科	800,000	(補) 日本医療研究開 委 発機構
神経微細構造および機能画像による脊髄損傷の評価:新たなイメージングバイオマーカーの創出	牧 聡	整形外科	800,000	(補) (公財)三井住友 委 海上福祉財団
神経微細構造および機能画像による脊髄損傷の評価:新たなイメージングバイオマーカーの創出	牧 聡	整形外科	1,000,000	(補) JA共済総合研 委 究所
神経微細構造および機能画像による脊髄損傷の評価:新たなイメージングバイオマーカーの創出	牧 聡	整形外科	500,000	(補) (公財)整形災害 委 外科学研究助成財団
人工知能を用いた整形外科疾患画像の自動診断ツール;疾患ライブラリの構築と診断アプリの開発	牧 聡	整形外科	300,000	(補) 猪之鼻奨学会 委
先進的MRIによる腰痛の可視化	乗本 将輝	整形外科	500,000	(補) (公財)整形災害 委 外科学研究助成財団
拡散テンソルADC mapを用いた腰部脊柱管狭窄症の定量評価法の確立	乗本 将輝	整形外科	1,000,000	(補) (公財)三井住友 委 海上福祉財団
「小卵胞内卵子成熟」理論に基づく難治性PCOSの新治療開発	生水 真紀夫	婦人科 周産期母性科	1,950,000	(補) 日本学術振興会 委
リンパ節転移リスクを有する子宮体癌に対して、骨盤リンパ節郭清のみに比べて骨盤リンパ節に傍大動脈リンパ節郭清を加えることの優越性を検証する他施設共同臨床試験	三橋 暁	婦人科 周産期母性科	260,000	(補) 国立大学法人北 委 海道大学
子宮体癌の代謝プロファイル異常の解明と治療への応用	三橋 暁	婦人科 周産期母性科	1,300,000	(補) 日本学術振興会 委
子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験	三橋 暁	婦人科 周産期母性科	40,831,804	(補) 日本医療研究開 委 発機構
部分胞状奇胎の診断制度を向上させる免疫組織学的方法の確立	碓井 宏和	婦人科 周産期母性科	1,400,000	(補) 日本学術振興会 委
PSTT:の新しい診断法の開発:Laeverinの発現を指標としたPSTTの新しい診断基準の作成	碓井 宏和	婦人科 周産期母性科	1,000,000	(補) 国立大学法人金 委 沢大学
子宮筋腫周囲筋層の血管新生因子発現と血管新生効果に関する研究	石川 博士	婦人科 周産期母性科	1,000,000	(補) 日本学術振興会 委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
卵巣明細胞癌のテロメラーゼ逆転写酵素プロモーター変異とビタミンA受容体の関連	錦見 恭子	婦人科 周産期母性科	1,600,000	(補) 日本学術振興会 委
血流豊富な妊娠組織遺残を維持する分子機構の分泌性蛋白質スクリーニングによる探索	佐藤 明日香	婦人科 周産期母性科	1,900,000	(補) 日本学術振興会 委
進行卵巣癌患者血中・腹水中エクソソーム関連分子による抗がん薬効果予測モデルの構築	植原 貴史	婦人科 周産期母性科	2,083,750	(補) 日本学術振興会 委
プロラクチン受容体解析とエクソソーム解析による母乳分泌不全の原因解明	小林 達也	婦人科 周産期母性科	1,500,000	(補) 日本学術振興会 委
視機能障害認定のあり方に関する研究	山本 修一	眼科	11,060,000	(補) 厚生労働省 委
早老症の医療水準やQOL向上を目指す集学的研究	忍足 俊幸	眼科	200,000	(補) 厚生労働省 委
網膜剥離に対する α β クリスタリンの視細胞保護効果	馬場 隆之	眼科	460,429	(補) 文部科学省 委
ヒト加齢モデル(Werner症候群)を用いた新規老化バイオマーカーの確立	横内 裕敬	眼科	1,000,000	(補) (公財)大和証券 委 ヘルズ財団
Werner症候群を用いた光干渉断層計(OCT)による新規老化バイオマーカーの確立	横内 裕敬	眼科	1,000,000	(補) (公財)高齢者眼 委 疾患研究財団
皮膚細菌叢による病原細菌ゲノム進化時の「進化的リスクマネージメント戦略」制御法	松岡 悠美	皮膚科	2,795,077	(補) 文部科学省 委
マスト細胞による組織マクロファージの分化・機能制御の解明	松江 弘之	皮膚科	4,500,000	(補) 文部科学省 委
デュピルマブ治療中のアトピー性皮膚炎患者における宿主・菌叢メタトランスクリプトームの経時的解析	松岡 悠美	皮膚科	1,000,000	補 (一財)リディアオリ 委 リー記念ピアス皮膚 科学振興財団
皮膚感染症・慢性炎症性疾患予防および治療	松岡 悠美	皮膚科	16,092,450	(補) 日本医療研究開 委 発機構
去勢抵抗性前立腺癌のメタボローム解析を基にした新規診断法と創薬の開発	坂本 信一	泌尿器科	1,100,000	(補) 日本学術振興会 委
機能性RNA発現解析に基づく去勢抵抗性前立腺癌・治療抵抗性に関わる分子経路の探索	加藤 繭子	泌尿器科	1,500,000	(補) 日本学術振興会 委
去勢抵抗性前立腺癌に対する新規薬剤治療比較解析	今村 有佑	泌尿器科	900,000	(補) 日本学術振興会 委
機能性RNAネットワーク解析に基づく腎細胞癌治療抵抗性獲得機序の探索	新井 隆之	泌尿器科	1,600,000	(補) 日本学術振興会 委
マイクロRNAを基点とした前立腺肥大症・前立腺癌特異的分子経路の解明	山田 康隆	泌尿器科	1,600,000	(補) 日本学術振興会 委
前立腺癌におけるAR及びFOXA1を介したエピジェネティックな発癌分子機構の解明	佐藤 広明	泌尿器科	1,200,000	(補) 日本学術振興会 委
内視鏡外科手術のデータベース構築に資する横断的基盤整備	坂本 信一	泌尿器科	10,000,000	(補) 日本医療研究開 委 発機構
革新的治療法開発に向けた治療抵抗性頭頸部癌における機能性RNAネットワークの探索	花澤 豊行	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,170,000	(補) 日本学術振興会 委
スギ花粉舌下免疫療法がヒノキ花粉症に与える効果の免疫学的アプローチによる検証	米倉 修二	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,690,000	(補) 日本学術振興会 委
下咽頭インピーダンス検査およびLPR動物モデルを用いた咽喉頭逆流症の病態解明	鈴木 猛司	耳鼻咽喉・頭頸部外科	910,000	(補) 日本学術振興会 委
血清エクソソームを用いた口腔癌の再発転移マーカーの探索	木下 崇	耳鼻咽喉・頭頸部外科	780,000	(補) 日本学術振興会 委
スギ花粉症の発症を、感作未発症という段階とT細胞の機能から捉える	飯沼 智久	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,690,000	(補) 日本学術振興会 委
頭頸部癌患者エクソソーム由来機能性RNA解析に基づく治療抵抗性分子機序の探索	越塚 慶一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,950,000	(補) 日本学術振興会 委
DNAメチル化異常特性に基づく化学放射線治療効果予測と発癌分子機構の解明	黒川 友哉	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,950,000	(補) 日本学術振興会 委
機能性RNAを起点とした治療抵抗性頭頸部扁平上皮癌のドラッグリポジショニング戦略	吉川 直子	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,170,000	(補) 日本学術振興会 委
DNAメチル化異常特性とHPV感染による中咽頭癌の層別化と発癌機構の解明	中川 拓也	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,560,000	(補) 日本学術振興会 委
アレルギー性鼻炎の発症・寛解を制御する末梢免疫細胞のエピゲノム解析研究	櫻井 大樹	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,170,000	(補) 日本学術振興会 委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
パーソナリティ形成におけるヘッジホッピングシグナルの役割	内川英紀	小児科	1,200,000	(補) 文部科学省 委
早老症疾患特異的iPS細胞を用いた老化促進メカニズムの解明を目指す研究	藤井克則	小児科	1,538,462	(補) 日本医療研究開発機構 委
ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究—試薬からの希少疾病治療薬開発の試み—	藤井克則	小児科	50,000	(補) 日本医療研究開発機構 委
うつ症状の神経基盤モデルに基づく診断・治療法の開発—皮質・側坐核・中脳系への着目	伊豫 雅臣 (研究分担者)	精神神経科 こどものこころ診療部	1,600,000	(補) 日本医療研究開発機構 委
精神疾患レジストリの構築・統合により新たな診断・治療法を開発するための研究 (分担項目: レジストリ構築: 臨床情報 (第1、2層) の薬物に関する項目選定)	伊豫 雅臣 (研究分担者)	精神神経科 こどものこころ診療部	1,500,000	(補) 日本医療研究開発機構 委
New Long Stay 防止統合プログラムの有用性	伊豫 雅臣	精神神経科 こどものこころ診療部	2,000,000	(補) 厚生労働省 委
文部科学省課題解決型高度医療人材育成プログラム 精神関連領域「メンタルサポート医療人とプロの連携養成」	伊豫 雅臣	精神神経科 こどものこころ診療部	600,000	(補) 文部科学省 委
摂食障害の治療支援ネットワークの指針と簡易治療プログラムの開発	中里 道子	精神神経科 こどものこころ診療部	1,170,000	(補) 日本医療研究開発機構 委
難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)「中枢性摂食異常症および中枢神経神経作病態を呈する疾患群の脳科学的な病態解明と、エビデンスに基づく患者ケア法の開発	中里 道子 (研究分担者)	精神神経科 こどものこころ診療部	700,000	(補) 厚生労働省 委
子どもの摂食障害、発達障害の脳ハビリテーション法の開発; 認知特性と神経基盤の解明	中里 道子	精神神経科 こどものこころ診療部	4,810,000	(補) 文部科学省 委
New Long Stay 防止統合プログラムの有用性	渡邊 博幸 (研究分担者)	精神神経科 こどものこころ診療部	2,000,000	(補) 厚生労働省 委
精神障害者の地域生活支援を推進する政策研究	椎名 明大 (研究分担者)	精神神経科 こどものこころ診療部	300,000	(補) 厚生労働省 委
周産期から取り組む包括的児童虐待防止システム構築のための調査研究	橋本 佐	精神神経科 こどものこころ診療部	2,700,000	(補) (公財)三菱財団 委
グリア細胞株由来神経栄養因子に基づく注意障害の病態解明に関する研究	新津 富央	精神神経科 こどものこころ診療部	1,300,000	(補) 文部科学省 委
長期高用量抗精神病薬使用に伴う海馬領域への影響	木村 大	精神神経科 こどものこころ診療部	4,030,000	(補) 文部科学省 委
New Long Stay 防止統合プログラムの有用性	木村 大 (研究分担者)	精神神経科 こどものこころ診療部	2,000,000	(補) 厚生労働省 委
New Long Stay 防止統合プログラムの有用性	小松 英樹 (研究分担者)	精神神経科 こどものこころ診療部	1,000,000	(補) 厚生労働省 委
治療抵抗性統合失調症におけるオキシトシン/バソプレシン系システムの包括的検討	仲田 祐介	精神神経科 こどものこころ診療部	1,400,000	(補) 文部科学省 委
患者由来の細胞を用いた遅発性治療抵抗性統合失調症の分子学的病態解明に関する研究	大石 賢吾	精神神経科 こどものこころ診療部	600,000	(補) 文部科学省 委
悪性症候群に対する修正型電気けいれん療法の有用性を検討する多施設における後方視的カルテ調査研究	橋 真澄	精神神経科 こどものこころ診療部	540,000	(補) 文部科学省 委
カテニンを介したカドヘリン複合体ならびにWnt経路制御による癌転移抑制剤の開発	丹沢 秀樹	歯科・顎・口腔外科	10,660,000	(補) 文部科学省 委
口腔癌細胞に対するエクソソームを利用したsiRNA・ミサイル療法の開発	鶴澤 一弘	歯科・顎・口腔外科	4,550,000	(補) 文部科学省 委
口腔癌悪性度を決定するスーパーエンハンサーによる系統的転写制御機構の解明	椎葉 正史	歯科・顎・口腔外科	6,890,000	(補) 文部科学省 委
骨石灰化因子Plod2の機能不全がもたらす癌顎骨浸潤・転移機構の解明	坂本 洋右	歯科・顎・口腔外科	1,040,000	(補) 文部科学省 委
non coding RNA吸着性環状RNAの癌増殖浸潤転移における役割の解明	笠松 厚志	歯科・顎・口腔外科	5,980,000	(補) 文部科学省 委
ゲノム編集KOマウスを用いたコラーゲン分子架橋因子PLOD2の癌転移における役割	中嶋 大	歯科・顎・口腔外科	1,170,000	(補) 文部科学省 委
血小板活性化因子PAFの癌・非癌細胞での細胞増殖作用機構解明と	伊豫田 学	歯科・顎・口腔外科	1,170,000	(補) 文部科学省 委
各種EGFR分子標的薬の共通併症の発生機序の解明と軽減治療薬の開発	小池 一幸	歯科・顎・口腔外科	2,080,000	(補) 文部科学省 委
正常唾液腺細胞の機能維持・長期大量培養法と全く新規の自家移植法の展開研究	肥後 盛洋	歯科・顎・口腔外科	1,560,000	(補) 文部科学省 委
口腔癌における転写増強機序tandem duplicatorの分布の全ゲノム解析	宮本 勲	歯科・顎・口腔外科	2,080,000	(補) 文部科学省 委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
口腔癌の放射線耐性を規定するスーパーエンハンサーの検索同定と新規治療薬の開発	齋藤 智昭	歯科・顎・口腔外科	2,080,000	(補) 文部科学省 委
口腔癌EGFR分子標的治療薬の心毒性・皮膚障害発生機構の解明と治療薬の開発	喜田 晶洋	歯科・顎・口腔外科	2,080,000	(補) 文部科学省 委
ヒト唾液腺細胞の機能維持培養法と新規自家移植法の開発研究	福嶋 玲雄	歯科・顎・口腔外科	2,080,000	(補) 文部科学省 委
小児声門上器具使用時の声門部開通性の時系列評価研究	石橋 克彦	麻酔・疼痛・緩和医療科	780,000	(補) 日本学術振興会 委
低酸素虚血脳障害に対する小胞体ストレスの関与	國分 宙	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,300,000	(補) 日本学術振興会 委
呼吸困難感に対するオピオイドを用いた症状緩和プロトコール確立	田口 奈津子	麻酔・疼痛・緩和医療科	2,080,000	(補) 日本学術振興会 委
高流量鼻カニューラ酸素療法による術後上気道閉塞の治療効果の解明	坂口 雄一	麻酔・疼痛・緩和医療科	3,120,000	(補) 日本学術振興会 委
非拘束、非接触ベッドセンサー生体情報モニターの小児術後管理における有用性検討	波照間 友基	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,950,000	(補) 日本学術振興会 委
筋弛緩拮抗薬投与後の再クラーレ化危険因子とそのメカニズム解明に関する研究	村松 隆宏	麻酔・疼痛・緩和医療科	2,600,000	(補) 日本学術振興会 委
麻酔覚醒過程の咳反射:高炭酸ガス血症下のリドカイン静脈内投与のランダム化比較試験	篠原 彩子	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,950,000	(補) 日本学術振興会 委
マスク人工呼吸中の呼気時流量制限のメカニズム研究	雨宮 めぐみ	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,329,000	(補) 日本学術振興会 委
光感受性ナノキャリアを用いた脳腫瘍のウイルス療法	岩立 康男	脳神経外科	1,430,000	(補) 日本学術振興会 委
姿勢制御異常を来す疾患での定量的動的姿勢制御の解析	樋口 佳則	脳神経外科	650,000	(補) 日本学術振興会 委
带状束における注意機能の解析と温存を目指した覚醒下脳手術の新規開発	廣野 誠一郎	脳神経外科	780,000	(補) 日本学術振興会 委
重粒子線に誘発された二次性腫瘍の臨床検体を用いた新規がん関連遺伝子探索	足立 明彦	脳神経外科	2,470,000	(補) 日本学術振興会 委
腫瘍クローンの追跡に基づいた肺癌治療体系構築への挑戦	吉野 一郎	呼吸器外科	2,100,000	(補) 日本学術振興会 委
がん幹細胞化に関与するSphere形成メカニズムを標的とした革新的治療開発	吉野 一郎	呼吸器外科	100,000	(補) 日本学術振興会 委
プレジジョン医療実践のための呼吸器内視鏡診断・治療システムの開発	中島 崇裕	呼吸器外科	800,000	(補) 日本学術振興会 委
免疫療法に反応した肺癌患者における標的T細胞エピトープ探索システムの開発	鈴木 秀海	呼吸器外科	1,000,000	(補) 日本学術振興会 委
ナノ粒子と近赤外線蛍光イメージングを用いた小型肺腫瘍局在診断法の開発	和田 啓伸	呼吸器外科	780,000	(補) 日本学術振興会 委
特発性肺線維症合併肺癌における遺伝子解析	吉野 一郎	呼吸器外科	100,000	(補) 日本学術振興会 委
肺移植後急性・慢性拒絶反応を抑制するIL-2複合体の臨床応用に向けた研究	吉野 一郎	呼吸器外科	100,000	(補) 日本学術振興会 委
予後不良肺癌組織亜型の分化メカニズム解明による補助診断の開発と治療標的分子の同定	佐田 諭己	呼吸器外科	800,000	(補) 日本学術振興会 委
肺癌幹細胞の解析に基づく新規治療戦略の開発	坂入 祐一	呼吸器外科	130,000	(補) 日本学術振興会 委
肺移植における抗体関連拒絶反応の病態解明と補体活性化抑制による新規治療法の検討	椎名 裕樹	呼吸器外科	1,800,000	(補) 日本学術振興会 委
肺移植の拒絶反応における免疫チェックポイント分子の関与及び免疫寛容の誘導	海寶 大輔	呼吸器外科	1,800,000	(補) 日本学術振興会 委
高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法の標準治療確立のための研究	吉野 一郎	呼吸器外科	490,000	(補) 日本医療研究開発機構 委
非浸潤または小型非小細胞肺癌に対する機能温存手術の確立に関する研究	吉野 一郎	呼吸器外科	200,000	(補) 日本医療研究開発機構 委
免疫チェックポイント阻害療法の応用による肺移植後拒絶反応の予防	海寶 大輔	呼吸器外科	200,000	(補) (公財)ちば県民保健予防財団 委
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	巽浩一郎	呼吸器内科	12,813,000	(補) 厚生労働省 委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	田邊信宏	呼吸器内科	100,000	(補委) 厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	坂尾誠一郎	呼吸器内科	100,000	(補委) 厚生労働省
難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	寺田二郎	呼吸器内科	100,000	(補委) 厚生労働省
特発性造血障害に関する調査研究	巽浩一郎	呼吸器内科	300,000	(補委) 厚生労働省
持続陽圧(CPAP, ASV)治療管理開始時からの治療状況確認と自己学習を含めた患者・医療機関相互方向の遠隔医療の試み	巽浩一郎	呼吸器内科	100,000	(補委) 厚生労働省
肺胞蛋白症、遺伝性間質性肺疾患に関する研究:重症難治化要因とその克服	巽浩一郎	呼吸器内科	80,000	(補委) 日本医療研究開発機構
官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発	巽浩一郎	呼吸器内科	2,100,000	(補委) 日本医療研究開発機構
官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発	安部 光洋	呼吸器内科	200,000	(補委) 日本医療研究開発機構
慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)に対するBalloon angioplasty(BPA)の有効性と安全性に関する多施設レジストリー研究	巽浩一郎	呼吸器内科	100,000	(補委) 日本医療研究開発機構
慢性血栓塞栓性肺高血圧症に関する多施設共同レジストリー研究	巽浩一郎	呼吸器内科	200,000	(補委) 日本医療研究開発機構
産学官連携を加速する肺高血圧症患者レジストリー Japan PH Registryの活用研究	巽浩一郎	呼吸器内科	1,500,000	(補委) 日本医療研究開発機構
産学官連携を加速する肺高血圧症患者レジストリー Japan PH Registryの活用研究	田邊信宏	呼吸器内科	500,000	(補委) 日本医療研究開発機構
多施設レジストリーを活用し、慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するエドキサパン(DU-176b)の適応拡大を目指すコンセプト策定研究	巽浩一郎	呼吸器内科	390,000	(補委) 日本医療研究開発機構
肺血管内皮細胞由来の間葉系幹細胞を用いた難治性呼吸器疾患の治療戦略	巽浩一郎	呼吸器内科	700,000	(補委) 文部科学省
肺血管内皮細胞由来の間葉系幹細胞を用いた難治性呼吸器疾患の治療戦略	坂尾誠一郎	呼吸器内科	1,000,000	(補委) 文部科学省
肺血管内皮細胞由来の間葉系幹細胞を用いた難治性呼吸器疾患の治療戦略	西村倫太郎	呼吸器内科	1,000,000	(補委) 文部科学省
肺血管内皮細胞由来の間葉系幹細胞を用いた難治性呼吸器疾患の治療戦略	鈴木敏夫	呼吸器内科	1,000,000	(補委) 文部科学省
GFP発現ラットによる肺移植および骨髄移植技術を用いた肺高血圧症の包括的研究	坂尾誠一郎	呼吸器内科	3,100,000	(補委) 文部科学省
GFP発現ラットによる肺移植および骨髄移植技術を用いた肺高血圧症の包括的研究	巽浩一郎	呼吸器内科	100,000	(補委) 文部科学省
GFP発現ラットによる肺移植および骨髄移植技術を用いた肺高血圧症の包括的研究	西村倫太郎	呼吸器内科	50,000	(補委) 文部科学省
GFP発現ラットによる肺移植および骨髄移植技術を用いた肺高血圧症の包括的研究	三輪秀樹	呼吸器内科	50,000	(補委) 文部科学省
肺動脈性肺高血圧症モデルマウスにおける内皮間葉転換の肺血管リモデリングへの作用	西村 倫太郎	呼吸器内科	600,000	(補委) 文部科学省
腸内細菌叢の構造異常をターゲットとした肺高血圧症の病態機序解明	田邊信宏	呼吸器内科	500,000	(補委) 文部科学省
腸内細菌叢の構造異常をターゲットとした肺高血圧症の病態機序解明	重城喬行	呼吸器内科	500,000	(補委) 文部科学省
COPD肺組織修復における終末糖化産物受容体(RAGE)の機能	伊狩 潤	呼吸器内科	1,300,000	(補委) 文部科学省
CTEPH血管リモデリングの病態解明から新規治療へ;血管内皮細胞に着目して	須田 理香	呼吸器内科	1,300,000	(補委) 文部科学省
AlphaLISA法による免疫介在性有害事象に特異的な自己抗体の探索	岩澤 俊一郎	呼吸器内科	1,100,000	(補委) 文部科学省
自己抗体マーカーによる睡眠時無呼吸症候群の脳梗塞・心筋梗塞発症予測とモニタリング	寺田 二郎	呼吸器内科	800,000	(補委) 文部科学省
肺動脈性肺高血圧症における組織常在マクロファージの役割と治療応用	重田 文子	呼吸器内科	600,000	(補委) 文部科学省
肺動脈性肺高血圧症における組織常在マクロファージの役割と治療応用	巽浩一郎	呼吸器内科	50,000	(補委) 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
肺動脈性肺高血圧症における組織常在マクロファージの役割と治療応用	坂尾誠一郎	呼吸器内科	50,000	補委 文部科学省
慢性閉塞性肺疾患における呼吸ガス分析を用いた診断システムの探索	川田 奈緒子	呼吸器内科	1,100,000	補委 文部科学省
重症肺高血圧症モデルマウスにおける内皮血球転換と肺血管リモデリング機構の解明	関根 亜由美	呼吸器内科	1,000,000	補委 文部科学省
CD26/DPP-4を介した難治性呼吸器疾患の新規治療戦略	川崎 剛	呼吸器内科	1,400,000	補委 文部科学省
難治性肺動脈性肺高血圧症と骨髄由来細胞に関連はあるか？	三輪 秀樹	呼吸器内科	1,700,000	補委 文部科学省
EPCsを介した肺血管拡張薬によるCTEPH血管リモデリング抑制効果の解明	山本 慶子	呼吸器内科	1,700,000	補委 文部科学省
気管支肺胞洗浄の危険性探索とバルーンカテーテルを用いた気管支肺胞洗浄法の開発	安部 光洋	呼吸器内科	1,000,000	補委 文部科学省
間質性肺炎関連書類の作成、臨床試料収集と関連解析開発研究拠点の形成	巽浩一郎	呼吸器内科	3,819,444	補委 (公財)木原記念横浜生命科学振興財団
CRISPR-Cas9により正常細胞への導入された遺伝子変異の発がんへの寄与率の網羅的探索	下村 巖	呼吸器内科	800,000	補委 (公財)日本科学協会
三次元血栓モデルを用いた慢性血栓性肺高血圧症の内皮細胞・血小板の機能異常解析および病態機序解明	重城 喬行	呼吸器内科	3,000,000	補委 (公財)MSD生命科学財団
肺高血圧症疾患モデルにおける内皮血球転換機構の解明	関根 亜由美	呼吸器内科	2,000,000	補委 (公財)上原記念生命科学財団
リアルタイム呼吸二酸化炭素モニタリングを用いた気管支鏡検査の安全性の確立と鎮静最適化パラメータの探索	石綿 司	呼吸器内科	500,000	補委 (公財)内視鏡医学研究振興財団
ネクロプトーシスを応用した悪性胸膜中皮腫の新規治療	石綿 司	呼吸器内科	500,000	補委 (公財)上原記念生命科学財団
胆道閉鎖症の細胞性免疫構築に果たすオートファジーの役割	齋藤 武	小児外科	1,300,000	補委 日本学術振興会
先天性呼吸器・胸郭形成異常疾患に関する診療ガイドライン作成ならびに診療体制の構築・普及に関する研究	照井慶太	小児外科	100,000	補委 厚生労働省
先天性横隔膜ヘルニアにおける最適な人工換気法・手術時期・手術方法に関する研究	照井慶太	小児外科	400,000	補委 日本医療研究開発機構
Long-read sequenceによるヒルシユスプルング病の包括的遺伝子解析	照井慶太	小児外科	600,000	補委 日本学術振興会
神経芽腫のがん微小環境における免疫抑制解除を目指したNKT細胞免疫療法の開発研究	原田和明	小児外科	1,600,000	補委 日本学術振興会
患者由来同所性異種移植(PDOX)モデルを用いた神経芽腫難治性メカニズムの解明	秦 佳孝	小児外科	900,000	補委 日本学術振興会
小児悪性固形腫瘍の新規病理分子学的リスク分類の開発とゲノム診療に向けた基盤構築	菱木知郎	小児外科	2,900,000	補委 日本学術振興会
脳機能画像・疼痛誘発脳電位を用いた神経障害性疼痛の客観的総合評価システムの確立	桑原 聡	脳神経内科	800,000	補委 日本学術振興会
パーキンソン病における包括的脳機能画像探索研究	平野成樹	脳神経内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
Na電流阻害薬を用いた運動神経興奮性制御による筋萎縮性側索硬化症の新規治療開発	澁谷 和幹	脳神経内科	750,000	補委 日本学術振興会
バクリタキセル誘発性末梢神経障害の病態解明と早期治療法の開発	関口 縁	脳神経内科	900,000	補委 日本学術振興会
SEREX法とFACS法を融合させた新手法による神経免疫疾患の網羅的自己抗体検索	森 雅裕	脳神経内科	1,000,000	補委 日本学術振興会
脳構造画像と脳機能イメージングによる多系統萎縮症における中枢性呼吸障害の病態解明	杉山 淳比古	脳神経内科	400,000	補委 日本学術振興会
POEMS症候群の至適治療戦略の構築	三澤園子	脳神経内科	1,300,000	補委 日本学術振興会
重症筋無力症の革新的治療AChR-Fcの臨床応用へ向けた生体内での作用機構の解明	鶴沢顕之	脳神経内科	1,000,000	補委 日本学術振興会
重症筋無力症における補体の網羅的解析と補体標的治療	小澤 由希子	脳神経内科	2,300,000	補委 日本学術振興会
筋萎縮性側索硬化症における皮質運動ニューロン興奮性測定システムの確立と治療薬開発	鈴木 陽一	脳神経内科	1,000,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	桑原 聡	脳神経内科	450,000	(補) 厚生労働省 (委)
運動失調症の医療基盤に関する調査研究	桑原 聡	脳神経内科	700,000	(補) 厚生労働省 (委)
神経変性疾患領域における基盤的調査研究	桑原 聡	脳神経内科	550,000	(補) 厚生労働省 (委)
HPVワクチン接種後に生じた症状に関する診療体制の整備のための研究	桑原 聡	脳神経内科	500,000	(補) 厚生労働省 (委)
スモンに関する調査研究	山中 義崇	脳神経内科	700,000	(補) 厚生労働省 (委)
抗Neurofascin155抗体陽性慢性炎症性脱髄性多発神経炎の診断基準・治療ガイドライン作成のためのエビデンスの創出	桑原 聡	脳神経内科	538,462	(補) 日本医療研究開発機構 (委)
多系統萎縮性の革新的治療法の創出を目指した研究	桑原 聡	脳神経内科	1,038,462	(補) 日本医療研究開発機構 (委)
治療調整医師として治験の実施・ALSの電気診断基準の講習	桑原 聡	脳神経内科	384,616	(補) 日本医療研究開発機構 (委)
IgG4自己抗体陽性の慢性炎症性脱髄性多発神経炎(CIDP)患者を対象としたリソキシマブの有効性と安全性評価に関する多施設共同臨床試験	桑原 聡	脳神経内科	1,923,077	(補) 日本医療研究開発機構 (委)
Crow-Fukase症候群に対するサリドマイドの多施設共同、ランダム化、プラセボ対照、二重盲検、並行群間比較試験及び長期安全性試験	桑原 聡	脳神経内科	1,242,452	(補) (公財)日本医師会治験促進センター (委)
Crow-Fukase症候群に対するサリドマイドの多施設共同、ランダム化、プラセボ対照、二重盲検、並行群間比較試験及び長期安全性試験	桑原 聡	脳神経内科	800,000	(補) (公財)日本医師会治験促進センター (委)
Development of Extracorporeal Lung and Renal Assist Device [ELRAD]	高橋 希	救急科・集中治療部	900,000	(補) 日本学術振興会 (委)
心拍揺らぎ変動解析を用いた病棟患者の病態悪化の早期認識	立石順久	救急科・集中治療部	1,000,000	(補) 日本学術振興会 (委)
非出血性心停止モデルにおけるREBOAを用いた新規心肺蘇生法の開発	東 晶子	救急科・集中治療部	600,000	(補) 日本学術振興会 (委)
ゲノム解析で導出した敗血症重症化因子SVEP1の機能解明と敗血症新規治療への展開	栗田健郎	救急科・集中治療部	900,000	(補) 日本学術振興会 (委)
REBOA合併症根絶へのアプローチ:4D-CT perfusion解析	松村洋輔	救急科・集中治療部	1,800,000	(補) 日本学術振興会 (委)
Metabolome解析による高度侵襲下のエネルギー代謝動態評価	大島 拓	救急科・集中治療部	1,900,000	(補) 日本学術振興会 (委)
AIを用いた外傷患者のCT画像の自動診断法の開発	田中久美子	救急科・集中治療部	1,400,000	(補) 日本学術振興会 (委)
高精度CRT測定装置による標準測定手法の開発	川口留以	救急科・集中治療部	1,700,000	(補) 日本学術振興会 (委)
救急医療予測アルゴリズム研究開発	安部隆三	救急科・集中治療部	14,638,000	(補) 日本医療研究開発機構 (委)
拡張現実技術を用いた新方式聴診シミュレータにより最も効果的な医学教育手法の確立	藤本 善英	冠動脈疾患治療部	390,000	(補) 日本学術振興会 (委)
拠点病院集中型から地域連携を重視したHIV診療体制を構築を目標とした研究	猪狩 英俊	感染症内科	10,000,000	(補) 厚生労働省 (委)
HIV感染症における医療経済分析と将来予測に資する研究	谷口 俊文	感染症内科	7,000,000	(補) 厚生労働省 (委)
早老症の実態把握と予後改善を目指す研究	谷口 俊文	感染症内科	200,000	(補) 厚生労働省 (委)
HIV感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制に対する研究	谷口 俊文	感染症内科	1,500,000	(補) 厚生労働省 (委)
質量分析計による病原微生物迅速同定法の構築・臨床応用	谷口 俊文	感染症内科	100,000	(補) 日本学術振興会 (委)
自己免疫疾患の特異的免疫記憶の分子機構の解明と治療戦略の開発	谷口 俊文	感染症内科	300,000	(補) 日本学術振興会 (委)
TFH細胞機能制御を利用した全身性エリテマトーデスの治療法開発に関する基盤的研究	谷口 俊文	感染症内科	50,000	(補) 日本学術振興会 (委)
HIV感染症患者における潜在性結核感染症の診断	猪狩 英俊	感染症内科	910,000	(補) 日本医療研究開発機構 (委)
国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	猪狩 英俊	感染症内科	585,000	(補) (公財)結核予防会結核研究所 (委)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
電子カルテと連携する音声認識システムのニーズ把握及び音声認識システムに用いられる医療用語辞書の編纂に関する研究	野田 和敬	総合診療科	21,570,000	(補委) 厚生労働省
反転授業は多職種(医薬看)におけるフィジカルアセスメントスキルを向上させるか?	鋪野 紀好	総合診療科	4,160,000	(補委) 日本学術振興会
養護教諭のフィジカルアセスメント用チェックリスト開発と効果検証	鋪野 紀好	総合診療科	300,000	(補委) (公財)ちば県民保健予防財団
Word2vecによる医学用語の分散表現は疾患間の数学的距離を定量的に表現するか	横川 大樹	総合診療科	1,300,000	(補委) 日本学術振興会
Word2vecによる医学用語の分散表現は疾患間の数学的距離を定量的に表現するか	横川 大樹	総合診療科	23,000	(補委) 文部科学省
ヘルスマンテナンスの個別報告・共有システムの開発	横川 大樹	総合診療科	32,500	(補委) 文部科学省
患者中心性視点からのかかりつけ医の質と受療行動に関する調査研究	池上 亜希子	総合診療科	1,000,000	(補委) 文部科学省
癌の自然免疫回避機構を標的とした肝癌の包括的マネジメント	加藤 直也	消化器内科	5,700,000	(補委) 日本学術振興会
液状検体を対象としたバーコードを用いた超高感度システムによる膵癌早期診断法の開発	三方 林太郎	消化器内科	1,900,000	(補委) 日本学術振興会
肝内胆管癌に対する新規抗がん剤開発を目指した網羅的遺伝子探索	鈴木 英一郎	消化器内科	1,300,000	(補委) 日本学術振興会
ネクロプトーシスを標的とした慢性肝不全急性性憎悪の病態解明と革新的治療法の創出	近藤 孝行	消化器内科	1,100,000	(補委) 日本学術振興会
肝癌におけるマルチキナーゼ阻害剤のエピジェネティックな耐性機序の検討	日下部 裕子	消化器内科	1,700,000	(補委) 日本学術振興会
食道バレット腺癌の遺伝子的、及び機能的側面から見た病態解析	沖元 謙一郎	消化器内科	2,700,000	(補委) 日本学術振興会
エクソソーム制御による慢性肝疾患関連サルコペニアに対する新規治療法の開発	中村 昌人	消化器内科	1,700,000	(補委) 日本学術振興会
Ras阻害剤による自己免疫性肝疾患治療法の確立	中川 良	消化器内科	4,327,148	(補委) 日本学術振興会
原発性胆汁性胆管炎への臨床応用を目指したRas阻害剤のスクリーニング	中川 良	消化器内科	1,000,000	(補委) 日本学術振興会
肝細胞分化におけるヒストンメチル化酵素SETDB1の意義と再生医療への応用	金山 健剛	消化器内科	1,300,000	(補委) 日本学術振興会
細胞性自然免疫応答賦活によるC型肝炎における肝発がん予防法の開発	加藤 直也	消化器内科	22,823,077	(補委) 日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルスの感染複製増殖機構解明による創薬基盤形成に関する研究	加藤 直也	消化器内科	3,000,000	(補委) 日本医療研究開発機構
C型肝炎ウイルス排除治療による肝硬変患者のアウトカムに関する研究開発	加藤 直也	消化器内科	900,000	(補委) 日本医療研究開発機構
B型肝炎に関する病態生理の新たな解明に基づく制御法開発	千葉 哲博	消化器内科	2,100,000	(補委) 日本医療研究開発機構
肝がんにおける免疫チェックポイント分子PD-L1の発現制御機構および可溶性PD-L1産生機序の解明	千葉 哲博	消化器内科	1,000,000	(補委) 土屋文化振興財団
胃癌検診におけるAI(artificial intelligence)を用いた2次読影支援機能開発	松村 倫明	消化器内科	1,000,000	(補委) (公財)ちば県民保健予防財団
ウェアラブル端末を用いた非アルコール性脂肪肝疾患患者の身体活動量評価の有用性に関する検討	中村 昌人	消化器内科	350,000	(補委) 柏戸記念財団
原発性胆汁性胆管炎におけるT細胞の活性化機構の解明とその治療への応用	中川 良	消化器内科	2,000,000	(補委) 武田科学振興財団
POEMS症候群における発症機構の解明と治療戦略の確立	堺田 恵美子	血液内科	1,000,000	(補委) 日本血液学会
骨髄形質細胞の遺伝子発現解析によるALアミロイドーシスの分子病態解明	堺田 恵美子	血液内科	1,000,000	(補委) 文部科学省
POEMS症候群患者血小板および骨髄間質細胞の遺伝子発現解析	塚本 祥吉	血液内科	1,700,000	(補委) 文部科学省
骨髄形質細胞シングルセル解析によるPOEMS症候群の分子病態の解明	大和田 千桂子 (研究分担者)	血液内科	400,000	(補委) 文部科学省
iPS細胞由来巨核球細胞および疾患特異的M蛋白を用いたPOEMS症候群の病態解明	武内 正博	血液内科	1,100,000	(補委) 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
DNAメチル化形質細胞によるEVB陽性B細胞性悪性リンパ腫の層別化と新規治療法の開発	大島 渚	血液内科	1,600,000	(補) 文部科学省 (委)
骨髄形質細胞の遺伝子発現解析によるALアミロイドーシスの分子病態解明	竹田 勇輔	血液内科	200,000	(補) (NPO法人)医療・福祉ネットワーク千葉 (委)
PEMS症候群の病態解明と新規治療法の確立	塚本 祥吉	血液内科	2,000,000	(補) (公財)武田科学振興財団 (委)
MDS検体の収集とクロマチン・トランスクリプトーム解析およびMDSの収集と臨床病態解析	堺田 恵美子 (研究分担者)	血液内科	1,000,000	(補) 日本医療研究開発機構 (委)
新規多発性骨髄腫モデルマウスを用いた統合的エピジェネティック治療の確立	三村 尚也	輸血・細胞療法部	1,100,000	(補) 文部科学省 (委)
骨髄形質細胞シングルセル解析によるPOEMS症候群の分子病態の解明	三村 尚也 (研究分担者)	輸血・細胞療法部	300,000	(補) 文部科学省 (委)
MDS検体の収集とクロマチン・トランスクリプトーム解析およびMDSの収集と臨床病態解析	三村 尚也 (研究分担者)	輸血・細胞療法部	1,000,000	(補) 日本医療研究開発機構 (委)
アレルギー感作における気道上皮細胞-樹状細胞間相互作用の網羅的探索	中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	4,500,000	(補) 日本学術振興会 (委)
SLEの病態形成における濾胞ヘルパーT細胞分化誘導因子Ascl2の役割の解明	鈴木 浩太郎	アレルギー・膠原病内科	1,410,315	(補) 日本学術振興会 (委)
気道上皮糖鎖修飾を標的とした難治性喘息新規治療機軸の開発	廣瀬 晃一	アレルギー・膠原病内科	871,733	(補) 日本学術振興会 (委)
炎症性筋疾患におけるIL-21誘導性GM-CSF産生 γ δ T細胞の役割の解明	須藤 明	アレルギー・膠原病内科	1,435,555	(補) 日本学術振興会 (委)
アレルギー性気道炎症下のバリア機能維持におけるTcf21の役割の解明	前澤 裕子	アレルギー・膠原病内科	900,000	(補) 日本学術振興会 (委)
包括的トランスクリプトーム・エピゲノム解析による滑膜炎・付着部炎の分子病態の解明	池田 啓	アレルギー・膠原病内科	1,333,067	(補) 日本学術振興会 (委)
IgE産生制御による食物アレルギー治療戦略の開発	玉地 智宏	アレルギー・膠原病内科	1,500,000	(補) 日本学術振興会 (委)
自己免疫性関節炎におけるIL-33-自然リンパ球経路の役割の解明	高取 宏昌	アレルギー・膠原病内科	976,108	(補) 日本学術振興会 (委)
ANCA関連血管炎の病態形成におけるTLR9の役割の解析	古田 俊介	アレルギー・膠原病内科	1,000,000	(補) 日本学術振興会 (委)
アレルギー性気道炎症におけるWnt11産生樹状細胞の役割の解明	岩田 有史	アレルギー・膠原病内科	701,903	(補) 日本学術振興会 (委)
I型インターフェロンによる全身性エリテマトーデスの病態形成機構の解明	岩本 太郎	アレルギー・膠原病内科	1,900,000	(補) 日本学術振興会 (委)
関節リウマチの病態形成におけるSemaphorin3Gの役割の解明	田中 繁	アレルギー・膠原病内科	1,900,000	(補) 日本学術振興会 (委)
乾癬病態形成におけるNF- κ B1の役割の解析	鈴木 一正	アレルギー・膠原病内科	1,900,000	(補) 日本学術振興会 (委)
関節エコーによる関節リウマチ診療の最適化・標準化	池田 啓	アレルギー・膠原病内科	4,615,385	(補) 日本医療研究開発機構 (委)
スーパーエンハンサー関連遺伝子群の時間・空間的動態解析	岩田 有史	アレルギー・膠原病内科	9,000,000	(補) 日本医療研究開発機構 (委)
早老症の医療水準やQOL向上を目指す集学的研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	5,600,000	(補) 厚生労働省 (委)
原発性高脂血症に関する調査研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	150,000	(補) 厚生労働省 (委)
指定難病の普及・啓発に向けた統合研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	2,000,000	(補) 厚生労働省 (委)
早老症疾患特異的iPS細胞を用いた老化促進メカニズムの解明を目指す研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	51,371,508	(補) 日本医療研究開発機構 (委)
肥満症に対する効果的な治療戦略と健康障害の改善に資する減量数値目標を見出すための介入研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	15,500,003	(補) 日本医療研究開発機構 (委)
早老症に立脚したヒト老化病態の解明とその制御への応用	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	10,000,000	(補) 日本医療研究開発機構 (委)
IoT活用による肥満症治療法の開発を目指した研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	7,200,000	(補) 日本医療研究開発機構 (委)
適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	615,385	(補) 日本医療研究開発機構 (委)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
早老症遺伝子の多角的解析に基づく老化と疾患の分子病態解明	横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	8,600,000	(補) 日本学術振興会 (委)
インスリンの肝直接作用と脳・脂肪組織を介した間接作用による血糖降下機序の解明	小野 啓	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,000,000	(補) 日本学術振興会 (委)
ウェルナー症候群の解析に基づくサルコペニア発症の分子機構の解明	河村 治清	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,200,000	(補) 日本学術振興会 (委)
転写因子Tcf21の機能解析を通じた腎線維化の病態解明	前澤 善朗	糖尿病・代謝・内分泌内科	800,000	(補) 日本学術振興会 (委)
R3hdm1を用いた筋腎関連の機序解明および新規治療戦略の確立	石川 崇広	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,300,000	(補) 日本学術振興会 (委)
新規マイオカインR3hdm1による骨格筋糖代謝、多臓器連関に関する検討	小林 一貴	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,200,000	(補) 日本学術振興会 (委)
転写複合体解析から捉えたRANKL依存的骨ネットワーク制御機構の基盤的研究	小出 尚史 (研究分担者)	糖尿病・代謝・内分泌内科	200,000	(補) 日本学術振興会 (委)
グルタミン代謝を介した多臓器連関によるエネルギー代謝恒常性維持機構の解明	鈴木 佐和子	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,000,000	(補) 日本学術振興会 (委)
転写複合体解析から捉えたRANKL依存的骨ネットワーク制御機構の基盤的研究	鈴木 佐和子 (研究分担者)	糖尿病・代謝・内分泌内科	200,000	(補) 日本学術振興会 (委)
AKAP13を用いた骨代謝調節機構の解明	小出 尚史	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,200,000	(補) 日本学術振興会 (委)
新規IL-33活性化機構解明による慢性アレルギー性疾患治療法の開発	熊谷 仁	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,100,000	(補) 日本学術振興会 (委)
ヒト老化モデルの細胞老化に及ぼすメカニカルストレスの効果	加藤 尚也	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,100,000	(補) 日本学術振興会 (委)
肥満、NAFLD/NASHにおけるSemaphorin3Gの役割に関する検討	林 愛子	糖尿病・代謝・内分泌内科	200,000	(補) 日本学術振興会 (委)
CFDを用いたCABG患者個別最適化モデルの構築と3D printerによる応用	松浦 馨	心臓血管外科	1,188,473	(補) 日本学術振興会 (委)
植込型補助人工心臓装着後の出血性合併症予知法および予防法の確立に関する研究	松宮 護郎 (研究分担者)	心臓血管外科	160,000	(補) 日本医療研究開発機構 (委)
IVIM MRIとtexture 解析を応用した食道癌の低侵襲バイオマーカーの開発	早野 康一	食道・胃腸外科	1,040,000	(補) 日本学術振興会 (委)
食道扁平上皮癌幹細胞を標的とした新規エピジェネティック治療戦略の開発	村上 健太郎	食道・胃腸外科	2,210,000	(補) 日本学術振興会 (委)
国内完結型がんクリニカルシーケンスの社会実装と統合データベース構築および医療人材育成に関する研究開発	松原 久裕	食道・胃腸外科	1,040,000	(補) 国立大学法人 京都大学 (委)
切除不能または再発食道癌に対するCF(シスプラチン+5-FU)療法とbDCF(biweekly ドセキタル+CF)療法のランダム化第Ⅲ相比較試験	松原 久裕	食道・胃腸外科	1,000,000	(補) 静岡県立静岡がんセンター (委)
早期胃癌に対する画期的な個別的・超低侵襲手術法の開発と検証	松原 久裕	食道・胃腸外科	4,900,000	(補) 学校法人慶應義塾大学 (委)
HER2 増幅固型癌に対するトラスツマブベルツマブ併用療法のバスケットトライアル	松原 久裕	食道・胃腸外科	1,000,000	(補) 国立大学法人東京医科歯科大学 (委)
センチネルリンパ節理論に基づく新規光対応性免疫誘導システムに関する基礎時研究	章 逸汀	食道・胃腸外科	600,000	(補) 日本学術振興会 (委)
肝内胆管癌癌源・癌細胞の可塑性と癌間質微小環境制御による新規治療法の開発	大塚 将之	肝胆膵外科	1,400,000	(補) 日本学術振興会 (委)
肝内胆管癌癌源・癌細胞の可塑性と癌間質微小環境制御による新規治療法の開発	吉富 秀幸	肝胆膵外科	1,000,000	(補) 日本学術振興会 (委)
Pin1をターゲットとした拡大肝切除術後の加齢リスク回避への新しい試み	久保木 知	肝胆膵外科	900,000	(補) 日本学術振興会 (委)
分泌蛋白を含む癌微小環境と補体因子による膵胆道癌進展機構の解明と測定系の開発	高野 重紹	肝胆膵外科	6,100,000	(補) 日本学術振興会 (委)
膵胆道癌の新規血清マーカー探索及び癌微小環境蛋白の網羅的Secretome解析	高野 重紹	肝胆膵外科	1,900,000	(補) 日本学術振興会 (委)
ユビキチンE3リガーゼをターゲットにした消化器癌の進展、転移制御機構の解明	酒井 望	肝胆膵外科	1,400,000	(補) 日本学術振興会 (委)
肝内胆管癌におけるIL-32-Gankyrin axisを介した癌進展機序の解明	三島 敬	肝胆膵外科	1,100,000	(補) 日本学術振興会 (委)
癌分泌蛋白を含む癌微小環境と補体因子が及ぼす膵胆道癌進展機構の解明と治療開発	高野 重紹	肝胆膵外科	800,000	(補) (公財)がん集学的治療研究財団 (委)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
遺伝子改変前脂肪細胞を用いた乳癌抗体療法の開発	藤本 浩司	乳腺・甲状腺外科	1,000,000	(補委) 日本学術振興会
抗酸化物質の微小管作用メカニズムの解明と新たな臨床応用	高田 護	乳腺・甲状腺外科	1,850,000	(補委) 日本学術振興会
低酸素応答分子を標的とした新規乳癌治療薬の開発	高田 護	乳腺・甲状腺外科	2,000,000	(補委) (公財)高橋産業経済財団
上皮間葉転換 (EMT) をターゲットとした胸膜悪性中皮腫の新規治療法探索(17K09647)	滝口裕一	腫瘍内科	1,000,000	(補委) 日本学術振興会
肝癌感受性遺伝子MICAのシグナル阻害を基盤とした新規治療薬の探索	太和田暁之	腫瘍内科	700,000	(補委) 日本学術振興会
新治療法開発のための医薬品・医療機器・再生医療等製品創造と科学の双翼プロジェクト	花岡 英紀	臨床試験部	165,000,000	(補委) 日本医療研究開発機構
体外式膜型人工肺による薬物動態への影響を踏まえた抗菌薬投与設計方法の確立	鈴木 達也	薬剤部	540,000	(補委) 日本学術振興会
高度薬学管理機能を備えた薬局の因子解析 ～臨床検査値関連疑義照会の実態調査より～	横山 威一郎	薬剤部	410,000	(補委) 日本学術振興会
急性血液浄化療法における抗菌薬と医療デバイスの相互作用評価と投与設計法の構築	山崎 伸吾	薬剤部	540,000	(補委) 日本学術振興会
腎障害マーカーL-FABPを用いた抗菌薬の新規投与設計法に関する研究	鈴木 貴明	薬剤部	520,000	(補委) 日本学術振興会
拠点病院集中型から地域連携を重視したHIV診療体制の構築を目標にした研究	鈴木 貴明	薬剤部	1,300,000	(補委) 厚生労働科学研究費補助金
臨床検査値を表記した処方箋が薬物療法の安全性および医療費に与える影響に関する研究	保ヶ辺 雄也	薬剤部	500,000	(補委) (公財)医療科学研究所
医療デバイスの相互作用を考慮した急性血液浄化療法における抗菌薬投与設計法の構築	山崎 伸吾	薬剤部	300,000	(補委) (公財)猪之鼻奨学会
NKT細胞再生によるがん免疫治療技術開発拠点	本橋 新一郎	未来開拓センター	22,000,000	(補委) 日本医療研究開発機構
エピジェネティクス解析とその制御による多面的機能誘導的自家脂肪移植法の確立	黒田正幸(分担者) (代表者: 窪田 吉孝)	未来開拓センター	1,200,000	(補委) 日本学術振興会
培養前駆脂肪細胞の培養工程における遺伝子発現推移解析に基づく輸送・移植製剤の確立	黒田正幸	未来開拓センター	1,200,000	(補委) 日本学術振興会
非ウイルス性慢性炎症に伴う発癌メカニズムの解明と早期血清診断法の確立	松下一之	検査部	1,430,000	(補委) 文部科学省
Ra1AとNY-ESO-1を標的とした食道癌血清抗体モニタリングに関する研究	松下一之	検査部	390,000	(補委) 文部科学省
中央集約型と分散型の併用による医療情報のためのトラスト(信頼関係)の評価法	松下一之	検査部	6,110,000	(補委) 文部科学省
ゲノム医療従事者の育成プログラム開発	松下一之	検査部	1,500,000	(補委) 日本医療研究開発機構
メタゲノムによる新意義を持つ臨床細菌検査の開発とそれへのDNAメチル化解析の応用	西村 基	検査部	910,000	(補委) 文部科学省
質量分析による血清ビタミンD代謝の包括的評価	石毛 崇之	検査部	1,170,000	(補委) 文部科学省
質量分析によるレジオネラ属菌の同定及び血清別法の構築・臨床応用	石毛 崇之	検査部	130,000	(補委) 文部科学省
脱髄型ギラン・バレー症候群の新規標的分子の検索と分子相同性による発症機序の解明	澤井 撰	検査部	1,560,000	(補委) 文部科学省
専門職連携のための専門職連携によるFD実践のための基盤研究とプログラム開発	伊藤彰一	総合医療教育研修センター	1,170,000	(補委) 日本学術振興会
臨床実習中の学習者に自発的行動を促す新しい対面指導法の開発に関する研究	横尾 英孝	総合医療教育研修センター 糖尿病・代謝・内分泌内科	1,820,000	(補委) 日本学術振興会
医学生の実力の獲得プロセスに関する研究ータイミング、契機に着目してー	松本暢平	総合医療教育研修センター	780,000	(補委) 日本学術振興会
専門職の知識と市民の価値を統合する死生観教育モデルの開発	高橋 在也	総合医療教育研修センター	2,080,000	(補委) 日本学術振興会
クリニカルIPEプログラムの必修化に向けた課題と学習効果の評価	朝比奈真由美	総合医療教育研修センター	1,690,000	(補委) 日本学術振興会
反転授業は多職種(医薬看)におけるフィジカルアセスメントスキルを向上させるか?	鋪野 紀好	総合医療教育研修センター 総合診療科	910,000	(補委) 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
医学部臨床・クラークシップ交換留学プログラム(独立行政法人日本学生支援機構(JASSO))	朝比奈真由美	総合医療教育研修センター	1,740,000	(補) (独)日本学生支援機構 (委)
医療情報データベース(MID-NET)システム運用等に係わる業務	鈴木 隆弘	企画情報部	10,840,907	(補) 医薬品医療機器総合機構 (委)
多施設統合退院サマリデータベース臨床応用	鈴木 隆弘	企画情報部	1,100,000	(補) 日本学術振興会 (委)
MID-NET®データの特性解析及びデータ抽出条件・解析手法等に関する研究	島井 健一郎	企画情報部	2,650,000	(補) 医薬品医療機器総合機構 (委)
大規模医療情報の標準化のための統一的管理手法の構築と利活用に関する研究	島井 健一郎	企画情報部	130,000	(補) 医薬品医療機器総合機構 (委)

小計5件
合計335件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭者等の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Saito Y, Kitahara H, Nakayama T, et al.	循環器内科	Relation of Elevated Serum Uric Acid Level to Endothelial Dysfunction in Patients with Acute Coronary Syndrome.	J Atheroscler Thromb. 2019;26:362-7	Original Article
2	Saito Y, Kitahara H, Okuya Y, et al.	循環器内科	Novel Predictor of Target Vessel Revascularization after Coronary Stent Implantation: Intraluminal Intensity of Blood Speckle on Intravascular Ultrasound.	Catheter Cardiovasc Interv. 2019;93:604-10	Original Article
3	Saito Y, Kitahara H, Matsumiya G, et al.	循環器内科	Preoperative Endothelial Function and Long-Term Cardiovascular Events in Patients Undergoing Cardiovascular Surgery.	Heart Vessels. 2019;34:318-23	Original Article
4	Saito Y, Kitahara H, Nishi T, et al.	循環器内科	Decreased Resting Coronary Flow and Impaired Endothelial Function in Patients with Vasospastic Angina.	Coron Artery Dis. 2019;30:291-6	Original Article
5	Saito Y, Kobayashi Y	循環器内科	Percutaneous coronary intervention strategies in patients with acute myocardial infarction and multivessel disease: Completeness, timing, lesion assessment, and patient status.	J Cardiol. 2019;74:95-101	Review
6	Saito Y, Kobayashi Y	循環器内科	Triple, dual, and single antithrombotic therapy for patients with atrial fibrillation undergoing percutaneous coronary intervention.	Cardiovasc Interv Ther. 2020;35:44-51	Review
7	Saito Y, Kobayashi Y	循環器内科	Update on Antithrombotic Therapy after Percutaneous Coronary Intervention.	Intern Med. 2020;59:311-21	Review
8	Saito Y, Kobayashi Y, Fujii K, et al.	循環器内科	Clinical expert consensus document on standards for measurement and assessment of intravascular ultrasound from the Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics.	Cardiovasc Interv Ther. 2020;35:1-2	Others
9	Saito Y, Kobayashi Y, Tanebe K, et al.	循環器内科	Antithrombotic therapy after percutaneous coronary intervention from the Japanese perspective	Cardiovasc Interv Ther. 2020;35:19-29	Review
10	Mori N, Saito Y, Saito K, et al.	循環器内科	Relation of Plasma Xanthine Oxidoreductase Activity to Coronary Lipid Core Plaques Assessed by Near-Infrared Spectroscopy Intravascular Ultrasound in Patients with Stable Coronary Artery Disease.	Am J Cardiol. 2020;125:1006-12	Original Article
11	Saito Y, Kitahara H, Nishi T, et al.	循環器内科	Systemic Endothelial Dysfunction in Patients with Vasospastic and Microvascular Angina: Serum Uric Acid as a Marker of Reactive Hyperemia Index.	Coron Artery Dis. 2020. doi: 10.1097/MCA.0000000000000874	Original Article
12	Saito Y, Kitahara H, Shoji T, et al.	循環器内科	Decreased Double Product at Rest in Patients with Severe Vasospasm.	Heart Lung Circ. 2020. doi: 10.1016/j.hlc.2020.02.007	Original Article
13	Saito Y, Shoji T, Tateishi K, et al.	循環器内科	Mental Health Status in Patients Undergoing Acetylcholine Provocation Test	Adv Ther. 2020. doi: 10.1007/s12325-020-01424-9	Original Article
14	Kitahara H, Mori N, Saito Y, et al.	循環器内科	Plaque Stabilization by Proprotein Convertase Subtilisin/Kexin Type 9 Inhibitor in a Patient With Familial Hypercholesterolemia Undergoing Percutaneous Coronary Intervention.	Circ J. 2019;83:1084.	Case Report
15	Sugiura A, Kitahara H, Iwahana T, et al.	循環器内科	Association of Heart Failure Duration with Clinical Prognosis in Advanced Heart Failure.	Clin Res Cardiol. 2019;109:350-7.	Original Article
16	Nishi T, Funabashi N, Fujimoto Y, et al.	循環器内科	Simultaneous anterior and inferior myocardial infarction in a patient with a single coronary artery anomaly.	Eur Heart J. 2019. doi: 10.1093/eurheartj/ehz262.	Case Report
17	Nishi T, Funabashi N, Ozawa K, et al.	循環器内科	Regional layer-specific longitudinal peak systolic strain using exercise stress two-dimensional speckle-tracking echocardiography for the detection of functionally significant coronary artery disease.	Heart Vessels. 2019;34:1394-03.	Original Article
18	Kato K, Ishibashi I, Ghadri JR, et al.	循環器内科	Biventricular takotsubo syndrome.	Eur Heart J. 2019; 40: 2171.	Case Report
19	Okuya Y, Saito Y, Sakai Y, et al.	循環器内科	Impact of tissue protrusion after coronary stenting in patients with ST-segment elevation myocardial infarction.	Int J Cardiovasc Imaging. 2019;35:401-7.	Original Article
20	Okuya Y, Saito Y, Takahashi T, et al.	循環器内科	Novel Predictors of Late Lumen Enlargement in Distal Reference Segments after Successful Recanalization of Coronary Chronic Total Occlusion.	Catheter Cardiovasc Interv. 2019;94:546-52.	Original Article
21	Okuya Y, Saito Y, Takahashi T, et al.	循環器内科	Impact of Elevated Serum Uric Acid Level on Target Lesion Revascularization After Percutaneous Coronary Intervention for Chronic Total Occlusion.	Am J Cardiol. 2019;124:1827-1832	Original Article
22	Tateishi K, Abe D, Suzuki K, et al.	循環器内科	Association Between Multivessel Coronary Artery Disease and Return of Spontaneous Circulation Interval in Acute Coronary Syndrome Patients with Out-of-Hospital Cardiac Arrest.	Int Heart J. 2019;60:1043-1049.	Original Article
23	Tateishi K, Saito Y, Kitahara H, et al.	循環器内科	Increased platelet inhibition after switching from prasugrel to low-dose ticagrelor in Japanese patients with prior myocardial infarction.	J Cardiol. 2020; 75: 473-477.	Original Article
24	Nakano M, Kondo Y, Nakano M, et al.	循環器内科	Impact of atrial high-rate episodes on the risk of future stroke.	J Cardiol. 2019;74:144-9.	Original Article
25	Ito R, Kondo Y, Winter J, et al.	循環器内科	Combination of a leadless pacemaker and subcutaneous implantable cardioverter defibrillator therapy for a Japanese patient with prosthetic valve endocarditis.	J Arrhythm. 2019;35:311-3.	Case report

計25件

番号	発表者氏名	筆頭者名の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
26	Kondo Y, Miyazawa K, Nakano M, et al.	循環器内科	Incidence of subclinical atrial fibrillation in Asia.	Pacing Clin Electrophysiol. 2019;42:563	Letter
27	Nakano M, Kondo Y, Nakano M, et al.	循環器内科	Atrial high-rate episodes and atrialcardiomyopathy on the future stroke.	J Cardiol. 2019;74:394-5.	Letter
28	Kondo Y, Kajiyama T, Nakano M, et al.	循環器内科	High power short duration ablation with laser balloon.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019;30:1690-1.	Others
29	Shiba T, Kondo Y, Senoo K, et al.	循環器内科	Proximal occlusion in right coronary artery involving atrial branch as a strong predictor of new-onset atrial fibrillation in acute myocardial infarction.	Int Heart J. 2019.60;1308-1314.	Original Article
30	Kondo Y, Kobayashi Y.	循環器内科	New-onset atrial fibrillation after atrial ischemia.	J Arrhythm 2019;35:863-4.	Letter
31	Kondo Y, Nakano M, Kajiyama T, et al.	循環器内科	Comparison of the performance of implantable cardioverter-defibrillator leads among manufacturers.	J Interv Card Electrophysiol. 2019 in press	Original Article
32	Nakano M, Kondo Y, Kajiyama T, et al.	循環器内科	Estimation of the accessory pathway location of the manifest Wolf-Parkinson-White syndrome using synthesized right-sided chest leads.	J Interv Card Electrophysiol. 2019 in press	Original Article
33	Kajiyama T, Miyazawa K, Kondo Y, et al.	循環器内科	SCN5A Mutation and a Short Coupled Variant of Torsades de Pointes Originating from the Right Ventricle: A Case Report.	J Cardiol. Cases 2019 in press.	Case report
34	Iwahana T, Okada S, Kanda M, et al.	循環器内科	Novel myocardial markers GADD45G and NDUPS5 identified by RNA-sequencing predicts left ventricular reverse remodeling in advanced heart failure: a retrospective cohort study.	BMC Cardiovascular Disorders (2020)20:116	Original Article
35	Kubota A, Suto A, Suzuki K, et al.	循環器内科	Matrix metalloproteinase-12 produced by Ly6Clow macrophages prolongs the survival after myocardial infarction by preventing neutrophil influx.	J Mol Cell Cardiol. 2019;131:41-52	Original Article
36	Ko T, Fujita K, Nomura S, et al.	循環器内科	Quantification of DNA Damage in Heart Tissue as a Novel Prediction Tool for Therapeutic Prognosis.	JACC Basic Transl Sci.	Original Article
37	Satoh M, Nomura S, Harada M, et al.	循環器内科	High-throughput single-molecule RNA imaging analysis reveals heterogeneous responses of cardiomyocytes to hemodynamic overload.	J Mol Cell Cardiol. 2019;128:77-89	Original Article
38	Li M, Hirano KI, Ikeda Y, et al.	循環器内科	Triglyceride deposit cardiomyovasculopathy: a rare cardiovascular disorder.	Orphanet J Rare Dis. 2019; 14:134.	Letter
39	Takaoka H, Kitahara H, Ota J, et al.	循環器内科	Utility of computed tomography in cases of aortic valve stenosis before and after transcatheter aortic valve implantation.	Cardiovasc Interv Ther. 2020;35:72-84.	Review
40	Wakabayashi S, Takaoka H, Miyauchi H, et al.	循環器内科	Usefulness of Renal Autotransplantation for Radiotherapy-induced Renovascular Hypertension.	Intern Med. 2019;58:1897-1899	Case Report
41	Kubota A, Suto A, Kobayashi Y, et al.	循環器内科	Matrix metalloproteinase-12 produced by Ly6C low macrophages prolongs the survival after myocardial infarction by preventing neutrophil influx	J Mol Cell Cardiol. 2019 Jun;131:41-52.	Original Article
42	Bikbova G, Oshitari T, Baba T, et al.	眼科	Pathogenesis and Management of Macular Hole: Review of Current Advances	Ophthalmol. 2019 May 2;2019:3467381	Review
43	Kitamura Y, Oshitari T, Kitahashi M, et al.	眼科	Acute Posterior Multifocal Placoid Pigment Epitheliopathy Sharing Characteristic OCT Findings of Vogt-Koyanagi-Harada Disease	Case Rep Ophthalmol Med. 2019 Jul 9;2019:9217656	Case report
44	Akiba R, Matsuyama T, Tu HY, et al.	眼科	Quantitative and Qualitative Evaluation of Photoreceptor Synapses in Developing, Degenerating and Regenerating Retinas	Front Cell Neurosci. 2019 Feb 11;13:16	Original Article
45	Miura G, Sugawara T, Kawasaki Y, et al.	眼科	Clinical Trial to Evaluate Safety and Efficacy of Transdermal Electrical Stimulation on Visual Functions of Patients with Retinitis Pigmentosa.	Sci Rep. 2019 Aug 12;9(1):11668	Original Article
46	Kitamura Y, Bikbova G, Baba T, et al.	眼科	In vivo effects of single or combined topical neuroprotective and regenerative agents on degeneration of retinal ganglion cells in rat optic nerve crush model.	Rep. 2019 Jan 14;9(1):101	Original Article
47	Sakamoto T, Kawano S, Kawasaki R, et al.	眼科	Japan-Retinal Detachment Registry Report I: preoperative findings in eyes with primary retinal detachment	Jpn J Ophthalmol. 2020 Jan;64(1):1-12	Original Article
48	Tatsumi T, Oshitari T, Ando T, et al.	眼科	Comparison of the Efficacy of Sub-Tenon versus Intravitreal Triamcinolone Acetonide Injection during Cataract Surgery for Diabetic Macular Edema	Ophthalmologica. 2019;241(1):17-23	Original Article
49	Chiba A, Miura G, Baba T, et al.	眼科	Determination of Length of Interdigitation Zone by Optical Coherence Tomography and Retinal Sensitivity by Microperimetry and Their Relationship to Progression of Retinitis Pigmentosa	Biomed Res Int. 2019 Jun 20;2019:1217270	Original Article
50	Yokouchi H, Baba T, Misawa S, et al.	眼科	Correlation of changes in serum level of VEGF and peripapillary retinal thickness in patients with POEMS syndrome	Br J Ophthalmol. 2020 Jan;104(1):33-38	Original Article
51	Saiga A, Yokota H, Higashide T et al	放射線科	The Relationship Between Gelatin Sponge Preparation Methods and the Incidence of Intrauterine Synechia Following Uterine Artery Embolization for Postpartum Hemorrhage.	CardioVascular and Interventional Radiology (2019) 42(2) 195-204	Original Article
52	Kubota Y, Yokota H, Mukai H et al.	放射線科	Low-tube-voltage CT assessment of Adamkiewicz artery: Precise comparison between 100-kVp- and 120-kVp protocols	European Journal of Radiology (2019) 111 56-61	Original Article
53	Wada T, Yokota H, Horikoshi T et al.	放射線科	Diagnostic performance and inter-operator variability of apparent diffusion coefficient analysis for differentiating pleomorphic adenoma and carcinoma ex pleomorphic adenoma: comparing one-point measurement and whole-tumor measurement including radiomics approach	Japanese Journal of Radiology (2020) 38(3) 207-214	Original Article
54	Nishiyama A, Kawata N, okota H et al.	放射線科	A predictive factor for patients with acute respiratory distress syndrome: CT lung volumetry of the well-aerated region as an automated method	European Journal of Radiology (2020) 122	Original Article
55	Maki S, Furuya T, Horikoshi T, at al.	整形外科	A Deep Convolutional Neural Network With Performance Comparable to Radiologists for Differentiating Between Spinal Schwannoma and Meningioma	Spine (Phila Pa 1976) . 2020 May 15;45(10):694-700.	Original Article

番号	発表者氏名	著者等の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
56	Orita S	整形外科	Biological features of freeze-dried platelet-rich plasma for bony union in spinal fusion surgery	Chiba Medical J. 96E:5-10, 2020	Original Article
57	Kanamoto H, Norimoto M, Eguchi Y, et al.	整形外科	Evaluating Spinal Canal Lesions Using Apparent Diffusion Coefficient Maps with Diffusion-Weighted Imaging.	Asian Spine J. 2020;14(3):312-19.	Original Article
58	Eguchi Y, Murayama S, Kanamoto H, et al.	整形外科	Minimally invasive manganese-enhanced magnetic resonance imaging for the sciatic nerve tract tracing used intra-articularly administrated dextran-manganese encapsulated nanogels.	JOR Spine. 2019;2:e1059.	Original Article
59	Eguchi Y, Toyoguchi T, Orita S, et al.	整形外科	Reduced leg muscle mass and lower grip strength in women are associated with osteoporotic vertebral compression fractures.	Arch Osteoporos. 2019;14(1):112.	Original Article
60	Eguchi Y, Toyoguchi T, Inage K, et al.	整形外科	Advanced glycation end products are associated with sarcopenia in older women: aging marker dynamics.	J Women Aging. 2019:1-13.	Original Article
61	Eguchi Y, Enomoto K, Sato T, et al.	整形外科	Simultaneous MR neurography and apparent T2 mapping of cervical nerve roots before microendoscopic surgery to treat patient with radiculopathy due to cervical disc herniation: Preliminary results.	J Clin Neurosci. 2020;74:213-19.	Original Article
62	Eguchi Y, Suzuki M, Sato T, et al.	整形外科	Post-operative spinal epidural hematoma after lumbar spinous process-splitting laminectomy for lumbar spinal stenosis.	Spine Surg Relat Res. 2019;3:244-248.	Original Article
63	Eguchi Y, Toyoguchi T, Inage K, et al.	整形外科	Analysis of skeletal muscle mass in women over 40 with degenerative lumbar scoliosis.	Eur Spine J. 2019;28:1618-1625.	Original Article
64	Eguchi Y, Toyoguchi T, Inage K, et al.	整形外科	Elevated levels of serum pentosidine are associated with dropped head syndrome in older women.	Asian Spine J. 2019;13:155-162.	Original Article
65	Suzuki T, Matsuura Y, Yamazaki T, et al.	整形外科	Biomechanics of callus in the bone healing process, determined by specimen-specific finite element analysis	Bone. 2020 Mar;132:115212.	Original Article
66	Yamazaki T, Matsuura Y, Suzuki T, et al.	整形外科	Measurement of the Material Properties of the Triangular Fibrocartilage Complex	Journal of Hand Surgery Global Online 2 (2020) 90e93	Original Article
67	Yamazaki A, Matsuura Y, Kuniyoshi K, et al.	整形外科	A1 pulley stretching treats trigger finger: A1 pulley luminal region under digital flexor tendon traction	Clinical Biomechanics 72 (2020) 136-140	Original Article
68	Mukai M, Uchida K, Hirose N, et al.	整形外科	Wrapping With Basic Fibroblast Growth Factor-Impregnated Collagen Sheet Reduces Rat Sciatic Nerve Allodynia	J Orthop Res . 2019 Oct;37(10):2258-2263.	Original Article
69	Mitsuhashi A, Kawasaki Y, Hori M, et al.	婦人科・産科	Medroxyprogesterone acetate plus metformin for fertility-sparing treatment of atypical endometrial hyperplasia and endometrial carcinoma: trial protocol for a prospective, randomised, open, blinded-endpoint design, dose-response trial (FELICIA trial).	BMJ Open. 2020 Feb 28;10(2):e035416	Others
70	Tate S, Nishikimi K, Kato K, et al.	婦人科・産科	Microscopic diseases remain in initial disseminated sites after neoadjuvant chemotherapy for stage III/IV ovarian, tubal, and primary peritoneal cancer.	J Gynecol Oncol. 2020 May;31(3):e34.	Original Article
71	Matsuzawa T, Nakano M, Oikawa A, et al.	皮膚科	Three-Dimensional Epidermal Model From Human Hair Follicle-Derived Keratinocytes.	Method Mol Biol. 2019;1993:123-137.	Original Article
72	Yamada Y	泌尿器科	Role of pre-miR-532 (miR-532-5p and miR-532-3p) in regulation of gene expression and molecular pathogenesis in renal cell carcinoma	Am J Clin Exp Urol	Original Article
73	Sakamoto S	泌尿器科	Higher Serum Testosterone Levels Associated with Favorable Prognosis in Enzalutamide- and Abiraterone-Treated Castration-Resistant Prostate Cancer.	J Clin Med	Original Article
74	Namekawa T	泌尿器科	ALDH1A1 in patient-derived bladder cancer spheroids activates retinoic acid signaling leading to TUBB3 overexpression and tumor progression	Int J Cancer	Original Article
75	Yamada Y	泌尿器科	Aberrantly expressed PLOD1 promotes cancer aggressiveness in bladder cancer: a potential prognostic marker and therapeutic target	Mol Oncol	Original Article
76	Higuchi K	泌尿器科	Characterization of the expression of LAT1 as a prognostic indicator and a therapeutic target in renal cell carcinoma	Sci Rep	Original Article
77	Ando K	泌尿器科	Higher serum testosterone levels predict poor prognosis in castration-resistant prostate cancer patients treated with docetaxel	Prostate	Original Article
78	Yamada Y	泌尿器科	Replisome Genes Regulation by Antitumor miR-101-5p in Clear Cell Renal Cell Carcinoma	Cancer Sci	Original Article
79	Maimaiti M	泌尿器科	Expression of L-type amino acid transporter 1 as a molecular target for prognostic and therapeutic indicators in bladder carcinoma	Sci Rep	Original Article
80	Goto Y	泌尿器科	Muscarinic Receptors Promote Castration-Resistant Growth of Prostate Cancer Through a FAK-YAP Signaling Axis	Oncogene.	Original Article
81	Ihara F, Sakurai D, Okamoto Y.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	The analysis of Th2 cell subsets in house dust mite allergic rhinitis patients after sublingual immunotherapy	Nihon Yakurigaku Zasshi .2019.7, 154(1);12-16.	Original Article
82	Yonekura S, Okamoto Y, Sakurai D, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Efficacy of Desloratadine and Levocetirizine in Patients with Cedar Pollen-Induced Allergic Rhinitis: A Randomized, Double-Blind Study.	Int Arch Allergy Immunol. 2019.10,	Original Article
83	Yonekura S, Gotoh M, Kaneko S, Okamoto Y., et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Treatment duration-dependent efficacy of Japanese cedar pollen sublingual immunotherapy: Evaluation of a phase II/III trial over three pollen dispersal seasons.	Allergol Int .2019.10,	Original Article

番号	発表者氏名	事項者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
84	Nakagawa T, Okamoto Y, Kaneda A, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Stratification of HPV-associated and HPV-negative oropharyngeal squamous cell carcinomas based on DNA methylation epigenotypes.	Int J Cancer. 2019.12,146	Original Article
85	Kurokawa T, Nakagawa T., Kaneda A, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Establishment of epigenetic markers to predict irradiation efficacy against oropharyngeal cancer.	Cancer Sci.; 2020.2	Original Article
86	Shiohama T, Fujii K, Miyashita T et al.	小児科	MicroRNAs profiling in fibroblasts derived from patients with Gorlin syndrome	J Hum Genet. 2019;64:757-65.	Original Article
87	Shiina A, Sato A, Iyo M, Fujii C.	精神神経科・こどものこころ診療部	Outcomes of administrative involuntary hospitalization: A national retrospective cohort study in Japan.	World J Psychiatry. 2019 Nov 19;9(7):99-106. doi: 10.5498/wjp.v9.i7.99. eCollection 2019 Nov 19.	Original Article
88	Takase M, Kimura H, Kanahara N, Nakata Y, Iyo M.	精神神経科・こどものこころ診療部	Plasma monoamines change under dopamine supersensitivity psychosis in patients with schizophrenia: A comparison with first-episode psychosis.	J Psychopharmacol. 2020 May;34(5):540-547. doi: 10.1177/0269881119900982. Epub 2020 Jan 21.	Original Article
89	Oishi K, Niitsu T, Kanahara N, Hashimoto T, Komatsu H, Sasaki T, Takase M, Sato Y, Iyo M.	精神神経科・こどものこころ診療部	Genetic combination risk for schizophrenia.	Schizophr Res. 2019 Aug 30. pii: S0920-9964(19)30376-7. doi: 10.1016/j.schres.2019.08.021.	Letter
90	Ogawa M, Hashimoto T, Tanaka M, Tachibana M, Seki R, Sato A, Okayama J, Endo M, Saito N, Sato Y, Watanabe H, Nakazato M, Mori E, Shozu M, Iyo M.	精神神経科・こどものこころ診療部	The Effect of Grandmothers' Presence on the Provision of Multidisciplinary Perinatal Support for Pregnant and Postpartum Women with Psychosocial Problems.	J Multidiscip Healthc. 2019 Dec 11;12:1033-1041. doi: 10.2147/JMDH.S228320. eCollection 2019.	Original Article
91	Hiroshima K, Shiiba M, Oka N, Hayashi F, Ishida S, Fukushima R, Koike K, Iyoda M, Nakashima D, Tanzawa H, Uzawa K.	歯科・顎・口腔外科	Tspan15 plays a crucial role in metastasis in oral squamous cell carcinoma.	Exp Cell Res. 384(2):11622, 2019.	Original Article
92	Kase Y, Kasamatsu A, Saito T, Koike K, Iyoda M, Nakashima D, Endo-Sakamoto Y, Sunohara M, Shiiba M, Uzawa K, Tanzawa H.	歯科・顎・口腔外科	Diagnostic algorithm for ameloblastic carcinoma.	Oral Sci Int. 16(3):185-187, 2019.	Original Article
93	Miyamoto I, Kasamatsu A, Hiroshima K, Ishida N, Takeuchi S, Takahara T, Ishida S, Yoshimura S, Baba T, Saito Y, Iyoda M, Tanzawa H.	歯科・顎・口腔外科	Calcium pyrophosphate dihydrate crystal deposition of the temporomandibular joint: A case report and review of the literature.	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 31(5):315-321, 2019.	Case report
94	Eizuka K, Nakashima D, Oka N, Wagai S, Takahara T, Saito T, Koike K, Kasamatsu A, Shiiba M, Tanzawa H, Uzawa K.	歯科・顎・口腔外科	SYT12 plays a critical role in oral cancer and may be a novel therapeutic target.	J Cancer. 10(20):4913-4920, 2019.	Original Article
95	Uzawa K, Amelio A L, Kasamatsu A, Saito T, Kita A, Fukamachi M, Sawai Y, Toeda Y, Eizuka K, Hayashi F, Kato-Kase I, Sunohara M, Iyoda M, Koike K, Nakashima D, Ogawara K, Endo-Sakamoto Y, Shiiba M, Takiguchi Y, Yamauchi M, Tanzawa H.	歯科・顎・口腔外科	Resveratrol Targets Urokinase-Type Plasminogen Activator Receptor Expression to Overcome Cetuximab-Resistance in Oral Squamous Cell Carcinoma.	Sci Rep. 9(1):12179, 2019.	Original Article
96	Oka N, Kasamatsu A, Endo-Sakamoto Y, Eizuka K, Wagai S, Koide-Ishida N, Miyamoto I, Iyoda M, Tanzawa H, Uzawa K.	歯科・顎・口腔外科	Centromere Protein N Participates in Cellular Proliferation of Human Oral Cancer by Cell-Cycle Enhancement.	J Cancer. 10(16):3728-3734, 2019.	Original Article
97	Wagai S, Kasamatsu A, Iyoda M, Hayashi F, Hiroshima K, Yoshimura S, Miyamoto I, Nakashima D, Endo-Sakamoto Y, Shiiba M, Tanzawa H, Uzawa K.	歯科・顎・口腔外科	UNC93B1 promotes tumoral growth by controlling the secretion level of granulocyte macrophage colony-stimulating factor in human oral cancer.	Biochem Biophys Res Commun. 513(1):81-87, 2019.	Original Article
98	Miyamoto I, Endo-Sakamoto Y, Yamano Y, Kasamatsu A, Uzawa K, Tanzawa H.	歯科・顎・口腔外科	A case of a sublingual dermoid cyst in a 6-year-old child.	Oral Sci Int. 16(2):114-119, 2019.	Case report
99	Kasamatsu A, Uzawa K, Hayashi F, Kita A, Okubo Y, Saito T, Kimura Y, Miyamoto I, Oka N, Shiiba M, Ito C, Toshimori K, Miki T, Yamauchi M, Tanzawa H.	歯科・顎・口腔外科	efficiency of lysyl hydroxylase 2 in mice causes systemic endoplasmic reticulum stress leading to early embryonic lethality.	D Biochem Biophys Res Commun. 512(3):486-491, 2019.	Original Article
100	Saito T, Uzawa K, Terajima M, Shiiba M, Amelio AL, Tanzawa H, Yamauchi M.	歯科・顎・口腔外科	Aberrant Collagen Cross-linking in Human Oral Squamous Cell Carcinoma.	J Dent Res. 98(5):517-525, 2019.	Original Article
101	Uzawa K, Kasamatsu A, Saito T, Kita A, Sawai Y, Toeda Y, Koike K, Nakashima D, Endo Y, Shiiba M, Takiguchi Y, Tanzawa H.	歯科・顎・口腔外科	Growth suppression of human oral cancer cells by candidate agents for cetuximab-side effects.	Exp Cell Res. 376(2):210-220, 2019.	Original Article
102	Hayashi F, Kasamatsu A, Endo-Sakamoto Y, Eizuka K, Hiroshima K, Kita A, Saito T, Koike K, Tanzawa H, Uzawa K.	歯科・顎・口腔外科	Increased expression of tripartite motif (TRIM) like 2 promotes tumoral growth in human oral cancer.	Biochem Biophys Res Commun. 508(4):1133-1138, 2019.	Original Article
103	Baba T, Koike K, Fukuhara H, Kasamatsu A, Endo-Sakamoto Y, Fushimi K, Kasama H, Iyoda M, Minakawa Y, Shiiba M, Uzawa K, Tanzawa H.	歯科・顎・口腔外科	Diagnostic accuracy of FDG PET/CT for cervical lymph node metastasis in patients with oral cancer.	Oral Sci Jpn. 21-22, 2019.	Review
104	Komatsu M, Fukamachi M, Kasamatsu A, Endo-Sakamoto Y, Fushimi K, Kasama H, Iyoda M, Minakawa Y, Shiiba M, Uzawa K, Tanzawa H.	歯科・顎・口腔外科	Up-regulation of multiple coagulation factor deficiency protein 2 and metastasis in oral squamous carcinoma.	Oral Sci Jpn. 23-26, 2019.	Review
105	Saito Y, Nakashima D, Tokimura M, Kasamatsu A, Endo-Sakamoto Y, Shiiba M, Uzawa K, Tanzawa H.	歯科・顎・口腔外科	Clinical features for medication-related jaw osteonecrosis: A clinical review.	Oral Sci Jpn. 27-28, 2019.	Review
106	Shiiba M, Baba T, Eizuka K, Kasamatsu A, Uzawa K, Takiguchi Y, Tanzawa H.	歯科・顎・口腔外科	Characteristic of Langerhans cell histiocytosis in oral and maxillofacial regions.	Oral Sci Int. 17(2):94-96, 2020.	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
107	Tanzawa A, Shiiba M, Saito T, Kasamatsu A, Endo-Sakamoto Y, Sunohara M, Uzawa K, Takiguchi Y, Tanzawa H, Shirasawa H.	歯科・顎・口腔外科	Comprehensive gene expression analysis of semaphorins in oral squamous cell carcinoma.	Oral Sci Int. 17(2):67-72, 2020.	Review
108	Iyoda M, Koike K, Saito T, Nakasihma D, Kasamatsu A, Endo-Sakamoto Y, Sunohara M, Shiiba M, Uzawa K, Tanzawa H.	歯科・顎・口腔外科	Basaloid squamous cell carcinoma in the mandibular gingiva.	Oral Sci Int. 17(1):47-49, 2020.	Review
109	Yamamoto J, Kasamatsu A, Higo M, Endo-Sakamoto Y, Ogawara K, Sunohara M, Shiiba M, Uzawa K, Tanzawa H.	歯科・顎・口腔外科	Multiple pigmentations in Laugier-Hunziker-Baran syndrome.	Oral Sci Int. 17(2):103-105, 2020.	Review
110	Isono S, Nozaki-Taguchi N, Hasegawa M, et al.	麻酔・疼痛・緩和医療科	Contact-free unconstrained respiratory measurements with load cells under the bed in awake healthy volunteers: breath-by-breath comparison with pneumotachography	J Appl Physiol (1985). 2019 May 1;126(5):1432-1441.	Original Article
111	Son K, Yamada T, Tarao K, et al.	麻酔・疼痛・緩和医療科	Effects of Cardiac Surgery and Salvaged Blood Transfusion on Coagulation Function Assessed by Thromboelastometry	J Cardiothorac Vasc Anesth. 2020 Feb 12:S1053-0770(20)30131-2.	Original Article
112	Yasuo Iwadate	脳神経外科	Eighty percent survival rate at 15 years for 1p/19q co-deleted oligodendroglioma treated with upfront chemotherapy irrespective of tumor grade.	J Neurooncol 141: 205-211, 2019	Original Article
113	Yoshinori Higuchi	脳神経外科	Stereotactic radiosurgery in elderly patients with brain metastases: comparison with non-elderly patients using database of a multi-institutional prospective observational study (JLKG0901-Elderly).	J Neuro-Oncol 144: 393-402, 2019	Original Article
114	Seiichiro Hirono	脳神経外科	Feasibility study of finalizing the extended adjuvant temozolomide based on methionine positron emission tomography (Met-PET) findings in patients with glioblastoma.	Scientific Reports 9: 17794, 2019	Original Article
115	Seiichiro Hirono	脳神経外科	Mechanism of corpus callosum infarction associated with acute hydrocephalus: Clinical, surgical, and radiological evaluations for pathophysiology.	World Neurosurgery 127: 873-880, 2019	Original Article
116	Masaki Izumi	脳神経外科	The tethered effect of vestibular schwannoma tumor shrinkage following stereotactic radiosurgery in secondary trigeminal neuralgia.	World Neurosurgery 123: 136-141, 2019	Original Article
117	Masaaki Kubota	脳神経外科	De novo vestibular schwannoma: a report of three cases.	NMC Case Report J 6: 47-50, 2019	Case report
118	Yosuke Watanabe	脳神経外科	Postoperative cerebellar cyst with pseudomeningocele after tumor removal at the craniovertebral junction.	World Neurosurgery 130: 71-76, 2019	Case report
119	Kamata T, Yoshida S, Takami M, et al	呼吸器外科	Immunological features of a lung cancer patient achieving an objective response with anti-programmed death-1 blockade therapy.	Cancer Sci. 2020 Jan;111(1):288-296.	Case report
120	Wada H, Yamamoto T, Morimoto J, et al	呼吸器外科	Near-Infrared-Guided Pulmonary Segmentectomy After Endobronchial Indocyanine Green Injection.	Ann Thorac Surg. 2020 Feb;109(2):396-403.	Others
121	Toyoda T, Kamata T, Tanaka K, et al	呼吸器外科	Phase II study of α -galactosylceramide-pulsed antigen-presenting cells in patients with advanced or recurrent non-small cell lung cancer.	J Immunother Cancer. 2020 Mar;8(1):e000316.	Review
122	Toyoda T, Kamata T, Tanaka K, et al.	呼吸器外科	Phase II study of α -galactosylceramide-pulsed antigen-presenting cells in patients with advanced or recurrent non-small cell lung cancer.	J. Immunother. Cancer 8(1): e000316 (2020)	Original Article
123	Sanada TJ, Tanabe N, Ishibashi-Ueda H, et al.	呼吸器内科	Involvement of pulmonary arteriopathy in the development and severity of reperfusion pulmonary endarterectomy.	Pulm Circ. 2019 Apr-Jun;9:2045894019846439	Original Article
124	Suda R, Tanabe N, Terada J, et al.	呼吸器内科	Pulmonary hypertension with a low cardiac index requires a higher PaO2 level to avoid tissue hypoxia.	Respirology. 2020 Jan;25:97-103.	Original Article
125	Ishiwata T, Abe M, Kasai H, et al.	呼吸器内科	Safety of diagnostic flexible bronchoscopy in patients with echocardiographic evidence of pulmonary hypertension.	Respir Investig. 2019 Jan;57:73-78.	Original Article
126	Ishiwata T, Terada J, Nakajima T, et al.	呼吸器内科	Transbronchial evaluation of peripheral pulmonary lesions using ultrasonic spectrum analysis in lung cancer patients.	Respirology. 2019 Oct;24:1005-1010.	Original Article
127	Katsumata Y, Terada J, Abe M, et al.	呼吸器内科	An analysis of the clinical benefit of 37 bronchoalveolar lavage procedures in patients with hematologic disease and pulmonary complications.	Intern Med. 2019 Apr;58:1073-1080.	Original Article
128	Shimomura I, Yokoi A, Kohama I, et al.	呼吸器内科	Drug library screen reveals benzimidazole derivatives as selective cytotoxic agents for KRAS-mutant lung cancer.	Cancer Lett. 2019 Jun 1;451:11-22.	Original Article
129	Abe M, Tsushima K, Tatsumi K.	呼吸器内科	Utility of nintedanib for severe idiopathic pulmonary fibrosis: a single-center retrospective study [Response to letter].	Drug Des Devel Ther. 2019 May ;13:1687-1688.	Original Article
130	Naito Y, Yamamoto Y, Sakamoto N, et al.	呼吸器内科	Cancer extracellular vesicles contribute to stromal heterogeneity by inducing chemokines in cancer-associated fibroblasts.	Oncogene. 2019 Jul;38:5566-5579.	Original Article
131	Sakayori M, Terada J, Abe M, et al.	呼吸器内科	Differences in tolerability of pirfenidone between elderly and younger patients with idiopathic pulmonary fibrosis.	Drug Des Devel Ther. 2019 Jul ;13:2295-2303.	Original Article
132	Tanaka N, Ikari J, Anazawa R, et al.	呼吸器内科	S100A12 inhibits fibroblast migration via the receptor for advanced glycation end products and p38 MAPK signaling.	In Vitro Cell Dev Biol Anim. 2019 Jul ;55:656-664	Original Article
133	Kasai H, Ito S, Tajima H, et al.	呼吸器内科	The positive effect of student-oriented clinical clerkship rounds employing role-play and peer review on the clinical performance and professionalism of clerkship students.	Med Teach. 2020 Jan;42:73-78.	Original Article
134	Sakao S, Tanabe N, Tatsumi K.	呼吸器内科	Hypoxic pulmonary vasoconstriction and the diffusing capacity in pulmonary hypertension associated with idiopathic pulmonary fibrosis.	J Am Heart Assoc. 2019 Aug ;8:e013310	Original Article
135	Yamamoto K, Nishimura R, Kato F, et al.	呼吸器内科	Protective role of endothelial progenitor cells stimulated by ticagrelor in chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	Int J Cardiol. 2020 Jan ;299:263-270.	Original Article
136	Takahashi Y, Yamamoto K, Tanabe N, et al.	呼吸器内科	Characteristics of Japanese elderly patients with pulmonary arterial hypertension.	Pulm Circ. 2019 in press.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
137	Sakao S.	呼吸器内科	The updated classification of PVOD/PCH: A slight but meaningful change.	Respir Investig. 2019 Sep;57:408-409.	Original Article
138	Ishiwata T, Nakajima T, Terada J, et al.	呼吸器内科	A novel biosimulator based on ex vivo porcine lungs for training in peripheral tissue sampling using endobronchial ultrasonography with a guide sheath.	J Thorac Dis. 2019 Oct;11:4152-4158.	Original Article
139	Nishiyama A, Kawata N, Yokota H, et al.	呼吸器内科	A predictive factor for patients with acute respiratory distress syndrome: CT lung volumetry of the well-aerated region as an automated method.	Eur J Radiol. 2020 Jan;122:108748.	Original Article
140	Katsumata Y, Terada J, Matsumura T et al.	呼吸器内科	Circulating anti-sorting nexins 16 antibodies as an emerging biomarker of coronary artery disease in patients with obstructive sleep apnea.	Diagnostics (Basel). 2020 Jan ;10:71.	Original Article
141	Kasai H, Sugiura T, Kobayashi T, et al.	呼吸器内科	Recurrence of pulmonary arteriovenous malformation with non-tuberculous mycobacteria infection caused by perfusion from the pulmonary artery and bronchial artery after coil embolization.	Intern Med. 2019 Jun ;58:1593-1596.	Case report
142	Shimomura I, Abe M, Li Y, et al.	呼吸器内科	Pulmonary hypertension exacerbated by nintedanib administration for idiopathic pulmonary fibrosis.	Intern Med. 2019 Apr ;58:965-968.	Case report
143	Ikubo Y, Kasai H, Sugiura T, et al.	呼吸器内科	Pulmonary hypertension that developed during treatment for hepatopulmonary syndrome and pulmonary arteriovenous malformation.	Intern Med. 2019 Jun ;58:1765-1769.	Case report
144	Sakao S.	呼吸器内科	Chronic obstructive pulmonary disease and the early stage of cor pulmonale: A perspective in treatment with pulmonary arterial hypertension-approved drugs.	Respir Investig. 2019 Jul;57:325-329.	Review
145	Fujimoto K*, Kawaguchi Y*, Shimohigoshi M*, et al.	小児外科	Antigen-Specific Mucosal Immunity Regulates Development of Intestinal Bacteria-Mediated Diseases.	Gastroenterology. 2019 Dec;157:1530-43.	Original Article
146	Harada K, Ihara F, Takami M, et al.	小児外科	Soluble factors derived from neuroblastoma cell lines suppress dendritic cell differentiation and activation.	Cancer Sci. 2019;110:888-902.	Original Article
147	Hishiki T, Fujino A, Watanabe T, et al.	小児外科	Definitive Tumor Resection after Myeloablative High Dose Chemotherapy Is a Feasible and Effective Option in the Multimodal Treatment of High-Risk Neuroblastoma: A Single Institution Experience.	J Pediatr Surg. 2019 Sep;50:3022-3468;30590-1.	Original Article
148	Saito T, Uesato M, Terui K, et al.	小児外科	Acid and bolus exposure in pediatric reflux disease according to the presence and severity of esophageal mucosal lesions.	Pediatr Surg Int. 2019 Aug;35:887-93.	Original Article
149	Terui K, Nagata K, Hayakawa M, et al.	小児外科	Novel Risk Score for Fetuses with Congenital Diaphragmatic Hernia Based on Ultrasound Findings.	Eur J Pediatr Surg. 2020 Feb;30:51-8.	Original Article
150	Terui K, Usui N, Tazuke Y, et al.	小児外科	Impact of nutrition in the treatment of congenital diaphragmatic hernia.	Pediatr Int. 2019 May;61:482-8.	Original Article
151	Mori M.	脳神経内科	Anatomical connectivity elucidated by analysing thalamic atrophy in neuromyelitis optica.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2019;90(10):1075.	Review
152	Hiraga A, Ozaki D, Oikawa M, et al.	脳神経内科	Recurrent Neurological Episodes for 10 Years Preceding Skin Lesions in Neuro-Sweet Disease.	Intern Med. 2019;58(23):3469-3472.	Case report
153	Iwai Y, Nishimura K, Fukushima T, et al.	脳神経内科	An Adult Case of Herpes Simplex Virus-Associated Granulomatous Encephalitis	Intern Med. 2019;58(10):1491-1494.	Case report
154	Kanai T, Uzawa A, Kuwabara S.	脳神経内科	Response to "regarding the article 'Predictive score for oral corticosteroid-induced initial worsening of seropositive generalized myasthenia gravis'".	J Neurol Sci. 2019;399:229	Others
155	Kanai T, Uzawa A, Kuwabara S.	脳神経内科	Response to "Letter to the editors in regard to the article 'Predictive score for oral corticosteroid-induced initial worsening of seropositive generalized myasthenia gravis'".	J Neurol Sci. 2019;404:157-158.	Others
156	Masuda H, Mori M, Hirano S, et al.	脳神経内科	Relapse numbers and earlier intervention by disease modifying drugs are related with progression of less brain atrophy in patients with multiple sclerosis.	J Neurol Sci. 2019;403:78-84.	Original Article
157	Nagao Y, Mimura N, Takeda J, et al.	脳神経内科	Genetic and transcriptional landscape of plasma cells in POEMS syndrome.	Leukemia. 2019;33(7):1723-1735.	Original Article
158	Nakamura K, Shibuya K, et al.	脳神経内科	Dropped Head in Sporadic Late-onset Nemaline Myopathy.	Intern Med. 2019;58(13):1967-1968.	Others
159	Ozawa Y, Uzawa A, Kanai T, Oda F, Yasuda M, Kawaguchi N, Himuro K, Kuwabara S	脳神経内科	Efficacy of high-dose intravenous methylprednisolone therapy for ocular myasthenia gravis	J Neurol Sci.2019;402:12-15.	Original Article
160	Shibuya K, Tsuneyama A, Beppu M, et al.	脳神経内科	A study supporting possible expression of inward-rectifying potassium channel 2.1 channels in peripheral nerve in a patient with Andersen-Tawil syndrome.	Muscle Nerve. 2019;59(4):E28-E30.	Case report
161	Shibuya K, Yoshida T, Misawa S, et al.	脳神経内科	Hidden Charcot-Marie-Tooth 1A as Revealed by Peripheral Nerve Imaging.	Intern Med. 2019;58(21):3157-3161.	Original Article
162	Sugiyama A, Sato N, Kimura Y, et al.	脳神経内科	Quantifying iron deposition in the cerebellar subtype of multiple system atrophy and spinocerebellar ataxia type 6 by quantitative susceptibility mapping.	J Neurol Sci.Mov Disord. 2019;34(7):975-984.	Original Article
163	Sugiyama A, Sato N, Kimura Y, et al.	脳神経内科	Exploring the frequency and clinical background of the "zebra sign" in amyotrophic lateral sclerosis and multiple system atrophy.	J Neurol Sci. 2019;401:90-94.	Original Article
164	Sugimoto K, Mori M, Liu J, et al,	脳神経内科	The accuracy of flow cytometric cell-based assay to detect anti-myelin oligodendrocyte glycoprotein (MOG) antibodies determining the optimal method for positivity judgement.	J Neuroimmunol. 2019;336:577021.	Original Article
165	Suichi T, Misawa S, Beppu M, et al.	脳神経内科	Prevalence, clinical profiles, and prognosis of POEMS syndrome in Japanese nationwide survey	Neurology. 2019;93(10):e975-e983.	Original Article
166	Yamamoto T, Yamanaka Y, Sugiyama A, et al.	脳神経内科	The severity of motor dysfunctions and urinary dysfunction is not correlated in multiple system atrophy.	J Neurol Sci. 2019;400:25-29.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
167	Yamashita T, Ueda M, Misawa S, et al.	脳神経内科	Changes in nerve excitability indices in hereditary transthyretin amyloidosis.	Amyloid. 2019;26(sup1):9-10.	Others
168	Suichi T, Misawa S.	脳神経内科	Polyneuropathy, organomegaly, endocrinopathy, monoclonal gammopathy and skin changes syndrome: Diagnosis, treatment and the current status in Japan	Clinical and Experimental Neuroimmunology. 2020;00:1-8.	Review
169	Amino H, Shibuya K, Misawa S, et al.	脳神経内科	Membrane property changes in most distal motor axons in chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy.	Muscle Nerve. 2020 ;61(2):238-242.	Original Article
170	Furukawa S, Hirano S, Yamamoto T, et al.	脳神経内科	Decline in drawing ability and cerebral perfusion in Parkinson's disease patients after subthalamic nucleus deep brain stimulation surgery.	Parkinsonism Relat Disord. 2020;70:60-66.	Original Article
171	Li H, Hirano S, Furukawa S, et al.	脳神経内科	The Relationship Between the Striatal Dopaminergic Neuronal and Cognitive Function With Aging	Front. Aging Neurosci. 2020;12:41.	Original Article
172	Liu J, Mori M, Sugimoto K, et al.	脳神経内科	Peripheral blood helper T cell profiles and their clinical relevance in MOG-IgG-associated and AQP4-IgG-associated disorders and MS.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2020;91(2):132-139.	Original Article
173	Nakamura K, Sugiyama A, Shibuya K, Kuwabara S.	脳神経内科	Striatal Encephalitis in Neuropsychiatric Systemic Lupus Erythematosus.	Intern Med. 2020;59(4):589-590.	Others
174	Suichi T, Misawa S, Sekiguchi Y, et al.	脳神経内科	Treatment response and prognosis of POEMS syndrome coexisting with Castleman disease.	J Neurol Sci. 2020;413:116771.	Original Article
175	Oami T, Chihade DB, Coopersmith CM	救急科・集中治療部	The microbiome and nutrition in critical illness.	Current opinion in critical care•2019 Apr	Others
176	Oami T, Coopersmith CM et al.	救急科・集中治療部	A venomous relationship: Inflammation, the gut barrier and the STING pathway.	EBioMedicine•2019 Apr	Others
177	Saito D, Watanabe E, Ashida A, et al.	救急科・集中治療部	Atypical hemolytic uremic syndrome with the p.Ile1157Thr C3 mutation successfully treated with plasma exchange and eculizumab: A case report.	Critical care explorations•2019 Apr	Case report
178	Nakada TA, Takahashi W, Nakada E, et al.	救急科・集中治療部	Genetic Polymorphisms in Sepsis and Cardiovascular Disease: Do Similar Risk Genes Suggest Similar Drug Targets?	Chest•2019 Jun	Original Article
179	Matsumura Y, Nakada TA, Abe T, et al.	救急科・集中治療部	Nighttime and non-business days are not associated with increased risk of in-hospital mortality in patients with severe sepsis in intensive care units in Japan: The JAAM FORECAST study.	Journal of Critical Care•2019 Aug	Original Article
180	Tomita K, Nakada TA, Oshima T, et al.	救急科・集中治療部	Non-invasive monitoring using photoplethysmography technology.	Journal of Clinical Monitoring and Computing•2019 Aug	Original Article
181	Shimada T, Topchiv E, Leung AKK, et al.	救急科・集中治療部	Very Low Density Lipoprotein Receptor Sequesters Lipopolysaccharide Into Adipose Tissue During Sepsis.	Critical care medicine•2019 Sep	Original Article
182	Shinozaki M, Nakada TA, Kawaguchi R, et al.	救急科・集中治療部	Feedback function for capillary refilling time measurement device.	Critical care•2019 Sep	Others
183	Otani S, Chihade DB, Coopersmith CM	救急科・集中治療部	Critical illness and the role of the microbiome.	Acute medicine & surgery•2019 Dec	Review
184	Nakada TA, Oda S, Abe R, et al.	救急科・集中治療部	Changes in acute blood purification therapy in critical care: republication of the article published in the Japanese Journal of Artificial Organs.	Journal of artificial organs• 2020 Mar	Review
185	Matsumura Y, Higashi A, Izawa Y, et al.	救急科・集中治療部	Organ ischemia during partial resuscitative endovascular balloon occlusion of the aorta: Dynamic 4D Computed tomography in swine.	Scientific reports•2020 Mar	Original Article
186	Sasahara Y, Kubota Y, Kosaka K, et al.	形成・美容外科	Adipose-Derived Stem Cells and Ceiling Culture-Derived Preadipocytes Cultured from Subcutaneous Fat Tissue Differ in Their Epigenetic Characteristics and Osteogenic Potential.	Plast Reconstr Surg. 144, 644-655.	Original Article
187	Hidetoshi.I	感染制御部	Epidemiology and Treatment Outcome of Pneumonia: Analysis Based on Japan National Database	Chemotherapy Volume 26, Issue 1, January 2020, Pages 58-62	Original Article
188	Shikino K, Ikusaka M.	総合診療科	Anaphylaxis induced by Anisakis	Intern Med. 2019 July; 58(14):2121	Case report
189	Kondo T	総合診療科	Emphysematous cystitis associated with voiding dysfunction from herpes zoster	CMAJ. 2019 June; 191(22):E614	Case report
190	Shikino K, Ito S, Ohira Y, et al.	総合診療科	Usefulness of a short-time training seminar on how to handle difficult patients in simulated education	Adv Med Educ Pract. 2019 June; 2019(19):483-491	Original Article
191	Shikino K, Suzuki S, Hirota Y, et al.	総合診療科	Effect of the iExaminer Teaching Method on Fundus Examination Skills: A Randomized Clinical Trial	JAMA Network Open. 2019 Sep; 2(9):e1911891	Original Article
192	Yamauchi Y, Shiga T, Shikino K, et al.	総合診療科	Influence of psychiatric or social backgrounds on clinical decision making: a randomized, controlled multi-centre study	BMC Medical Education. 2019 Dec; 19(1):461	Original Article
193	Shikino K, Ikusaka M.	総合診療科	Giant Cell Arteritis	QJM. 2020 Mar; hcaa095	Case report
194	Yamauchi Y, Shiga T, Shikino K 他	総合診療科	Influence of Psychiatric or Social Backgrounds on Clinical Decision Making: A Randomized, Controlled Multi-Centre Study	BMC Med Educ 19 (1), 461, 2019	Original Article
195	Tateishi R, Uchino K, Fujiwara N, Takehara T, Okanoue T, Seike M, Yoshiji H, Yatsushashi H, Shimizu M, Torimura T, Moriyama M, Sakaida I, Okada H, Chiba T, Chuma M, Nakao K, Isomoto H, Sasaki Y, Kaneko S, Masaki T, Chayama K, Koike K.	消化器内科	A nationwide survey on non-B, non-C hepatocellular carcinoma in Japan: 2011-2015 update.	J Gastroenterol.2019 Apr;54(4):367-376.	Original Article
196	Fujiwara K, Yasui S, Yokosuka O, Kato N.	消化器内科	Acute Severe Autoimmune Hepatitis: Corticosteroids or Liver Transplantation?	Liver Transpl.2019 Sep;25(9):1455-1456.	Others

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
197	Suzuki E, Bridgewater J.	消化器内科	Adjuvant therapy for resected gallbladder cancer.	Chin Clin Oncol.2019 Aug;8(4):39	Review
198	Maruyama H, Kato N.	消化器内科	Advances in ultrasound diagnosis in chronic liver diseases.	Clin Mol Hepatol.2019 Jun;25(2):160-167.	Review
199	Rizk M, Rizq O, Oshima M, Nakajima-Takagi Y, Koide S, Saraya A, Isshiki Y, Chiba T, Yamazaki S, Ma A, Jin J, Iwama A, Mimura N.	消化器内科	Akt inhibition synergizes with polycomb repressive complex 2 inhibition in the treatment of multiple myeloma.	Cancer Sci.2019 Dec;110(12):3695-3707.	Original Article
200	Nakagawa R, Muroyama R, Saeki C, Oikawa T, Kaize Y, Koike K, Arai J, Nakano M, Matsubara Y, Takano K, Hirata Y, Saruta M, Zeniya M, Kato N.	消化器内科	CD4+ T cells from patients with primary biliary cholangitis show T cell activation and differentially expressed T-cell receptor repertoires.	Hepatol Res.2019 Jun;49(6):653-662.	Original Article
201	Ohta Y, Arai M, Nakagawa T, Akizue N, Ishikawa K, Hamanaka S, Koseki H, Taida T, Okimoto K, Saito K, Yoshihama S, Maruoka D, Matsumura T, Katsuno T, Kato N.	消化器内科	Comparison of a novel predictor of venous thromboembolic complications in inflammatory bowel disease with current predictors.	J Gastroenterol Hepatol.2019 May;34(5):870-879.	Original Article
202	Hayashi M, Mikata R, Horikoshi T, Senoo J, Kusakabe Y, Ohyama H, Yasui S, Uchida Y, Uchiyama K, Kishimoto T, Yoshitomi H, Ohtsuka M, Tsuyuguchi T, Kato N.	消化器内科	Diffusion-Weighted Magnetic Resonance Imaging and 18-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography With Computed Tomography for Evaluating Malignancy of Branch Duct and Mixed Type Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms of the Pancreas.	Pancreas.2019 May/ Jun;48(5):e43-e45.	Others
203	Devarbhavi H, Choudhury AK, Sharma MK, Maiwall R, Al Mahtab M, Rahman S, Chawla YK, Dhiman RK, Duseja A, Taneja S, Ning Q, Jia JD, Duan Z, Yu C, Eapen CE, Goel A, Tan SS, Hamid SS, Butt AS, Jafri W, Kim DJ, Hu J, Sood A, Midha V, Shukla A, Ghazianin H, Sahu MK, Treerprasertsuk S, Lee GH, Lim SG, Lesmana LA, Lesmana CR, Shah S, Kalal C, Abbas Z, Sollano JD, Prasad VGM, Payawal DA, Dokmeci AK, Rao PN, Shrestha A, Lau GK, Yuen MF, Saraswat VA, Shiha G, Yokosuka O, Kedarisetty CK, Jain P, Bhatia P, Sarin SK; APASL ACLF working party.	消化器内科	Drug-Induced Acute-on-Chronic Liver Failure in Asian Patients.	Am J Gastroenterol.2019 Jun;114(6):929-937.	Original Article
204	Fujiwara K, Nakano M, Yasui S, Yokosuka O, Kato N.	消化器内科	Ductular reaction in acute onset autoimmune hepatitis.	Hepatology.2019 Aug;70(2):756-757.	Others
205	Kanayama K, Chiba T, Oshima M, Kanzaki H, Koide S, Saraya A, Miyagi S, Mimura N, Kusakabe Y, Saito T, Ogasawara S, Suzuki E, Ooka Y, Maruyama H, Iwama A, Kato N.	消化器内科	Genome-Wide Mapping of Bivalent Histone Modifications in Hepatic Stem/Progenitor Cells.	Stem Cells Int.2019 Apr 1;2019:9789240.	Original Article
206	Hamanaka S, Nakagawa T, Ota S, Iida M, Ohta Y, Isshiki Y, Kasamatsu S, Ishigami H, Taida T, Okimoto K, Saito K, Maruoka D, Matsumura T, Ohwada C, Takeuchi M, Sakaida E, Arai M, Katsuno T, Nakaseko C, Nakatani Y, Kato N.	消化器内科	Immunomodulator-associated Epstein-Barr virus-positive mucocutaneous ulcer in a patient with refractory Crohn's disease.	Clin J Gastroenterol.2019 Aug;12(4):330-335.	Case report
207	Kobayashi K, Kiyono S, Ogasawara S, Ooka Y2, Suzuki E, Chiba T, Kato N, Komiyama Y, Takawa M, Nagamatsu H.	消化器内科	Incidence and hemodynamic feature of risky esophageal varices with lower hepatic venous pressure gradient.	Int J Med Sci.2019 Nov 9;16(12):1614-1620.	Original Article
208	Chiba T, Hiraoka A, Mikami S, Shinozaki M, Osaki Y, Obu M, Ohki T, Mita N, Ledesma D, Yoshihara N, Beusterien K, Amos K, Bridges JF, Yokosuka O.	消化器内科	Japanese patient preferences regarding intermediate to advanced hepatocellular carcinoma treatments.	Patient Prefer Adherence.2019 Apr 30;13:637-647.	Original Article
209	Fujiwara K, Nakano M, Yasui S, Yokosuka O, Kato N	消化器内科	Letter to the Editor: Ductular Reaction in Acute Onset Autoimmune Hepatitis.	Hepatology.2019 Aug;70(2):756-757.	Letter
210	Miksd RA, Ogasawara S, Xia F, Fellous M, Piscaglia F.	消化器内科	Liver function changes after transarterial chemoembolization in US hepatocellular carcinoma patients: the LiverT study.	BMC Cancer.2019 Aug 13;19(1):795	Original Article
211	Nakagomi R, Tateishi R, Masuzaki R, Soroida Y, Iwai T, Kondo M, Fujiwara N, Sato M, Minami T, Uchino K, Enooku K, Nakagawa H, Asaoka Y, Kondo Y, Tanaka Y, Otsuka M, Kato N, Moriya K, Ikeda H, Koike K.	消化器内科	Liver stiffness measurements in chronic hepatitis C: Treatment evaluation and risk assessment.	J Gastroenterol Hepatol.2019 May;34(5):921-928.	Original Article
212	Ueshima K, Chiba Y, Ogasawara S, Obi S, Izumi N, Aikata H, Nagano H, Hatano E, Sasaki Y, Hino K, Kumada T, Yamamoto K, Imai Y, Iwadou S, Ogawa C, Okusaka T, Kanai F.	消化器内科	Objective Response by mRECIST Is an Independent Prognostic Factor for Overall Survival in Hepatocellular Carcinoma Treated with Sorafenib in the SILIUS Trial.	Liver Cancer.2019 Nov;8(6):505-519	Original Article
213	Ryoo BY, Merle P, Kudo M, Bouattour M, Lim HY, Breder V, Edeline J, Chao Y, Ogasawara S, Yau T, Garrido M, Chan SL, Knox J, Daniele B, Ebbinghaus SW, Chen E, Stegel AB, Zhu AX; KEYNOTE-240 investigators.	消化器内科	Pembrolizumab As Second-Line Therapy in Patients With Advanced Hepatocellular Carcinoma in KEYNOTE-240: A Randomized, Double-Blind, Phase III Trial.	J Clin Oncol.2019 Dec 2;JCO1901307	Original Article
214	Arai M, Ishigami H, Taida T, Saito K, Maruoka D, Matsumura T, Nakagawa T, Katsuno T.	消化器内科	Renal Dysfunction is a Risk Factor of Death after Gastric Endoscopic Submucosal Dissection in Elderly Patients Aged ≥80 Years.	Can J Gastroenterol Hepatol.2019 Sep 9;2019:7145182.	Original Article
215	Maeda T, Kanzaki H, Chiba T, Ao J, Kanayama K, Maruta S, Kusakabe Y, Saito T, Kobayashi K, Kiyono S, Nakamura M, Ogasawara S, Suzuki E, Ooka Y, Nakamoto S, Nakagawa R, Muroyama R, Kanda T, Maruyama H.	消化器内科	Serum fibroblast growth factor 19 serves as a potential novel biomarker for hepatocellular carcinoma.	BMC Cancer.2019 Nov 12;19(1):1088.	Original Article
216	Kimura S, Kobayashi N, Nakamura Y, Kanaya T, Takahashi D, Fujiki R, Mutoh M, Obata Y, Iwanaga T, Nakagawa T, Kato N, Sato S, Kaisho T, Ohno H, Hase K.	消化器内科	Sox8 is essential for M cell maturation to accelerate IgA response at the early stage after weaning in mice.	J Exp Med.2019 Apr 1;216(4):831-846.	Review

番号	発表者氏名	著者名の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
217	Hidaka H, Izumi N, Aramaki T, Ikeda M, Inaba Y, Imanaka K, Okusaka T, Kanazawa S, Kaneko S, Kora S, Saito H, Furuse J, Matsui O, Yamashita T, Yokosuka O, Morita S, Arioka H, Kudo M, Arai Y.	消化器内科	Subgroup analysis of efficacy and safety of orantinib in combination with TACE in Japanese HCC patients in a randomized phase III trial (ORIENTAL).	Med Oncol.2019 May 3;36(6):52.	Original Article
218	Kanda T, Ogawa M, Nakamoto S, Haga Y, Sasaki R, Nakamura M, Wu S, Matsumoto N, Matsuoka S, Kato N, Shirasawa H, Yokosuka O, Okamoto H.	消化器内科	Superinfection of hepatitis A virus in hepatocytes infected with hepatitis B virus.	Int J Med Sci.2019 Sep 20;16(10):1366-1370.	Original Article
219	Maruoka D, Kishimoto T, Matsumura T, Arai M, Akizue N, Ishikawa K, Ohta Y, Kasamatsu S, Taida T, Ishigami H, Okimoto K, Saito K, Nakagawa T, Kato N.	消化器内科	Underwater cold snare polypectomy for colorectal adenomas.	Dig Endosc.2019 Nov;31(6):662-671.	Original Article
220	Fujisawa T, Shimamura T, Goto K, Nakagawa R, Muroyama R, Ino Y, Horiuchi H, Endo I, Maeda S, Harihara Y, Nakajima A, Matsuhashi N, Kato N, Isayama H, Puri A, Suzuki A, Bellayr I, Leland P, Joshi BH, Puri RK.	消化器内科	A Novel Role of Interleukin 13 Receptor alpha2 in Perineural Invasion and Its Association With Poor Prognosis of Patients With Pancreatic Ductal Adenocarcinoma.	Cancers (Basel). 2020 May 20;12(5):1294.	Original Article
221	Matsumura T, Arai M, Suzuki T, Hoppe T, Seki Y, Kasamatsu S, Ishigami H, Ishikawa K, Okimoto K, Akizue N, Maruoka D, Nakagawa T, Odaka T, Okamoto Y, Kato N	消化器内科	Clinical utility of salivary pepsin measurement in patients with proton pump inhibitor-refractory gastroesophageal reflux disease symptoms: a prospective comparative study.	Esophagus.2020 Jul;17(3):339-347.	Original Article
222	Maruyama H, Kobayashi K, Kiyono S, Chiba T, Kato N, Ohtsuka M, Ito K, Yamaguchi T, Shiina S	消化器内科	Free fatty acid-based low-impedance liver image: a characteristic appearance in nonalcoholic steatohepatitis (NASH).	Eur Radiol Exp.2020 Jan 23;4(1):3.	Original Article
223	Sarin SK, Kumar M, Eslam M, George J, Al Mahtab M, Akbar SMF, Jia J, Tian Q, Aggarwal R, Muljono DH, Omata M, Ooka Y, Han KH, Lee HW, Jafri W, Butt AS, Chong CH, Lim SG, Pwu RF, Chen DS.	消化器内科	Liver diseases in the Asia-Pacific region: a Lancet Gastroenterology & Hepatology Commission.	Lancet Gastroenterol Hepatol.2020 Feb;5(2):167-228.	Review
224	Kanayama K, Chiba T, Kobayashi K, Koroki K, Maruta S, Kanzaki H, Kusakabe Y, Saito T, Kiyono A, Nakamura M, Ogasawara S, Suzuki E, Ooka Y, Nakamoto S, Yasui S, Kanda T, Maruyama H, Kato J, Kato N.	消化器内科	Long-term administration of Tolvaptan to patients with decompensated cirrhosis.	Int J Med Sci.2020 Mar 15;17(7):874-880.	Original Article
225	Oura H, Matsumura T, Kawasaki Y, Okimoto K, Ishikawa K, Kaneko T, Tokunaga M, Oike T, Imai Y, Yokoyama Y, Akizue N, Maruoka D, Ohta Y, Saito K, Nakagawa T, Arai M., Kato J, Kato N.	消化器内科	Long-term use of proton pump inhibitors does not affect ectopic and metachronous recurrence of gastric cancer after endoscopic treatment.	Scand J Gastroenterol.2020 Feb;55(2):209-215.	Original Article
226	Sato N, Takano S, Yoshitomi H, Furukawa K, Takayashiki T, Kuboki S, Suzuki D, Sakai N, Kagawa S, Mishima T, Nakadai E, Mikata R, Kato N, Ohtsuka M	消化器内科	Needle tract seeding recurrence of pancreatic cancer in the gastric wall with paragastric lymph node metastasis after endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration followed by pancreatectomy: a case report and literature review.	BMC Gastroenterol.2020 Jan 15;20(1):13	Original Article
227	Ogasawara S, Ooka Y, Itokawa N, Inoue M, Okabe S, Seki A, Haga Y, Obu M, Atsukawa M, Itobayashi E, Mizumoto H, Sugiura N, Azemoto R, Kanayama K, Kanzaki H, Maruta S, Maeda T, Kusakabe Y, Yokoyama M, Kobayashi K, Kiyono S, Nakamura M, Saito T, Suzuki E, Nakamoto S, Yasui S, Tawada A, Chiba T, Arai M, Kanda T, Maruyama H, Kato N.	消化器内科	Sequential therapy with sorafenib and regorafenib for advanced hepatocellular carcinoma: a multicenter retrospective study in Japan.	Invest New Drugs.2020 Feb;38(1):172-180.	Original Article
228	Kasai H, Ito S, Tajima H, Takahashi Y, Sakurai Y, Kawata N, Sugiyama H, Asahina M, Sakai I, Tatsumi K.	消化器内科	The positive effect of student-oriented clinical clerkship rounds employing role-play and peer review on the clinical performance and professionalism of clerkship students.	Med Teach.2020 Jan;42(1):73-78.	Original Article
229	Engelmann C, Sheikh M, Sharma S, Kondo T, Loeffler-Wirth H, Zheng YB, Novelli S, Hall A, Kerbert AJC, Macnaughtan J, Mookerjee R, Habtesion A, Davies N, Ali T, Gupta S, Andreola F, Jalan R.	消化器内科	Toll-like receptor 4 is a therapeutic target for prevention and treatment of liver failure.	J Hepatol.2020 Jan 24;S0168-8278(20)30028-3.	Original Article
230	Ogasawara S, Ooka Y, Kato N.	消化器内科	Weight-based dosing of lenvatinib for advanced hepatocellular carcinoma	Hepatobiliary Surg Nutr.2020 Feb;9(1):253-254.	Others
231	Viet HD, Matsumura T, Kaneko T, Takahashi S, Tokunaga M, Oura H, Ishikawa K, Akizue N, Kikuchi A, Fujie M, Saito K, Okimoto K, Maruoka D, Nakagawa T, Arai M, Kato J, Kato N.	消化器内科	Impact of Ineffective Esophageal Motility on Chemical Clearance in Patients with Gastroesophageal Reflux Symptoms.	Dis Esophagus.2020 May 15;doaa026. (Online ahead of print.)	Original Article
232	Yamamoto Y, Kakizaki M, Shimizu T, Carreras J, Chiba T, Chamoto K, Kagawa T, Aoki T, Nakamura N, Ando K, Kotani A.	消化器内科	PD-L1 is induced on hepatocyte surface via CKLF-like MARVEL transmembrane domain-containing protein 6 upregulation by the anti-HBV drug Entecavir.	Int Immunol.2020 Mar 27;dxaa018. (Online ahead of print.)	Original Article
233	Nagao Y, Mimura N, Takeda J, et al.	血液内科	Genetic and transcriptional landscape of plasma cells in POEMS syndrome.	Leukemia. 2019 Jul;33(7):1723-1735.	Original Article
234	Isshiki Y, Nakajima-Takagi Y, Oshima M, et al.	血液内科	KDM2B in polycomb repressive complex 1.1 functions as a tumor suppressor in the initiation of T-cell leukemogenesis.	Blood Adv. 2019 Sep 10;3(17):2537-2549.	Original Article
235	Takaishi K, Tsukamoto S, Ohwada C, et al.	血液内科	Low incidence of thromboembolism in multiple myeloma patients receiving immunomodulatory drugs: a retrospective single-institution analysis.	J Thromb Thrombolysis. 2019 Jul;48(1):141-148.	Original Article
236	Shimizu R, Takeuchi M, Sakaida E, et al.	血液内科	Efficacy and safety of oral deferasirox treatment for transfusional iron overload in pure red cell aplasia patients after allogeneic stem cell transplantation.	Ann Hematol. 2019 May 22. doi: 10.1007/s00277-019-03717-8.	Original Article

番号	発表者氏名	著者名の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
237	Takaishi K, Takeuchi M, Tsukamoto S, et al.	血液内科	Suppressive effects of anagrelide on cell cycle progression and the maturation of megakaryocyte progenitor cell lines in human induced pluripotent stem cells.	Haematologica. 2019 Sep 5. pii: haematol.2018.214841.	Original Article
238	Nakamura A, Ohwada C, Takeuchi M, et al.	血液内科	Detection of MYD88 L265P mutation by next-generation deep sequencing in peripheral blood mononuclear cells of Waldenström's macroglobulinemia and IgM monoclonal gammopathy of undetermined significance.	PLoS One. 2019 Sep 4;14(9):e0221941.	Original Article
239	Ohwada C, Sakaida E, Igarashi A, et al.	血液内科	A Prospective, Longitudinal Observation of the Incidence, Treatment, and Survival of Late Acute and Chronic Graft-versus-host disease by National Institutes of Health Criteria in a Japanese cohort.	Biol Blood Marrow Transplant. 2020 Jan;26(1):162-170.	Original Article
240	Rizk M, Rizq O, Oshima M, Nakajima-Takagi Y	血液内科	Akt inhibition synergizes with polycomb repressive complex 2 inhibition in the treatment of multiple myeloma.	Cancer Sci. 2019 Dec;110(12):3695-3707. doi: 10.1111/cas.14207.	Original Article
241	Miki Yamazaki, Chiaki Nakaseko, Masahiro Takeuchi, et al.	血液内科	Myeloid/lymphoid neoplasm with PDGFRB rearrangement with t(5;10)(q33;q22) harboring a novel breakpoint of the CCDC6-PDGFRB fusion gene.	Internal Medicine. 2019 Jul 22. doi:10.2169/internalmedicine.3220-19.	Case report
242	Kimura K, Tsukamoto S, Takaishi K, et al.	血液内科	T315I mutation with lymphoblasts in a newly diagnosed patient with chronic-phase chronic myeloid leukemia.	Leuk Lymphoma. 2019 Jun;60(6):1591-1594.	Case report
243	Nagai Y, Tsukamoto S, Hino Y, et al.	血液内科	Remarkable donor-derived T cell lymphocytosis before engraftment of a bone marrow transplant for acute lymphoblastic leukemia.	Leuk Lymphoma. 2019 Sep 5:1-4.	Case report
244	Mishina T, Oshima-Hasegawa N, Tsukamoto S, et al.	血液内科	Successful autologous stem cell transplantation for POEMS syndrome with an unusually large osteolytic lesion: A case report and literature review.	International Journal of Myeloma 9(3): 19-23, 2019	Review
245	Saku A, Hirose K, Nakajima H, et al.	アレルギー・膠原病内科	Mice lacking fucosyltransferase 2 show reduced innate allergic inflammation in the airways	Allergy. 2020 May;75(5):1253-1256	Original Article
246	Kono K, Suzuki K, Nakajima H, et al.	アレルギー・膠原病内科	IL-21 enhances mast cell accumulation in the intestine and exacerbates the development of experimental food allergy	Clin Exp Allergy. 2019 Nov;49(11):1523-1526.	Original Article
247	Saku A, Hirose K, Kiyono H, et al.	アレルギー・膠原病内科	Fucosyltransferase 2 induces lung epithelial fucosylation and exacerbates house dust mite-induced airway inflammation	J Allergy Clin Immunol. 2019 Sep;144(3):698-709	Original Article
248	Saku A, Hirose K, Nakajima H, et al.	アレルギー・膠原病内科	δ T cells enhance TSLP production and ILC2 accumulation in house dust mite-induced allergic airway inflammation	Allergol Int. 2020 Jan;69(1):132-135.	Original Article
249	Suehiro KI, Suto A, Nakajima H, et al.	アレルギー・膠原病内科	Sox12 enhances Fbw7-mediated ubiquitination and degradation of GATA3 in Th2 cells	Cell Mol Immunol. 2020 Mar 9. doi: 10.1038/s41423-020-0384-0. Online ahead of print.	Original Article
250	Furuta S, Iwamoto T, Nakajima H.	アレルギー・膠原病内科	Update on eosinophilic granulomatosis with polyangiitis	Allergol Int. 2019 Oct;68(4):430-436	Review
251	Koshizaka M, Ishikawa K, Ishibashi R et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Comparing the effects of ipragliflozin versus metformin on visceral fat reduction and metabolic dysfunction in Japanese patients with type 2 diabetes treated with sitagliptin: A prospective, multicentre, open-label, blinded-endpoint, randomized controlled study (PRIME-V study).	Diabetes Obes Metab. 2019 Aug;21(8):1990-1995.	Original Article
252	Sakamoto K, Furuichi Y, Yamamoto M et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	R3hdm1 regulates satellite cell proliferation and differentiation.	EMBO Rep. 2019 Nov 5;20(11):e47957.	Original Article
253	Sakamoto K, Yokote K	糖尿病・代謝・内分泌内科	Novel mechanism of increasing cerebral vascular constriction in acute hyperglycemia and diabetes through adenylyl cyclase 5-generated cyclic adenosine monophosphate.	J Diabetes Investig. 2019 Nov 23;11(4):783-785.	Original Article
254	Kurita K, Ishikawa K, Takeda K et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	CXCL12-CXCR4 pathway activates brown adipocytes and induces insulin resistance in CXCR4-deficient mice under high-fat diet.	Sci Rep. 2019 Apr 16;9(1):6165.	Original Article
255	Yokote K, Suzuki A, Li Y et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Pharmacokinetics and exploratory efficacy biomarkers of bococizumab, an anti-PCSK9 monoclonal antibody, in hypercholesterolemic Japanese subjects.	Int J Clin Pharmacol Ther. 2019 Dec; 57(12):575-589.	Original Article
256	Kaneyuki D, Kohno H, Matsuura K, et al.	心臓血管外科	Left ventricular aneurysm after post-infarction ventricular septal defect repair.	Ann Thorac Surg. 2019 Apr; 107(4): e263-e265.	Case report
257	Kaneyuki D, Kohno H, Matsumiya G.	心臓血管外科	Would the proposed pathophysiology of the "full blast" make sense here? (Reply).	Ann Thorac Surg. 2019 Jun; 107(6): 1914.	Others
258	Inui T, Kohno H, Matsuura K, et al.	心臓血管外科	A case of left ventricular assist device application for chemotherapy-related cardiomyopathy caused by trastuzumab and anthracycline.	J Artif Organs. [Online ahead of print.]	Case report
259	Inui T, Kohno H, Kawasaki Y, et al.	心臓血管外科	Use of a Smart Watch for Early Detection of Paroxysmal Atrial Fibrillation: Validation Study.	JMIR Cardio. 2020 Jan 22;4(1):e14857.	Original Article
260	Matsuura K, Jin WW, Liu H, et al.	心臓血管外科	Computational fluid dynamic study of multiple sequential coronary artery bypass anastomoses in a native coronary stenosis model.	Coron Artery Dis. [Epub ahead of print]	Original Article
261	Inui T, Ishida K, Kohno H, et al.	心臓血管外科	Pulmonary Embolectomy for Acute Pulmonary Embolism: A Word of Caution.	Ann Vasc Dis. 2020 Mar 25;13(1):96-99.	Case report

番号	発表者氏名	事項者名の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
262	Hayano K, Ohira G, Hirata A, Aoyagi T, Imanishi S, Tochigi T, Hanaoka T, Shuto K, Matsubara H.	食道・胃腸外科	Imaging biomarkers for the treatment of esophageal cancer	World Journal of Gastroenterology. 2019 Jun;25(24):2973-3107	Review
263	Kano M, Hayano K, Hayashi H, Hanari N, Gunji H, Toyozumi T, Murakami K, Uesato M, Ota S, Matsubara H	食道・胃腸外科	Survival Benefit of Neoadjuvant Chemotherapy with S-1 Plus Docetaxel for Locally Advanced Gastric Cancer: A Propensity Score-Matched Analysis.	Ann Surg Oncol. 2019 Jun;26(6):1805-1813	Original Article
264	Imanishi Shunsuke, Miyauchi Hideaki, Maruyama Michihiro, Ohira Gaku, Maruyama Tetsuro, Hanaoka Toshiharu, Okada Koichiro, Matsubara Hisahiro	食道・胃腸外科	Treatment strategy and outcome of anastomotic leakage after left-sided colorectal cancer surgery: Non-surgical V.S. Surgical treatment	Ann.Cancer Res.Ther.2019 Jul;27(2):90-94	Original Article
265	Urahama R, Uesato M, Aikawa M, Kunii R, Isono S, Matsubara H.	食道・胃腸外科	Occurrence of Cortical Arousal at Recovery from Respiratory Disturbances during Deep Propofol Sedation.	Int J Environ Res Public Health. 2019 Sep(オンライン)	Original Article
266	Yoshitomi H	肝胆膵外科	Feasibility and safety of distal pancreatectomy with en bloc celiac axis resection (DP-CAR) combined with neoadjuvant therapy for borderline resectable and unresectable pancreatic body/tail cancer.	Langenbecks Arch Surg 404: 451-458,2019.	Original Article
267	Miyauchi Y, Furukawa K,	肝胆膵外科	Additional Effect of Perioperative, Compared with Preoperative, Immunonutrition After Pancreaticoduodenectomy: A Randomized, Controlled Trial.	Int J Surg. 61; 69-75, 2019	Original Article
268	Nakada S, Kuboki S,	肝胆膵外科	Roles of Pin1 as a Key Molecule for EMT Induction by Activation of STAT3 and NF- κ B in Human Gallbladder Cancer.	Ann Surg Oncol 2019;26:907-917.	Original Article
269	Sugiura K, Mishima T,	肝胆膵外科	The Expression of Yes-Associated Protein (YAP) Maintains Putative Cancer Stemness and Is Associated with Poor Prognosis in Intrahepatic Cholangiocarcinoma.	Am J Pathol. 2019 Sep;189(9): 1863-1877.	Original Article
270	Ashizawa Y, Kuboki S,	肝胆膵外科	OLFM4 Enhances STAT3 Activation and Promotes Tumor Progression by Inhibiting GRIM19 Expression in Human Hepatocellular Carcinoma.	Hepatol Commun 2019;3:954-970.	Original Article
271	Ueda A, Sakai N,	肝胆膵外科	Is hepatic artery coil embolization useful in distal pancreatectomy with en bloc celiac axis resection for locally advanced pancreatic cancer?	World J Surg Oncol. 2019;17;17(1):124. doi: 10.1186/s12957-019-1667-8.	Original Article
272	Konishi T,	肝胆膵外科	Liver repair and regeneration after ischemia-reperfusion injury is associated with prolonged fibrosis.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 2019;316:G323-G331.	Original Article
273	Konishi T,	肝胆膵外科	Cell-Specific Regulatory Effects of CXCR2 on Cholestatic Liver Injury.	Liver Physiol. 2019;317:G773-G783.	Original Article
274	Keishi Kawasaki,	肝胆膵外科	Development and validation of a nomogram predicting postoperative pneumonia after major abdominal surgery.	Surg Today. 49(9); 769-777, 2019.	Original Article
275	Takahashi M, Yoshitomi H,	肝胆膵外科	A case of successfully resected metachronous gastric and gallbladder metastases from pancreatic body cancer.	Surg Case Rep 5:21,2019.	Case report
276	Yokota T, Takano S,	肝胆膵外科	Successful treatment of a locally advanced unresectable pancreatic cancer patient with interstitial pneumonitis by conversion surgery following gemcitabine plus nab-paclitaxel chemotherapy: A case report.	Mol Clin Oncol. 2019 Apr;10(4):419-424.	Case report
277	Ishigami E, Sakakibara M, Sakakibara J, et al.	乳腺・甲状腺外科	Coexistence of regulatory B cells and regulatory T cells in tumor-infiltrating lymphocytes aggregates is a prognostic factor in patients with breast cancer.	Breast Cancer 2019, 26: 180-189.	Original Article
278	Masuda T, Fujimoto H, Teranaka R, et al.	乳腺・甲状腺外科	Anti-HER2 antibody therapy using gene-transduced adipocytes for HER2-positive breast cancer.	Breast Cancer Res Treat. 2020; 180: 625-634.	Original Article
279	Ota J, Yokota H, Takishima H et al.	放射線部	Breast exposure reduction using organ-effective modulation on chest CT in Asian women	European Journal of Radiology (2019) 119	Original Article
280	Matsumoto K, Yokota H, Mukai H et al.	放射線部	Coronary vessel wall visualization via three-dimensional turbo spin-echo black blood imaging in Kawasaki disease	Magnetic Resonance Imaging (2019) 62 159-166	Original Article
281	Ailiken G, Kitamura K, Hoshino T, et al.	検査部	Post-transcriptional regulation of BRG1 by FIR Δ exon2 in gastric cancer.	Oncogenesis. 2020 Feb 18;9(2):26	Original Article
282	Yao Y, Nishimura M, Murayama K, et al.	検査部	A simple method for sequencing the whole human mitochondrial genome directly from samples and its application to genetic testing.	Sci Rep. 2019 Nov 22;9(1):17411.	Original Article
283	Tsuchida S, Murata S, Miyabe A, et al.	検査部	An in-house centrifugation and membrane filtration technique for identifying microorganisms from positive blood culture bottles with high identification rates using matrix-assisted laser desorption ionization-Time-of-flight mass spectrometry: A preliminary report.	J Infect Chemother. 2020 Mar;26(3):266-271.	Original Article
284	Ishige T, Itoga S, Kawasaki K, et al.	検査部	Multiplex PCR and multicolor probes melting for the simultaneous detection of five UGT1A1 variants.	Anal Biochem. 2019 Dec 15;587:113448	Original Article
285	Ishige T, Itoga S, Kawasaki K, et al.	検査部	Evaluation of analytical factors associated with targeted MEFV gene sequencing using long-range PCR/massively parallel sequencing of whole blood DNA for molecular diagnosis of Familial Mediterranean fever.	Clin Chim Acta. 2019 Aug;495:562-569	Original Article
286	Kobayashi S, Hiwasa T, Ishige T, et al.	検査部	Anti-FIR Δ exon2, a splicing variant form of PUF60, autoantibody is detected in the sera of esophageal squamous cell carcinoma.	Cancer Sci. 2019 Jun;110(6):2004-2013	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
287	Kazuki Yoshida, Tai Sekine, Noriko Suzuki-Eguchi, et al.	検査部	Three-Dimensional Echocardiography Reveals Extensive Congenital Anterior Tricuspid Valve Prolapse	CASE (Phila). 2020 Feb 12;4(3):130-135.	Original Article
288	Shikino K, Ito S, Ohira Y 他	総合医療教育研修センター	Usefulness of a short-time training seminar on how to handle difficult patients in simulated education.	Adv Med Educ Pract. 2019;10:483-491.	Original Article
289	Shikino K, Suzuki S, Hirota Y 他	総合医療教育研修センター	Effect of iExaminer teaching method on fundus examination skills: A randomized controlled trial	JAMA Network Open, 2, e1911891, 9 4 2019	Original Article
290	Hidetaka Yokoh, Shoichi Ito	総合医療教育研修センター	Effective reflection through near-peer education.	The clinical teacher 17(1) 113 - 114 2020年2月	Original Article
291	Hajime Kasai, Shoichi Ito, Hiroshi Tajima 他	総合医療教育研修センター	The positive effect of student-oriented clinical clerkship rounds employing role-play and peer review on the clinical performance and professionalism of clerkship students.	Medical teacher 42(1) 73 - 78 2020年1月	Original Article
292	Shikino K, Ito S, Ohira Y 他	総合医療教育研修センター	Usefulness of a short training seminar on how to handle difficult patients in simulated education.	Adv Med Educ Pract, 10, 483-491, 10 July 2019	Original Article

計6件

合計292件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、または et al. とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of print や in press の掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Others から一つを選択すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Nishikimi K, Tate S, Kato K, Matsuoka A, Shozu M.	婦人科・産産期母性科	Well-trained gynecologic oncologists can perform bowel resection and upper abdominal surgery safely.	J Gynecol Oncol. 2020 Jan;31(1):e3.	Original Article
2	Mitsuhashi A, Habu Y, Kobayashi T, Kawarai Y, Ishikawa H, Usui H, Shozu M.	婦人科・産産期母性科	Long-term outcomes of progestin plus metformin as a fertility-sparing treatment for atypical endometrial hyperplasia and endometrial cancer patients.	J Gynecol Oncol. 2019 Nov;30(6):e90.	Original Article
3	Sato A, Usui H, Shozu M.	婦人科・産産期母性科	Comparison between vacuum aspiration and forceps plus blunt curettage for the evacuation of complete hydatidiform moles.	Taiwan J Obstet Gynecol. 2019 Sep;58(5):650-655.	Original Article
4	Usui H, Nakabayashi K, Maehara K, Hata K, Shozu M.	婦人科・産産期母性科	Genome-wide single nucleotide polymorphism array analysis unveils the origin of heterozygous androgenetic complete moles.	Sci Rep. 2019 Aug 29;9(1):12542.	Original Article
5	Shimomura I, Abe M, Li Y, et al.	総合診療科	Pulmonary Hypertension Exacerbated by Nintedanib Administration for Idiopathic Pulmonary Fibrosis	Intern Med. 2019 April; 58(7): 965-968	Case report

計5件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無

手順書の主な内容

臨床研究の審査は臨床研究倫理審査委員会が附属病院に設置されており、それぞれ規程と手順書が整備されている。手順書には、医薬品・医療機器の臨床試験等に関わる業務手順が示されている。ネットワークとしての中央倫理審査委員会機能を果たすことができる手順となっている。また、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に対応した倫理学・法律学の専門家、一般の立場から意見を述べることのできる委員が適切に指名された構成となっている。

なお、臨床研究法下で実施される特定臨床研究を審査する認定臨床研究審査委員会が千葉大学により、附属病院に設置されている。

1. 千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会規程

千葉大学医学部附属病院（以下「病院」という。）で行われるヒトを対象とした研究（以下「研究」という。）について、次の各号に掲げる宣言及び指針の趣旨に沿って人間の尊厳及び人権を尊重し、社会の理解と協力を得て適正な研究を実施するため、その審査に当たることを目的として千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会（以下「委員会」という。）を置く。

一 ヘルシンキ宣言（1964年世界医師会採択，2000年世界医師会修正）

二 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）

2. 千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会運営手順書

千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会規程の定めるところにより、千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会（以下「委員会」という。）の運営方法を定め、医薬品の臨床試験等に関わる業務手順を示す。本委員会は、本院においてヒトに対して安全性が確認されている医薬品および医療機器の臨床試験又は臨床使用（以下、臨床試験及び臨床使用を一括して「臨床試験等」という。）を行うことの適否および継続して行うことの適否等について、ヘルシンキ宣言と人を対象とする医学系研究に関する倫理指針等に基づいて審査する。

3. 千葉大学医学部附属病院自主臨床試験取扱手順書

国立大学法人千葉大学医学部附属病院（以下「本院」という。）における研究者が主導して行う医薬品及び医療機器の臨床試験（自主臨床試験；以下「臨床試験」という。）及び未承認薬等の臨床使用（以下、臨床試験と併せて「臨床試験等」という。）の実施に際しての遵守事項並びに適正な実施に必要な手続きと運用に関する事項を定める。

本手順書は、臨床試験を実施するにあたり、ヘルシンキ宣言及び「臨床研究に関する倫理指針（平成16年12月28日改正）」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年12月22日）」、並びに「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令（平成9年厚生省令第28号）」及び「医療機器の臨床試験の実施の基準に関する省令（平成17年厚生労働省令第36号）」（以下「GCP」という。）等に基づき、被験者の人権、安全及び福祉の保護のもとに、臨床試験の科学的妥当性と成績の信頼性を確保するために最低限遵守すべき事項を示したものであり、本院の臨床研究倫理審査委員会で審査を行う臨床試験等に対して適用する。

③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11回
----------------	-------

(注) 1 倫理審査委員会については、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

認定臨床研究審査委員会における特定臨床研究の審査体制

①認定臨床研究審査委員会の設置状況		(有)・無		
認定年月日：平成30年3月30日				
定期的な開催について： 毎月第3月曜日 実績 14回 開催 (平成30年4月16日，5月21日，6月18日，7月17日，8月6日，9月18日，10月15日，11月19日，12月17日，令和元年1月21日，2月18日，2月25日，3月4日，3月11日)				
委員，技術専門員及び運営に関する事務を行う者に対する教育又は研修の機会及び受講歴の管理について： 1 病院長は委員会の委員，技術専門員及び運営に関する事務に従事する者が研究倫理，法の理解，研究方法，審査及び関連する業務に関する教育・研修を継続して受けることを確保するための必要な措置を講じる。なお，研修は倫理審査委員会委員研修会又は臨床研究に関する特別セミナーとし，1年間に3時間以上の受講を必須とし，受講歴を管理している。 2 外部の技術専門員を委嘱する場合には，当該施設で定められた研修を受講済みであることを確認する。				
前年度の審査件数：				
	臨床研究法に規定する特定臨床研究		臨床研究法に規定する特定臨床研究以外の臨床研究	
	研究責任医師（多施設共同研究の場合は研究代表医師）が自施設に所属する研究	研究責任医師（多施設共同研究の場合は研究代表医師）が他の医療機関に所属する研究	研究責任医師（多施設共同研究の場合は研究代表医師）が自施設に所属する研究	研究責任医師（多施設共同研究の場合は研究代表医師）が他の医療機関に所属する研究
新規	23件 うち経過措置 20件	0件	1件	0件
変更	13件	0件	2件	0件
定期	0件	0件	0件	0件
疾病等報告	1件	0件	0件	0件
中止	0件	0件	0件	0件
終了	0件	0件	0件	0件

その他	0件	0件	0件	0件
-----	----	----	----	----

- (注) 1 認定臨床研究審査委員会に係る前年度の収支が分かる書類を添付すること。
 2 審査意見業務に関して徴収する手数料が自施設と他の医療機関とで差額を設けている場合についてはその妥当性が分かる書類についても別途添付すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無

利益相反に関する審査の質の向上に向けた取組：

1. 利益相反委員会は、千葉大学医学部附属病院各種委員会規程により設置され、千葉大学医学部附属病院における利益相反ポリシーおよびマネジメント規程が定められている。利益相反管理手順は、はじめに臨床研究実施者が、研究ごとに「臨床研究の利益相反に関する自己申告書」を臨床研究実施計画書と共に病院長に提出する（マネジメント規程第4条(1)）。次に、利益相反委員会は、申告書により利益相反の存在が明らかな場合（自己申告書詳細に記入されている場合）、臨床研究実施計画書に照らし合わせて適正な臨床研究が実施可能かどうかを審議し、必要と認められた場合は対象者に助言・指導・勧告等を行う（マネジメント規程第5条(1)）。病院長は、「千葉大学医学部附属病院臨床研究に関する利益相反委員会 フローチャート」に従い、利益相反委員会の審査後、臨床研究倫理審査委員会へ審査を依頼する（マネジメント規程 別添1）。

2. VART事案をうけ、以下に示す利益相反に関する取組を実施した。

- (1) 当院の利益相反マネジメントについては利益相反に関する自己申告書の書式を再検討し、研究資金について記載内容の全面的な整備を行った。
- (2) 特定の臨床研究を目的とした企業からの奨学寄附金の受け入れ禁止を本院執行部会で決定し、これに基づき、研究資金としてこのような資金を元にした研究の実施を認めていない。
- (3) 産学連携において臨床試験を実施する場合には、企業との契約研究として本院病院長との契約のもとに実施がされることが本院として平成25年10月に決定されている。個別の案件についての契約は、附属病院経営企画課研究推進室研究推進係が行い、資金の管理は附属病院管理課経理係および用度係で行っている。
- (4) 平成28年5月から7月に臨床研究に携わるすべての職員及び委員会委員を対象とした特別セミナーを4回開催し、関係者すべての受講を必須とした。講師として谷内一彦先生等の専門家を招聘した。また、毎回、参加者を対象に理解度確認テストを実施し、セミナー受講者の理解度を確認した。本取組みについては、毎年度特別セミナーとして同様に開催予定であり、本セミナーは医療安全管理システムの中で、DVDセミナーやe-ラーニングを利用し、すべての関係職員に受講を義務付ける。

データの管理の第三者性の確保のためにすべての臨床試験のデータの管理は、研究者とは独立し臨床試験部データマネジメント室、データセンターにおいて行うものとし、利益相反のマネジメント体制を確保した。

規程・手順書の主な内容：

1. 国立大学法人千葉大学利益相反委員会規程

国立大学法人千葉大学に、本学利益相反マネジメントポリシーに基づき、本学の役員及び職員に係る利益相反に適切に対処するとともに利益相反に関する重要事項を審議するため、利益相反委員会を置き、次に掲げる事項を審議する。

- 一 利益相反マネジメントポリシーに関すること。
- 二 利益相反ガイドラインに関すること。
- 三 利益相反防止に関する施策及び啓蒙活動に関すること。
- 四 利益相反に関する調査及び審査に関すること。
- 五 その他利益相反に関する重要事項

本規程第9条に、「臨床研究に係る利益相反委員会については、別に定める」ことが規定されている。

2. 千葉大学医学部附属病院各種委員会規程及び別表 常置委員会

千葉大学医学部附属病院各種委員会規程第3条に基づく常置委員会として、別表 常置委員会のとおり、①臨床研究に係る利益相反ポリシーに関する事項、②臨床研究に係る利益相反マネジメントに関する事項、③臨床研究に係る利益相反防止に関する施策及び啓発活動に関する事項、④臨床研究に係る利益相反に関する調査及び審査に関する事項、⑤その他臨床研究に係る利益相反に関する重要事項を所轄する。

3. 千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー

本ポリシーは平成17年9月に制定され、臨床研究を行う研究者と関係者、被験者、大学などを取り巻く利益相反の存在を明らかにすることによって、被験者の保護を最優先としつつ、大学や研究者などの正当な権利を認め社会の理解と信頼を得て、大学の社会的信頼を守り、臨床研究の適正な推進を図る。

4. 千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反マネジメント規程

千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反の取扱い・マネジメントは、国立大学法人千葉大学利益相反委員会規程第9条に基づき、千葉大学医学部附属病院臨床研究に関する利益相反委員会を設置し、千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー、臨床研究の利益相反ポリシー策定に関するガイドライン（平成18年3月文部科学省）、厚生労働科学研究における利益相反（Conflict of Interest：COI）の管理に関する指針（平成20年3月31日科発第0331001号厚生科学課長決定）並びに法令又はこれに基づく特別の定めによるほか、この規程の定めるところによる。

本規程第4条（管理の手続き）及び第5条（管理の実施）に従い、臨床研究実施者（必要に応じて臨床研究関係者）は臨床研究の利益相反に関する自己申告書を臨床研究実施計画書と共に病院長に提出し、利益相反委員会において審査並びにマネジメントを行う。利益相反委員会の審査結果を臨床研究倫理審査委員会に報告し、臨床研究倫理審査委員会の審査結果も踏まえて、利益相反管理も含めて審査を行っている。

5. 臨床研究の利益相反に関する自己申告書

臨床研究実施者及び倫理審査委員会の委員等は、臨床研究に関する利益開示を受ける委員会として規定されている利益相反委員会に利益相反に関する自己申告書を提出し、適切なマネジメント受け、必要な場合には試験実施計画書を変更する。

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況

年 11回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 7回
<p>研修の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ 臨床研究入門講義 2回 「臨床試験の手続き、臨床試験・同意説明文書の作成」「研究倫理・説明と同意、医学研究における利益相反」・ 臨床研究に関する特別セミナー 2回 「COI—COI管理ガイドライン改訂と最近の動向」「ヒト倫理指針と臨床研究法」・ 倫理審査委員会研修会 3回 「院内での手続きについて、関連指針・規制等について、研究参加者への同意説明について」「臨床試験の実施時に必要な手続き—特定臨床研究、先進医療、再生医療、医師主導治験の実施にあたって—」「臨床研究におけるインフォームドコンセント—研究倫理の視点から—」	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

(目的と特徴)

- 初期研修を修了した医師・歯科医師が臨床医学系専門領域の専門医を取得する
- 2年間の卒後研修を含む新しい枠組みでの専門医を取得できるプログラム
- 内科、外科の場合は内科認定医・認定内科専門医、外科専門医を取得できると共に、さらにサブスペシャリティの専門医を取得できるプログラム

(研修期間)

- 研修期間は3～5年（卒後研修：2年を含まない）原則として各専門領域の専門医取得に定められた期間

(到達目標)

- 専門医としての患者ケアのための臨床能力を身につける
- 専門医としての患者ケアのための知識の習得と応用が出来る
- 診療経験を振り返り臨床能力を向上させることが出来る
- 必要かつ十分なコミュニケーション能力を示すことが出来る
- 医師としてのプロフェッショナリズムを身につける
- 家族・地域・制度などの医療資源を理解し活用することが出来る
- 指導医としての教育的役割を果たすことが出来る
- 臨床研究の意義を理解し倫理原則にしたがって研究を行うことが出来る

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	128人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
加藤 直也	消化器内科	科長(教授)	33年	
堺田 恵美子	血液内科	科長(診療教授)	25年	
浅沼 克彦	腎臓内科	科長(教授)	24年	
中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	科長(教授)	31年	
横手 幸太郎	糖尿病・代謝・内分泌内科	病院長・教授	31年	
小林 欣夫	循環器内科	科長(教授)	31年	
小林 欣夫	冠動脈疾患治療部	部長(教授)	31年	
坂尾 誠一郎	呼吸器内科	科長代理(准教授)	26年	
桑原 聡	脳神経内科	科長(教授)	35年	
生坂 政臣	総合診療科	科長(教授)	34年	
並木 隆雄	和漢診療科	科長(診療教授)	34年	
猪狩 英俊	感染症内科	科長(診療教授)	31年	
滝口 裕一	腫瘍内科	科長(教授)	36年	
松宮 護郎	心臓血管外科	科長(教授)	33年	

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松原 久裕	食道・胃腸外科	科長（教授）	35年	
大塚 将之	肝胆膵外科	科長（教授）	31年	
長嶋 健	乳腺・甲状腺外科	科長（診療教授）	31年	
吉野 一郎	呼吸器外科	科長（教授）	32年	
菱木 知郎	小児外科	科長（教授）	26年	
滝口 裕一	臨床腫瘍部	部長（教授）	36年	
磯野 史朗	麻酔・疼痛・緩和医療科	科長（教授）	35年	
市川 智彦	泌尿器科	科長（教授）	32年	
大鳥 精司	整形外科	科長（教授）	25年	
山本 修一	眼科	科長（教授）	36年	
松江 弘之	皮膚科	科長（教授）	32年	
花澤 豊行	耳鼻咽喉・頭頸部外科	科長代理（准教授）	30年	
三川 信之	形成・美容外科	科長（教授）	28年	
伊豫 雅臣	精神神経科	科長（教授）	35年	
岩立 康男	脳神経外科	科長（教授）	36年	
生水 真紀夫	婦人科・周産期母性科	科長（教授）	38年	
藤井 克則	小児科	科長代理（講師）	29年	
宇野 隆	放射線科	科長（教授）	31年	
中田 孝明	救急科	科長（教授）	20年	
安部 隆三	集中治療部	部長（准教授）	20年	
浅沼 克彦	人工腎臓部	部長（教授）	24年	
村田 淳	リハビリテーション科	科長（診療教授）	33年	
伊豫 雅臣	こどものこころ診療部	部長（教授）	35年	
松下 一之	検査部	部長（診療教授）	31年	
池田 純一郎	病理診断科・病理部	科（部）長（教授）	17年	
加藤 順	内視鏡センター	センター長（准教授）	26年	
鶴澤 一弘	歯科・顎・口腔外科	科長代理（准教授）	30年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

医師1～2名（例：指導医、研修医）、看護師2～3名（例：熟練、中堅、新人看護師）、他職種でチームを形成し、1～2チームがあらかじめ作成したシナリオ（1～2種類）にもとづいてシミュレーション実習を行う。シミュレーターはSimMan 3G、SimBaby、HPSを用いる。シナリオ内容は作成者およびセミナー管理者にのみ知らされ、実習参加者はシナリオの内容を知らずに急変対応を行っていく。実習の様子はビデオモニターで撮影・記録され、上記チーム以外の参加者はその映像をリアルタイムで観察する。実習終了後、記録ビデオを参考にしながら、全参加者でデブリーフィング（振り返り）を行う。

・研修の期間・実施回数

3回／年

・研修の参加人数

46名／回

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

「新任看護師長研修」病院及び看護部運営の実際と看護管理

病院・看護部組織と運営、人事・労務管理、人材確保、人材育成、看護業務の進め方、看護の質保証、看護と経営、医療安全、部署の看護管理に活かすため、他部署・他部門、他施設の見学研修

・研修の期間・実施回数

「新任看護師長研修」平成31年4月9日、15日、19日

5月13日、17日、20日、24日、31日

7月2日、12日

9月6日 計11回

・研修の参加人数

「新任看護師長研修」14名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 横手 幸太郎
管理担当者氏名	企画情報部長 鈴木 隆弘 医療安全管理部長 相馬 孝博 臨床工学センター長 磯野 史朗 管理課長 鈴木 一雄 医療サービス課長 鹿倉 敏則 薬剤部長 石井 伊都子 感染制御部長 猪狩 英俊 総務課長 竹本 浩伸 医事課長 富永 吉司

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	企画情報部 医療サービス課
		看護記録	企画情報部 医療サービス課
		検査所見記録	企画情報部 医療サービス課
		エックス線写真	企画情報部
		紹介状	企画情報部 医療サービス課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	企画情報部 医療サービス課
		管理担当者は、病院日誌を所管部門の施錠可能な場所(キャビネット等)で保管・管理している。また、事務LAN内に電子ファイルもあわせて保存している。	
		診療録の外部持出は認められていない。やむを得ない事情がある場合は情報セキュリティ対策会議の審議が必要	
		外来診療録と入院診療録に分けて、外来診療録は一患者ごと、入院診療録は一患者一入院ごとに管理している。紙診療録及び電子カルテ(総合病院情報システム)は、入退室管理された診療録保管庫(サーバー室を含む)で保管している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課 医療サービス課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療サービス課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	医療サービス課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課 薬剤部
	規則第十一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課医療安全室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課医療安全室
		管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所(キャビネット等)で保管・管理している	

		保管場所	管理方法
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課医療安全室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部 医事課医療安全室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所（キャビネット等）で保管・管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課 医事課医療安全室	管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所（キャビネット等）で保管・管理している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課 医事課医療安全室	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課 医事課医療安全室	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課 医療サービス課	
		医療安全管理部門の設置状況	医事課医療安全室	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全室	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全室	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部 医事課医療安全室	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課医療安全室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課医療安全室	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課 監査室（大学）	
		職員研修の実施状況	医事課医療安全室	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課、管理課 医事課医療安全室 薬剤部	
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 横手 幸太郎		
閲覧担当者氏名	総務課長	竹本 浩伸	管理課長 鈴木 一雄
	経営企画課長	正木 純一	研究推進課長 大塚 隆司
	医事課長	富永 吉司	医療サービス課長 鹿倉 敏則
閲覧の求めに応じる場所	患者相談室		
閲覧の手続の概要			
病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧したい旨の申し出があった場合、閲覧希望のあった諸記録を所掌する閲覧担当者が閲覧責任者に確認の上、患者相談室において求めに応じる。			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 1. 基本的な考え方 2. 病院長の責務 3. 医療安全に関する組織と取組 4. 医療安全管理のための職員研修 5. 医療上の事故等の報告 6. 医療上の事故等発生時の対応 7. 患者等への当該基本方針の閲覧 8. 患者からの相談への対応 9. その他の医療安全推進への対応 10. その他 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： 1. 病院において重大な問題やその他委員会において取扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。 2. 上記の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに病院職員への周知に関すること。 3. 上記の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。 4. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 5. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 6. 4. 及び5. の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関すること。 7. その他医療安全管理に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： 1. 第1回安全セミナー 令和1年6月18日～6月20日（LIVE講演）、7月3日～7月24日（DVD上映） ● 「求められる情報とリテラシー」「周術期抗菌薬の供給不安定の説明」 「職業感染対策とワクチン接種について」「みんなでNEWS！」 	

2. 第2回安全セミナー

令和1年11月19日(LIVE講演)、11月27日～11月28日(DVD上映)

- 「「はしか(麻疹)の患者さんが来たら!」「情報の保護・管理に関する最新情報」「画像診断に係る確認不足への対応」「除細動・AEDの安全使用」「安全なMRI検査と病室ポータブル撮影をめざして」

3. 第3回安全セミナー

令和2年1月15日(LIVE講演)、1月22日～1月23日(DVD上映)

- 「薬剤耐性菌対策は人類の課題」「求められる情報モラルとリテラシー part2」「Vol.1 説明・同意文書の「良い例」「悪い例」「Vol.2 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じたら?」「臨床と研究のボーダーライン」「麻薬の使用と管理方法の再確認を!」

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)

- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

1. 医療上の問題

- ◆「千葉大学医学部附属病院インシデント及び医療上の事故発生時の対応に関する取扱要項」に則り、インシデントが発生した場合はインシデント管理システム(Safe Master)により速やかに報告され、部署リスクマネージャー及び医療安全管理部員が内容を把握する。インシデントの詳細な情報は、部署リスクマネージャーが確認し、収集する。ゼネラルリスクマネージャーは報告内容に応じて当該部署に出向き、当事者及び関係者から情報を収集する。

2. 分析

- ◆各部署では当該部署のリスクマネージャーが中心となり、RCAなどの分析手法を活用し、分析する。医療安全管理部ではゼネラルリスクマネージャーが部署への分析手法の指導・支援を行う。

3. 改善策の検討

- ◆リスクマネジメント会議で多職種により改善策について検討を行い、医療の質・安全管理委員会で決定する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な考え方 2. 委員会、その他組織に関すること 3. 院内感染対策のための研修等 4. 感染症の発生状況及び抗菌薬使用状況の報告 5. 院内感染発生時の対応 6. 患者等への当該基本方針の閲覧 7. その他の院内感染対策推進への対応 8. その他 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染の実態把握のための調査及び点検に関すること。 2. 院内感染予防策の立案にかんすること。 3. 院内感染発生時の対策に関すること。 4. 職員に対する院内感染予防対策の教育に関すること。 5. 院内感染予防対策マニュアルの作成及び改訂に関すること。 6. その他院内感染予防対策に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回安全セミナー 令和1年6月18日～6月20日（LIVE講演）、7月3日～7月24日（DVD上映） ●「求められる情報とリテラシー」「周術期抗菌薬の供給不安定の説明」「職業感染対策とワクチン接種について」「みんなでNEWS！」 2. 第2回安全セミナー 令和1年11月19日（LIVE講演）、11月27日～11月28日（DVD上映） ●「「はしか（麻疹）の患者さんが来たら！」「情報の保護・管理に関する最新情報」「画像診断に係る確認不足への対応」「除細動・AEDの安全使用」「安全なMRI検査と病室ポータブル撮影をめざして」 3. 第3回安全セミナー 令和2年1月15日（LIVE講演）、1月22日～1月23日（DVD上映） ●「薬剤耐性菌対策は人類の課題」「求められる情報モラルとリテラシーpart2」「Vol.1 説明・同意文書の「良い例」「悪い例」「Vol.2 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じたら？」「臨床と研究のボーダーライン」「麻薬の使用と管理方法の再確認を！」 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p>	

1. ICT活動

- ・ ICTラウンド（週1回）と報告
- ・ Weeklyラウンド
- ・ 月間ラウンド（MRSA・MDRP・CREを対象（月1回）と報告
- ・ 分離菌報告

2. AST活動

- ・ 血液培養陽性患者のモニター
- ・ 診療コンサルテーション報告
- ・ 抗菌薬の許可制
- ・ 特定薬剤使用状況報告
- ・ ASTラウンド

3. 感染制御部・事務職員・清掃業者による環境清掃ラウンド（月2回）と報告

4. 職員感染対策

- ・ 針刺し・切創、血液・体液曝露外来の実施
- ・ 職員の抗体検査と予防接種の実施
- ・ 病院職員・外部委託業者に対するワクチン接種

5. 医療関連感染サーベイランスの実施とフィードバック

- ・ カテーテル関連血流感染（血液内科）
- ・ 手術部位感染（肝胆膵外科、食道・胃腸外科）
- ・ 人工呼吸器関連イベントサーベイランス
- ・ 手指衛生サーベイランス（払い出し量からみた手指衛生指数・直接観察法）

6. 感染防止対策の地域連携に関する活動

- ・ 感染防止対策地域連携加算に係る相互チェックの実施（連携医療機関と相互に年1回ずつ）
- ・ 感染防止対策加算に係るカンファレンスの開催（連携医療機関と年6回）
- ・ 院内感染地域支援ネットワーク事業と連携した地域の感染対策向上を目的とした活動（研修会
- ・ アウトブレイク支援・感染対策相談等）
- ・ 行政との広域感染症を想定した（MERS机上訓練、新型インフルエンザ）対応訓練

7. アウトブレイク発生時の対応と終息に向けた対策

8. 手指消毒剤個人携帯の推奨や手指衛生サーベイランスの結果報告や手指衛生指導等、手指衛生啓発活動

9. 国公立大学附病院感染対策協議会における活動（感染対策相互チェック）

10. 新型コロナウイルス感染症対策

- ・ 対策本部を設置し院内感染対策を強化した
- ・ 行政との会議委員として会議等に参加した

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 新規採用ガイダンス（研修医を含む新規採用者対象） 平成31年4月1日 ・ 「薬剤部業務と医療安全」</p> <p>2. 新規採用ガイダンス（研修医を含む新規採用者対象） 平成31年4月3日 ・ 「抗がん薬の取扱いについて」</p> <p>3. 新人看護師研修（新人看護師対象） 平成31年4月5日、9日 ・ 「与薬－看護業務に必要な医薬品の知識－」</p> <p>4. 第3回医療安全セミナー 令和2年1月15日（LIVE講演）、1月22日～1月23日（DVD上映） ・ 「麻薬の使用と管理方法の再確認を！」</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>1. 医薬品の採用を審議する薬事委員会の開催及び適正運用の実施</p> <p>2. 医薬品の購入及び麻薬、向精神薬、毒薬、劇薬、嚴重管理薬、特定生物由来製品等の適正管理の実施</p> <p>3. 患者に対する安全な医薬品供給のための調剤、交付、過誤防止対策、薬剤管理指導等の実施</p> <p>4. 医薬品の情報の収集及び提供の実施</p> <p>5. 各部門における手順書に基づいた業務実施状況の確認 等</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>○縦隔内異所性副甲状腺腫瘍に対するメチレンブルー注射液0.5%10mLの使用</p> <p>○眼内新生血管疾患および黄斑浮腫に対するアバスチン硝子体注射</p>	

○腸管不全合併肝障害 (intestinal failure-associated disease:IFALD) に対する国内未承認薬
Omegaven の保険適応外使用について

○心臓移植のドナー心臓の心筋保護液 (心臓保存液celsior)

・ その他の改善のための方策の主な内容 :

未承認医薬品については臨床倫理審査委員会にて承認が得られたもののみを使用するルールをとり、当該委員会で審議するための必要情報を収集するなどの対応をしている。

院内製剤についても、日本病院薬剤師会の指針に則りクラス分類を導入し、クラスに応じた審査を取り入れている。また、使用後の評価も徹底する運用としている。

その他、医薬品の安全使用に係る医薬品情報は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者 (医薬品情報室長) から医薬品安全管理責任者への報告を行い、医薬品安全管理責任者から院内への周知を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 ・ 研修の主な内容： 人工呼吸器（4回）・輸液・シリンジポンプ（1回）・閉鎖式保育器（2回）・血液浄化装置（8回） 人工心肺及び補助循環装置（6回）・除細動器（2回） および新規導入の機器（12回）、年35回 診療用高エネルギー放射線発生装置（リニアック）の安全講習会（年2回） 診療用放射線照射装置（アフターローディング）の安全講習会（年2回）	年 39 回
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 ・ 医療機器に係る計画の策定（有・無） ・ 保守点検の主な内容： 診療用高エネルギー放射線発生装置（リニアック）、診療用放射線照射装置（アフターローディング）、生命維持管理装置（人工心肺および補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・徐細動器・閉鎖式保育器）、当院で定めた機器（CT・MRI・血管造影装置・核医学診断装置、輸液・シリンジポンプ・フットポンプ・生体情報モニタ 等）	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ・ 医療機器に係る情報の収集の整備（有・無） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療法施行規則第9条の23第1項第8号に則り、未承認医療機器については臨床倫理審査委員会にて承認が得られたもののみを使用するルールをとり、当該委員会で審議するための必要情報を収集するなどの対応をしている。 臨床工学技士を配置し、院内の安全管理部員を兼任とすることで、院内で起こった医療機器に関するインシデント等に早急に対応、安全管理部との共同配信文書として院内へ配信することができている。 また、全体で行う院内講習会のほか、インシデント発生等の際には原因を究明し、部署別・事例別の講習会を開催し、再発防止に努めている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	①・無
<p>・責任者の資格 (医師)・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>「千葉大学医学部附属病院における医療安全管理に関する基本方針」第2の1において、千葉大学医学部附属病院規程第6条第6項の規定により医療安全管理責任者に任命された副病院長は、医療安全管理部、医療の質・安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等を統括すると定めている。本院の医療安全管理責任者である常勤医師の副病院長は医療の質・安全管理委員会等に出席し組織的に医療事故防止について検討し、患者に安全・確実な医療を提供するため病院長と共に医療安全管理対策に取り組んでいる。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	① (9名)・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
<p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>「千葉大学医学部附属病院医薬品に関する安全管理規程」において、医薬品安全管理責任者は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者を指名し、医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知状況の確認を行わせることとしている。</p> <p>医薬品情報室長を実施担当者として指名し、病院における未承認等の医薬品の使用のための処方状況や、採用されている医薬品全般の医薬品の添付文書情報のほか、医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等からの情報を広く収集し、管理するとともに、得られた情報のうち必要なものは院内全教職員へメールにて周知を行っている。また、特に周知状況の確認が必要と思われる重要周知事項については、全職員がインシデントレポートシステムからログインして閲覧を行う事により、閲覧状況を確認できる方策をとっている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>「千葉大学医学部附属病院医薬品に関する安全管理規程」において、医薬品安全管理責任者は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者を指名し、未承認等の医薬品の使用に関し、当該未承認等の医薬品の使用状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果の共有を行わせることとしている。</p> <p>薬剤師ゼネラルリスクマネージャーを実施担当者として指名し、未承認新規医薬品等担当部門と連</p>	

携を取ること、院内における未承認新規医薬品等の使用の適否決定状況及び適正使用の確認を行っている。

・担当者の指名の有無 (有)・無

・担当者の所属・職種：

(所属：薬剤部，職種：薬剤師 (医薬品情報室長)) (所属：薬剤部，職種：薬剤師 (GRM))

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

(有)・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、

及び指導の主な内容：

説明・同意文書の新規作成・更新の際に、「病院として定めた必要項目が盛り込まれているか」について、診療情報管理委員会において確認され、承認された文書のみ使用する。また、当該確認の際、「説明を行う際の同席 (立会い) の必要がある」文書かどうか確認され、当該文書が使用された際には、説明内容に加え、同席の有無をも診療録に記載することとしている。

説明・同意文書に盛り込むべき必要項目、説明等の実施に必要な方法等については、全職員対象のセミナー等で教育を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

(有)・無

診療情報の適切な管理を行うために診療情報管理責任者を置き、診療情報管理委員会の委員長を兼ねる。なお、診療科等が保有する診療情報を管理するために診療情報責任者を置き、診療科等の長を充てている。

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

当院の診療情報管理規程に基づき、診療録等の記載内容の確認および診療録等の監査を行っている。

・診療情報管理士は、診療科等における診療録等の記載内容を確認し、必要に応じて記載方法を指導する。

・診療情報管理責任者は、診療科等が保有する診療録等を定期的に監査する。

・監査対象は、入院基本情報、入院診療計画書、患者に対する医療行為の説明に対する同意書、退院時サマリー、診療録等とする。

・監査結果は、診療情報責任者に対して報告するとともに、ホームページ等により院内に公表する。

・監査結果の報告を受けた診療情報責任者は、速やかに対策を講じ、その結果を診療情報管理責任者へ報告する。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

- ・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（24）名
 - うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（12）名
 - うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（2）名
 - うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（2）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. 医療の質・安全管理委員会に係る事務
2. 事故その他の医療安全管理部において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はとの家族への説明、当該事象の発生原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく病院職員への必要な指導
3. 医療に係る安全管理に係る連絡調整
4. 医療に係る安全の確保のための対策の推進
5. 医療安全の確保に資する診療状況のモニタリング
6. 全病院職員に対する医療安全に係る教育・研修の企画、実施及び医療安全に関する認識状況の確認
7. 各部署における医療安全対策の実施状況の評価に基づく、医療安全確保のための業務改善計画書の作成及びそれに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果の記録
8. 医療の質・安全管理委員会との連携状況、医療安全に係る職員研修の実績、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱いその他の医療安全管理者の活動実績の記録
9. 医療安全に係る取組み及びその評価を行うカンファレンスの実施
10. その他医療安全の推進に関すること

※診療状況のモニタリングとしては、医療の質・安全管理委員会へ転倒・転落発生率、損傷発生率、剖検率、Ai 実施率、デスカンファ実施率、手術出血量などを報告している。

※従業者の医療安全の認識についてのモニタリングについては、医療安全管理に係る全職員に対する研修を実施した際に、e-ラーニング等により理解度の把握を行っている

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療

に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

本院において高難度新規医療技術を用いて施行する医療行為を対象に、高難度新規医療技術の施行についての申請書や患者に対する同意説明文書を通じ、審査・評価している。承認後は、診療録等の記載内容を確認し、有害事象が生じた場合は速やかに報告を受ける。また、当該高難度新規医療技術が千葉大学医学部附属病院高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等取扱規程に基づいて使用されていたかどうかについても確認を行う。実施後は、完了や中止・中断の有無、有害事象の有無などの結果報告について文書にて報告を受ける。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（6件）、及び許可件数（6件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

本院において未承認新規医薬品等を用いて実施する医療行為を対象に、未承認新規医薬品等の使用についての申請書や患者に対する同意説明文書を通じ、審査・評価している。承認後は、診療録等の記載内容を確認し、有害事象が生じた場合は速やかに報告を受ける。また、当該未承認新規医薬

品等が千葉大学医学部附属病院高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等取扱規程に基づいて使用されていたかどうかについても確認を行う。実施後は、完了や中止・中断の有無、有害事象の有無などの結果報告について文書にて報告を受ける。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 493 件（全例）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 168 件

- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関する事。
2. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関する事。
3. 上記の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関する事。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：神戸大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：北海道大学病院）・無）

- ・技術的助言の実施状況

歯科の医療安全に関して、医療安全管理部の主要メンバーに歯科のスタッフがいないため、医療安全管理部と歯科との連携をより密にするなどの方策をとるよう助言を得た。これに対して、歯科医師 GRM を養成するため、歯科医師の医療安全管理者研修（40 時間研修）の履修を計画した。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口で受付を行い、医療安全管理に関する相談内容の場合は医療安全管理部に報告と相談し対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

第3回安全セミナー

令和2年1月15日（LIVE講演）、1月22日～1月23日（DVD上映）

- 「説明・同意文書の「良い例」「悪い例」「医療安全管理の適正な実施に疑義が生じたら？」

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・管理者（令和3年1月17日研修予定 2020年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）
- ・医療安全管理責任者（令和3年1月17日研修予定 2020年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）
- ・医薬品安全管理責任者（令和1年12月18日 2019年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）、（令和2年11月11日研修予定 2020年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）
- ・医療機器安全管理責任者（令和2年2月12日 2019年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）、（令和2年12月10日研修予定 2020年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構主催）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 一 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力 二 組織管理能力等の当該病院を管理運営する上で必要な資質及び能力 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 · 無) ・ 公表の方法 本学ホームページにて、選出基準を掲載している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 · 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 · 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 · 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 · 無) ・ 公表の方法 本学ホームページ及び本院ホームページにて、掲載している。 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
中谷 晴昭	千葉大学理事	○	学長が指名する者	<input checked="" type="radio"/> 有 · 無
松浦 晃幸	千葉大学理事・事務局長		学長が指名する者	<input checked="" type="radio"/> 有 · 無
中山 俊憲	千葉大学大学院医学研究院長		医学研究院長	<input checked="" type="radio"/> 有 · 無
三木 隆司	千葉大学大学院医学研究院教授		医学研究院選出委員	<input checked="" type="radio"/> 有 · 無
相馬 孝博	千葉大学医学部附属病院教授		医学部附属病院選出委員	<input checked="" type="radio"/> 有 · 無
入江 康文	千葉県医師会会長		学長が委嘱する学外の有識者	有 · <input checked="" type="radio"/> 無
手島 英男	税理士法人千葉中央会計事務所所長		学長が委嘱する学外の有識者	有 · <input checked="" type="radio"/> 無

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
矢島 鉄也	千葉県病院局長		学長が委嘱する学外の有識者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
箭内 博子	千葉大学医学部附 属病院看護部長		学長が必要と認める者	<input checked="" type="radio"/> 有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 病院規程その他規程等の制定改廃に関する事項 二 病院に関する将来計画，中期目標及び年度計画に関する事項 三 病院に関する予算の作成及び決算に関する事項 四 病院，診療科，中央診療施設その他の重要な組織の設置又は廃止に関する事項 五 執行部会において必要と判断された重要事項 六 その他病院の管理・運営・診療に関する重要事項 <p>・審議の概要の従業者への周知状況 議事要録を院内ホームページへ掲載している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・公表の方法 本学ホームページへ掲載している。</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 ((有)・無)</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
横手 幸太郎	○	医師	教授
吉野 一郎		医師	教授
磯野 史朗		医師	教授
加藤 直也		医師	教授
小林 欣夫		医師	教授
大塚 将之		医師	教授
中島 裕史		医師	教授
大鳥 精司		医師	教授
筋内 博子		看護師	看護部長
相馬 孝博		医師	教授

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
井上 貴裕		事務職員	特任教授
永田 昭浩		事務職員	事務部長
猪狩 英俊		医師	准教授
塚田 恵美子		医師	准教授
浅沼 克彦		医師	教授
小野 啓		医師	准教授
坂尾 誠一郎		医師	准教授
並木 隆雄		医師	准教授
瀧口 裕一		医師	教授
松宮 護郎		医師	教授
松原 久裕		医師	教授
長嶋 健		医師	准教授
市川 智彦		医師	教授
中田 孝明		医師	教授
山本 修一		医師	教授
松江 弘之		医師	教授
花澤 豊行		医師	教授
鶴澤 一弘		医師	准教授
三川 信之		医師	教授
村田 淳		医師	准教授
伊豫 雅臣		医師	教授
岩立 康男		医師	教授
桑原 聡		医師	教授
生水 真紀夫		医師	教授
藤井 克則		医師	講師
菱木 知郎		医師	教授
宇野 隆		医師	教授
池田 純一郎		医師	教授
生坂 政臣		医師	教授

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
松下 一之		医師	准教授
安部 隆三		医師	准教授
井関 徹		医師	講師
加藤 順		医師	准教授
田口 奈津子		医師	准教授
小林 英一		医師	講師
大曾根 義輝		医師	特任教授
清水 栄司		医師	教授
藤本 肇		医師	特任教授
鈴木 隆弘		医師	准教授
花岡 英紀		医師	教授
竹内 公一		医師	特任准教授
伊藤 彰一		医師	教授
本橋 新一郎		医師	教授
林 秀樹		医師	教授
花輪 道子		技術職員	特任教授
勝野 達郎		医師	准教授
藤田 伸輔		医師	教授
諏訪園 靖		医師	教授
石井 伊都子		薬剤師	教授

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（**有**・無）
- ・ 公表の方法
千葉大学医学部附属病院規程を本院ホームページへ掲載している。
千葉大学会計規程を本学ホームページへ掲載している。

- ・ 規程の主な内容
 - <病院規程>
 - 一 本院の目的
 - 二 病院長の権限（診療科長等の任命・解任権限など）
 - 三 本院の組織
 - 四 役職者等の任期及び業務内容等

 - <会計規程>
 - 一 会計に関する目的、概要等
 - 二 会計機関、予算、資金・資産管理等
 - 三 契約・決算
 - 四 予算管理責任者の権限（予算配分、予算執行）等

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - <副病院長>
副病院長は、経営、安全管理、広報などそれぞれの役割において、病院長の職務を補佐する。
副病院長は、病院長に事故あるときはその職務を代理し、病院長が欠員のときはその職務を行う。

 - <院長補佐>
病院長補佐は、病院長の指示する重要事項について企画・立案等を行う。

 - <企画スタッフ>
病院長企画室を設置し、病院経営及び運営に関する分析、企画及び立案を行う。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - <人事>
副病院長は、病院長が指名し、学長が任命する。病院長補佐は、病院長が任命する。
科長は、当該科に対応する医学研究院の研究領域又は当該科の教授のうちから、病院長が任命する。部長・センター長は医学研究院又は病院の教授のうちから病院長が任命する。

 - <研修>
国立大学附属病院長会議が主催する第2回病院経営次世代リーダー養成塾（2020年2月17日開催）に、副病院長及び副看護部長が参加し、大学病院の経営課題、財務会計等の経営全般についての講義聴講、及びグループディスカッションを行った。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容： 監事及び監査室との連携の下、次に掲げる病院業務について監査を行う。 一 医療に係る安全管理に関すること。 二 特定臨床研究の業務執行の状況に関すること。(※) 三 その他委員長が必要と認める病院業務に関すること。 (※) 医療安全の観点から、臨床研究中核病院の立入検査と同時開催としている。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法： 本学ホームページ及び本院ホームページにて、設置規程及び委員名簿（選定理由についても記載有）、監査結果報告書を掲載している。</p>	
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）	

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮坂 信之	東京医科歯科大学 学名誉教授	○	医療安全識見者か つ病院管理経験者	有 (無)	1
花輪 正明	塩野義製薬株式 会社薬事部長		臨床研究識見者	有 (無)	3
藤原 康弘	独立行政法人医 薬品医療機器総 合機構理事長		臨床研究識見者	有 (無)	3
東宮 秀夫	一般財団法人医 薬品医療機器レ ギュラトリーサ イエンス財団研 修事業本部長		臨床研究識見者	有 (無)	3

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宗像 令夫	独立行政法人 中小企業基盤 整備機構関東 本部千葉大亥 鼻イノベーション プラザチ ーフインキュ ベーションマ ネージャー		臨床研究識見者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3
中谷 晴昭	千葉大学理事		医療及び臨床研究 に関する学識経験 者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
後藤 弘子	千葉大学大学院 社会科学研究院 教授		法律学専門家	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

千葉大学監事監査において、管理者の業務が法令に適合することを確認・指導する。

・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法

本学ホームページにて、関係規程を掲載している。

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 千葉大学役員会において附属病院の業務の監督を行っている。 ・ 会議体の実施状況（年24回 ※うち13回は臨時開催） ※うち定例開催時に、病院の業務監督を行う。 ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年14回 ※うち4回は臨時） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ 公表の方法 本学ホームページにて、関係規程を掲載している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年0件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 ポスター掲示や院内ホームページで周知している

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本適合性認定協会 2017年3月1日～2017年3月2日 一般社団法人Medical Excellence JAPAN 2016年9月21日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページや広報誌、パンフレット等において、特定機能病院としての役割についてわかりやすく案内している。 また、各診療科の診療実績を公表するなど、患者さんや地域に向けた情報発信を積極的に行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	

(様式第 8)

千大院サ第 981 号
令和 2 年 9 月 16 日

厚生労働大臣

殿

国立大学法人千葉大学
徳久剛

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画につ

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

- ・管理者：令和 3 年 1 月 17 日「2020 年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人日本医療機能評価機構主催）」受講予定。
- ・医療安全管理責任者：令和 3 年 1 月 17 日「2020 年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人日本医療機能評価機構主催）」受講予定。
- ・医薬品安全管理責任者：令和 1 年 12 月 18 日「2019 年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人日本医療機能評価機構主催）」受講。令和 2 年 11 月 11 日「2020 年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人日本医療機能評価機構主催）」受講予定。
- ・医療機器安全管理責任者：令和 2 年 2 月 12 日「2019 年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人日本医療機能評価機構主催）」受講。令和 2 年 12 月 10 日「2020 年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人日本医療機能評価機構主催）」受講予定。

2. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（24）名
 - うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（12）名
 - うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（2）名
 - うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（2）名
- ※その他臨床工学技士、臨床検査技師、診療放射線技師、管理栄養士、事務職員等を配置

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

- ・医師、看護師、薬剤師の専従職員を配置済み。